

# 平成 22 年度 体育センター長期研修研究報告

## イメージをとらえた創作ダンス

—表現形式を取り入れた授業づくり—



神奈川県立体育センター  
長期研究員

県立横浜清陵総合高等学校 橋本 晴子

# 目次

## 第1章 研究を進めるにあたって

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の目的	1
4	研究の仮説	2
5	研究の内容と方法	2
6	研究の構想図	3

## 第2章 理論の研究

1	学習指導要領・学習指導要領解説について	4
2	ダンスについて	8
3	表現形式について	11
4	イメージをとらえるについて	21
5	見せ合いについて	22
6	相互評価について	23
7	グループ学習（グループワーク）について	23
8	スライド映像の活用について	23

## 第3章 検証授業

1	研究の仮説	24
2	検証の方法	24
3	学習指導計画	25
4	授業の実際	33
5	検証授業の結果と考察	43
6	指導の工夫とその効果及び課題	67
7	検証授業全体を振り返って	72

## 第4章 研究のまとめ

1	研究の成果と課題	73
2	今後の展望	73
3	最後に	74

### 【引用・参考文献】

# 第1章 研究を進めるにあたって

## 1 研究主題

イメージをとらえた創作ダンス  
ー表現形式を取り入れた授業づくりー

## 2 主題設定の理由

文部科学省中央教育審議会の答申を踏まえて、平成21年3月に高等学校学習指導要領が改訂され、これまでに引き続き「生きる力」を育むという理念を重要視し、これを実現するために、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視することとなった。そして、指導内容が体系化され、高等学校においては、中学校第3学年と高等学校入学年次、その次の年次以降というように、指導内容を2年間で段階的に考えることとなり、系統性のある指導ができるよう内容の明確化がなされた。

さて、これまでの私の創作ダンスの授業を振り返ってみると、多くの生徒が、「テーマや動きのイメージがもてない」「動くことに恥ずかしさがある」などの課題があり、イメージをとらえて自己を表現することに楽しさや喜びを味わう創作ダンスの特性に十分に触れることができない状況にあった。これは、ダンスの指導法の難しさや苦手意識を自分が感じていたため、これらの課題を解決するための手立てを生徒に対して十分にしていなかったことが原因だと考える。

ところで、テーマや動きのイメージを持つには、テーマを形容しているイメージを思い起こしたり、それを自分の感覚や感情としてとらえることが必要であり、それを一つの運動パターンとして表出できたときに、初めて表現することの楽しさや喜びを味わえるはずである。また、そうして表現できたものを、仲間と協調して意味ある動きに構成したり、作品として統一的に創り上げられたときに、創作ダンスの特性に深く触れることができるはずである。

この特性に触れるために、表現形式としての舞踊について、山田敦子は「舞踊の表現ー伝達の構造を、踊る人と観る人の身体の（感じ、考え、行動する主体）を含めた表現形式」<sup>1)</sup>として、「運動」、「変化」、「連続」、「構成」、「作品」の5段階でとらえている。また、松本千代栄は、ダンスの学習内容について「(1)『身体ー運動』、(2)『運動ー変化ー連続』、(3)『群ー構成』、(4)『主題ー構成ー作品』、(5)『作品ー上演』、というように課題化し螺旋のように循環漸進的に学習を進めていく」<sup>2)</sup> 学習方法の必要があると述べている。

よって本研究では、これらの舞踊の理論から創作ダンスの構造を「運動」、「変化」、「連続」、「構成」、「作品」ととらえ、学習過程にこれを設定し、「運動」、「変化」、「連続」の過程でテーマや動きのイメージをとらえる活動を行い、その後「構成」、「作品」を含めた過程で、仲間と作品を作り上げる活動を行うこととしたい。また、その学習活動を実践するための指導の工夫に取り組みたい。

こうした表現形式を取り入れた授業づくりをすることによって、生徒がイメージをとらえて、みんなで踊る楽しさや喜びを味わうことができるのではないかと考え、本主題を設定する。

## 3 研究の目的

本研究では、表現形式を取り入れることによって、イメージをとらえて踊る創作ダンスの授業実践に取り組み、ダンスの特性に触れる授業づくりの一助とする。

#### 4 研究の仮説

創作ダンスの授業において、表現形式を取り入れた授業づくりをすることによって、イメージをとらえて、みんなで踊る楽しさや喜びを味わうことができるだろう。

#### 5 研究の内容と方法

(1) 本研究を進めるにあたって、理論的裏付けを文献・資料を基に行う。

- ア 学習指導要領・学習指導要領解説について
- イ ダンスについて
- ウ 表現形式について
- エ イメージをとらえるについて
- オ 見せ合いについて
- カ 相互評価について
- キ グループ学習（グループワーク）について
- ク スライド映像の活用について

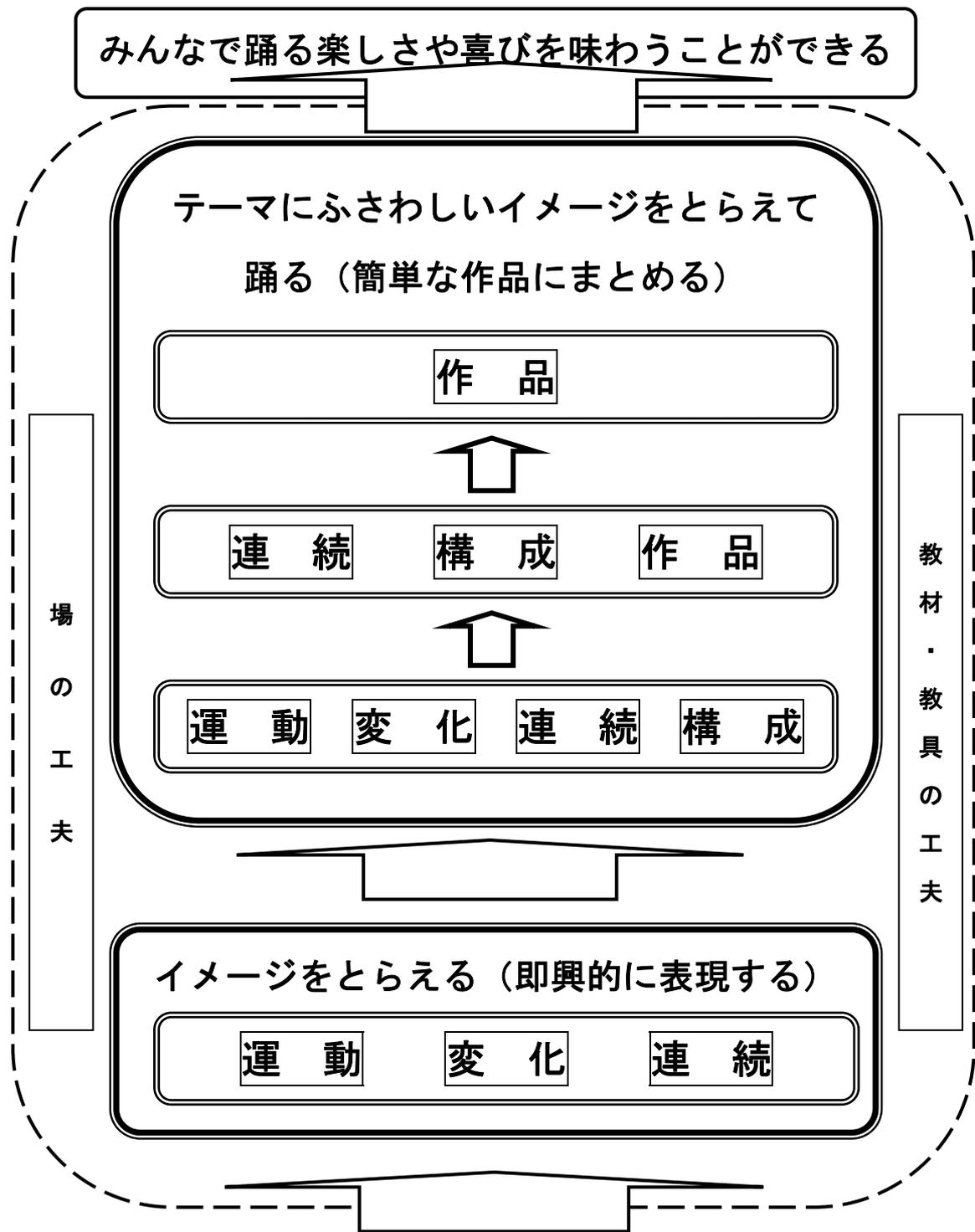
(2) 理論研究をもとに具体的な学習計画を立て、実践研究を行い、仮説の有効性を明らかにする。

- ア 研究の仮説
- イ 検証の方法
- ウ 学習指導計画
- エ 授業の実際
- オ 検証授業の結果と考察
- カ 指導の工夫とその効果及び課題
- キ 検証授業全体を振り返って

(3) 以上のことを理論研究と実践研究を基に研究のまとめを行う。

- ア 研究の成果と課題
- イ 今後の展望
- ウ 最後に

6 研究の構想図



- <生徒の課題>
- ・テーマにふさわしいイメージや動きのイメージがもてない
  - ・恥ずかしさがある

- <指導上の課題>
- ・指導法が難しい
  - ・教師側に苦手意識がある
  - ・ダンスの特性に触れさせていない

## 第2章 理論の研究

### 1 学習指導要領・学習指導要領解説について

#### (1) 中・高等学校学習指導要領 ダンスの内容について

平成 20 年 3 月に告示された中学校学習指導要領の保健体育の体育分野の第 3 学年のダンスの内容<sup>3)</sup>は次のとおりである。(表 2-1・表 2-2)

表 2-1 中学校学習指導要領 保健体育 体育分野 第 3 学年 ダンスの内容

#### G ダンス

- (1) 次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表ができるようにする。
  - ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化をつけて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。
  - イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。
  - ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。
- (2) ダンスに自主的に取り組むとともに、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

また、平成 21 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領の保健体育の体育のダンスの内容<sup>4)</sup>は次のとおりである。

表 2-2 高等学校学習指導要領 保健体育 体育 ダンスの内容

#### G ダンス

- (1) 次の運動について、感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。
  - ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、対極の動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊ること。
  - イ フォークダンスでは、踊り方の特徴を強調して、音楽に合わせて多様なステップや動きと組み方で仲間と対応して踊ること。
  - ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ること。
- (2) ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

(2) 中・高等学校学習指導要領解説 創作ダンスの内容について

平成 20 年 9 月に改訂された中学校学習指導要領解説保健体育編の第 3 学年の創作ダンスの内容<sup>5)</sup>は次のとおりである。(表 2-3)

表 2-3 中学校学習指導要領解説保健体育編 第 3 学年 創作ダンスの内容

ねらい	
ダンスの学習に自主的に取り組み、仲間との違いや互いのよさを認め合うことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、ダンスの名称や用語、踊りの特徴や表現の仕方などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。	
技能の内容	
表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現することや、個性を生かした簡単な作品にまとめて踊ることができるようにする。	
「表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ」とは	多様なテーマから、表現にふさわしいテーマを選んで、見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえること。
「個や群で」の動きとは	即興的に表現したり作品にまとめたりする際のグループにおける個人や集団の動きを示している。個人や集団の動きには、主役と脇役の動き、ユニゾン（一斉に同じ動きで動く）やばらばらの動き、集団の動きを少しずつずらした動き、密集や分散などの動きなどがある。
「緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現する」とは	緩急（時間的要素）や強弱（力の要素）の動きの変化を付けたり、列・円などの空間の使い方で、思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きにかえたりして表現すること。
「簡単な作品にまとめて踊る」とは	即興的な表現から、表したいテーマにふさわしいイメージを一層深めて、変化や起伏のある「はじめ—なか—おわり」の構成で表現をして踊ること。
指導に際しては	<p>表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、即興的に表現したり、個性を生かした簡単な作品にまとめたりして踊るようにできることが重要となるため、①表したいテーマの例を具体的に示して、取り組みやすいテーマを選んで即興的に表現する。次第に抽象的なテーマを取り上げ、主要場面を中心とした「ひと流れの動き」で表現する。次に、②変化や起伏のある「はじめ—なか—おわり」の構成で簡単な作品にまとめて踊るなどの工夫を行うことが大切である。</p> <p>①の学習の段階では、次のような活動を参考に行うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいテーマと題材や動きの例示を参考にしてテーマを設定したり、これまで取り組んだテーマから表したいテーマを各自で選んだりする。その際、取り組んでみたいテーマや題材や動きなどでグループを組み、思いついた動きを即興的に表現したり、仲間の動きをまねたり、ひと流れの動きにしたりしてみるなどの活動を取り上げる。</li> <li>・テーマにふさわしい個や群の構成で、一番表現したい主要場面を創る。</li> <li>・緩急強弱のある動きや空間の使い方や場面の転換などで、変化を付けた「ひと流れの動き」にする。</li> </ul> <p>②の学習の段階では、次のような活動を参考に行うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめとおわりを付け、ひとまとまりの作品にまとめる。</li> <li>・表したい内容のテーマにふさわしいイメージを深めて表現できるように、踊り込んで仕上げる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間やグループ間で、作品を見せ合う発表の活動を取り入れる。</li> </ul>
表したいテーマと題材や動きの例示	<p>A身近な生活や日常動作（出会いと別れ、街の風景、綴られた日記など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「出会いと別れ」では、すれ違ったりくっついたり離れたりなどの動きを、緩急強弱を付けて繰り返して表現すること。</li> </ul> <p>B対極の動きの連続など（ねじる一回る一見るなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ねじる一回る一見る」では、ゆっくりギリギリまでねじって力をためておき、素早く振りほどくように回って止まり、視線を決めるなど変化や連続のあるひと流れの動きで表現すること。</li> </ul> <p>C多様な感じ（静かな、落ち着いた、重々しい、力強いなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「力強い感じ」では、力強く全身で表現するところを盛り上げて、その前後は弱い表現にして対照を明確にするような簡単な構成で表現すること。</li> </ul> <p>D群（集団）の動き（大回り一小回り、主役と脇役、迷路、都会の孤独など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大回り一小回り」では、大きな円や小さな円を描くなどをおして、ダイナミックに空間が変化するように動くこと。</li> </ul> <p>Eもの（小道具）を使う（椅子、楽器、ロープ、傘など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「椅子」では、椅子にのぼる、座る、隠れる、横たわる、運ぶなどの動きを繰り返して、「もの」とのかかわり方に着目して表現すること。</li> </ul> <p>Fはこびとストーリー（序破急、起承転結、物語など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気に入ったテーマを選び、ストーリー性のあるはこびで、一番表現したい中心の場面を「ひと流れの動き」で表現して、はじめとおわりを付けて簡単な作品にまとめて踊ること。</li> </ul>

また、平成 21 年 12 月に改訂された高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編の入学年次の創作ダンスの内容<sup>6)</sup>は次のとおりである。（表 2-4）

**表 2-4 高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編 創作ダンスの内容**

ねらい	
<p>感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの学習に主体的に取り組む、互いに共感し高め合うこと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たすこと、合意形成に貢献することなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。なお、中学校第 3 学年との接続を踏まえ、入学年次においては、これまでの学習の定着を確実に図るようにすることが求められることから、入学年次とその次の年次以降に分けて、学習のねらいを段階的に示している。</p>	
技能の内容	
<p>表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。（入学年次）</p>	
「表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ」とは	<p>多様なテーマから、表現にふさわしいテーマを選んで、見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえること。（入学年次）</p>
「個や群で」の動きとは	<p>即興的に表現したり作品にまとめたりする際のグループにおける個人や集団の動きを示している。個人や集団の動きには、主役と脇役の動き、一斉の同じ動き(ユニゾン)やばらばらの異なる動き、集団の動きを少しずつずらした動き(カノン)、対立した動き、密集や分散などの動きなどがある。</p>
「緩急強弱のある動きや空間の使い方」とは	<p>緩急（時間的要素）や強弱（力の要素）の動き、列・円などの空間の使い方である。（入学年次）</p>

「即興的に表現する」とは	これらの動きや空間の使い方に変化を付けて、思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きに変えたりして表現すること。
「簡単な作品にまとめて踊る」とは	即興的な表現から、表したいテーマにふさわしいイメージを一層深めて、変化や起伏のある「はじめ－なか－おわり」の構成で表現をして踊ること。 (入学年次)
指導に際しては	特に「なか」に当たる展開では、最も特徴的な動きや構成を強調した盛り上がりのある起伏を付けて、個性を生かした作品に高めて踊ることが大切である。また、表したいテーマから中心となるイメージをとらえて動きにする際に、多様な題材の選択や表現の仕方、動きの展開が求められる。そのため、創作ダンスの指導では、動きの中に込めたい感じや表現の視点を重視して指導することが大切である。
表したいテーマと題材や動きの例示 (入学年次)	<p>A身近な生活や日常動作（出会いと別れ、街の風景、綴られた日記など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「出会いと別れ」では、すれ違ったりくっついたり離れたりなどの動きを、緩急強弱を付けて繰り返して表現すること。</li> </ul> <p>B対極の動きの連続など（ねじる－回る－見るなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ねじる－回る－見る」では、ゆっくりギリギリまでねじって力をためておき、素早く振りほどくように回って止まり、視線を決めるなど変化や連続のあるひと流れの動きで表現すること。</li> </ul> <p>C多様な感じ（静かな、落ち着いた、重々しい、力強いなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「力強い感じ」では、力強く全身で表現するところを盛り上げて、その前後は弱い表現にして対照を明確にするような簡単な構成で表現すること。</li> </ul> <p>D群（集団）の動き（大回り－小回り、主役と脇役、迷路、都会の孤独など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大回り－小回り」では、大きな円や小さな円を描くなどをとおして、ダイナミックに空間が変化するように動くこと。</li> </ul> <p>Eもの（小道具）を使う（椅子、楽器、ロープ、傘など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「椅子」では、椅子にのぼる、座る、隠れる、横たわる、運ぶなどの動きを繰り返して、「もの」とのかかわり方に着目して表現すること。</li> </ul> <p>Fはこびとストーリー（序破急、起承転結、物語など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気に入ったテーマを選び、ストーリー性のあるはこびで、一番表現したい中心の場面を「ひと流れの動き」で表現して、はじめとおわりを付けて簡単な作品にまとめて踊ること。</li> </ul>

表現・創作ダンスの題材・テーマと動きの例<sup>6)</sup>については次のとおりである。(表2-5)

**表2-5 中学校第3学年と高等学校入学年次の表現・創作ダンスの題材・テーマと動きの例**

	中学校第3年・高校入学年次
題材・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活や日常動作</li> <li>・対極の動きの連続</li> <li>・多様な感じ</li> <li>・群の動き</li> <li>・ものを使う</li> <li>・はこびとストーリー</li> </ul>
即興的な表現 (ひと流れの動きで表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえる</li> <li>・変化を付けたひと流れの動きで即興的に表現する</li> <li>・主要場面を中心に表現する</li> <li>・個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて表現する</li> </ul>
簡単な作品創作 (ひとまとまりの表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいイメージを一層深めて表現する</li> <li>・変化と起伏のある「はじめ－なか－おわり」の簡単な構成の作品に表現して踊る</li> </ul>
発表の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・踊り込んで仕上げて発表する</li> </ul>

## 2 ダンスについて

### (1) ダンスの特性について

中学校学習指導要領解説保健体育編第1・2学年の知識の内容に、ダンスの特性とは、「ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現することを楽しむことや喜びを味わうことのできる運動であること、他者とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する身体表現であること、現在では、様々なダンスが世代を超えて世界の人々に親しまれていること。」<sup>5)</sup>と記載されている。

### (2) 中学・高校期の生徒とダンスの特性との関係について

中学・高校期の生徒とダンスの特性について「生徒にとってのダンスの楽しさは、日常の自分を離れ何かになりきって踊る楽しさをベースに、多様な表現に挑戦したり、表したい内容を強調して『変化と起伏のあるひとながれの動き』に工夫していくところに妙味がある運動である」<sup>7)</sup>と示されている。

### (3) 松本富子のダンス授業評価法について

松本富子は、ダンス授業評価法について、その意義や構造、観点、方法を次のように述べている<sup>8)</sup>

#### ア ダンス授業評価法の意義

ダンスは、スポーツや体づくり運動と並ぶ運動文化のひとつである。これらは基本的に性格を異にする運動文化であることから、それぞれの授業の目標・内容も大いに異なる。たとえば、スポーツの授業では既存の運動技術や作戦を中心に学習するが、ダンスの授業では、題材を探求したり、題材にふさわしい表現内容を創作し、これを身体活動として表現する学習活動が中心になる。スポーツでのゲームを中心とした活動のなかでは、子どもたちは相手との競争を楽しむことができるのに対して、ダンスの授業ではダンスを創造し、自己の描いた世界で踊る楽しみや、ダンスを発表したり鑑賞して、互いの表現を分かち合う喜びを経験することができる。このように、運動文化の特性や経験の質に大きな差異があり、学習過程で求められる資質や能力にも大きな差異があると思われる。したがって、ダンスの授業の目標・内容に対応したダンス固有の授業評価法を用い、授業を直接受けた子どもに評価させ、そこから授業改善のための情報を得るようにすることが大切である。

#### イ ダンス授業をとらえる評価の構造の検討

ダンス学習の目標・内容に対応した授業評価法を作成するために、子どもからみたダンス授業における評価構造を明らかにしようとした。ダンス授業の目標・内容についての基本的な考え方は、体育科学習指導要領に示されている「技能」、「態度」、新たに加えられた「学び方」の3つの柱に依拠している。さらに、創作ダンスの授業は「踊る」「創る」「観る」学習活動場面によって構想され、それらに対応する具体的な技能や理解に関するねらいや内容をもつ。また、これらの学習活動で求められる学習行動を意味するねらいや内容（態度や学び方）をもつ。そこで、表2-6のように、①「踊る」、②「創る」、③「観る」④「学び方（態度を含む）」の4観点28項目による創作ダンス授業に関するアンケート調査項目を作成し中学生（男女407名）に単元の授業が終了した後に、授業を振りかえり回答するよう依頼した。この結果から子どもからみた場合、創作ダンスの授業は「おどる・つくる」、「わかる」、「かかわる」、「とりくむ」の4つからなる授業評価の構造をもつことが明らかとなった。（表2-7）

表2-6 調査項目作成のカテゴリー

学習活動	① 踊る	11	④ 学び方	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
		12		
		13		
		14		
		15		
	② 創る	16		
		17		
		18		
		19		
		20		
		21		
		22		
③ 観る	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			

表2-7 ダンス授業評価の構造

	No	質問項目
おどる・つくる	16	場面変化のある作品をつくれた
	19	めりはりのある動きをつくれた
	20	人にわかる作品をつくれた
	13	めりはりをつけて踊れた
	15	視線をいかして踊れた
	17	新しい動きやイメージをみつけられた
	18	いろいろな動きやイメージをみつけられた
わかる	21	ふさわしい動きをつくれた
	22	いろいろな空間の使い方をみつけられた
	7	友だちの意見を取り入れられた
	27	いろいろな表現ができると思った
	25	表現のよい点、悪い点がわかった
	26	他の作品のおもしろさがわかった
	23	自分なりに動きや作品を評価できた
28	人の感じ方、考え方がわかった	
かかわる	24	人の表現をみて自分の表現をなおせた
	11	友だちと気持ちをひとつにして踊れた
	5	みんなで作品をつくれた
	6	友だちと仲よく学習できた
	14	なりきって踊れた
	10	教え合ったり、助け合ったりできた
	3	表現を認め合うことができた
とりくむ	9	自分から進んで学習できた
	2	積極的に意見を出せた
	1	恥ずかしがらずに取り組めた
	8	めあてに向かって練習できた
	12	全身を使って踊れた
4	せいっぱい運動できた	

ウ ダンス授業をとらえる4評価観点

この結果にもとづいて、創作ダンスの授業では、「おどる・つくる」、「わかる」、「かかわる」、「とりくむ」の4評価観点からなる授業評価を行うことにした。「おどる・つくる」は、ダンス学習における運動学習を評価する観点である。イメージに応じて創り踊るというダンス独自の運動学習の特性を反映している。「わかる」は、思考判断や認識学習を評価する観点である。創作した動きや表現を互いに鑑賞しあう活動を通じて、動きや表現への認識を広げ、よさを識別する力がつくことを意味している。「かかわる」は、創作ダンス学習における社会的行動の学習を評価する観点であり、「踊る・創る・観る」学習活動が仲間との良好な関係のなかで行われることを意味している。「とりくむ」は、創作ダンス学習における意欲的学習を評価する観点である。学習への主体的で意欲的な取り組みが大切であることを意味している。なお、授業評価観点としての妥当性をみるために、4観点とダンス単元全体についての総括的評価項目「よい勉強」、「よい授業」の2項目との基準関連性を検討した。優位な正の相関が得られたことから、抽出された4評価観点は総括的な評価との関

連性があることが確かめられた。加えて、これらの4評価観点は、学習の評価観点である「意欲・関心・態度」「思考・判断」「技能」にほぼ対応するものであった。また、高田ら（1991）や高橋ら（1994）の体育授業についての総括的評価法、形成的授業評価法の評価観点ともほぼ符合するものであった。以上のことから、ここで得られた4つの評価観点は、ダンス授業をよりよく理解し、改善するための有益な示唆を提供する評価観点であると判断できる。

#### エ 評価の方法

評価に際しては、単元の事前と事後に、あるいは毎時間の授業の終わりに、子どもが授業を振り返って、「はい」「いいえ」「どちらでもない」のいずれかに○をつけることにより評価を行う。そして、「はい」を3点、「どちらでもない」を2点、「いいえ」を1点として集計を行い、統計的な処理を施す。得られた結果から、クラス全体や個人やチーム、学年などに着目し、単元前後の変化や毎時間の変化、各観点や項目の特徴などをとらえて授業や個々の子どもへの指導計画を診断し、ダンス授業の修正と改善を行う。

今回の研究では、**表2-7**について、「おどる・つくる」を技能、「わかる」を知識、思考・判断、「かかわる」に関心・意欲・態度の関心・態度、「とりくむ」を意欲としてとらえ、仮説の検証等に活用することにする。**表2-7**の質問項目を事前・事後アンケートとして、「はい」「どちらでもない」「いいえ」で集計をして、事前と事後の比較に使用することにする。また、学習ノートに入れることで、生徒の様子を知る資料にする。

#### (4) 村田芳子によるダンスの楽しさ・魅力に関する因子と項目について

村田芳子は、「ダンスの楽しさを『踊る楽しさ』、『表現・創作する楽しさ』、『他者とかわる楽しさ』、『決められた動きを踊る楽しさ』として4種類18項目に分類」<sup>9)</sup>して示している。その内容が**表2-8**である。

**表2-8 村田芳子によるダンスの楽しさ・魅力に関する因子と項目**

○踊る楽しさ
①いつもの自分と違った自分になれる
②そのものになりきって踊る楽しさ
③からだをいっぱい使って思い切り踊る楽しさ
④いろいろな音楽のリズムに乗って踊る楽しさ
⑤他の種目にはない動きの面白さ
○表現・創作の楽しさ
⑥思いがけない動きやアイデアが偶然出てくる面白さ
⑦リズムの取り方や動きを工夫して踊る楽しさ
⑧思いつくまま次々と自由に踊る楽しさ
⑨いろいろな感じやイメージを動きで表現する楽しさ
⑩表現の仕方や動き方をいろいろ工夫する楽しさ
⑪踊っている自分を人に見てもらおう楽しさ

- 他者と関わる楽しさ
  - ⑫自分や友達の新しい一面や意外な一面を発見できる
  - ⑬友達と自由に関わり合いながら一緒に踊る楽しさ
  - ⑭仲間との一体感を感じることが出来る楽しさ
  - ⑮友達と意見を出し合い協力して作品を創る楽しさ
  - ⑯作品が出来上がったときに感じる達成感

- 決められた動きを踊る楽しさ
  - ⑰既成の創作作品を覚えて踊る楽しさ
  - ⑱決められたステップや動きを覚えて踊る楽しさ

今回の研究では、表2-8の因子と項目を仮説の検証に活用することにする。各項目を事前・事後アンケートとして、事前と事後の比較に使用する。また、学習ノートに入れることで、生徒の様子を知る資料にする。

### 3 表現形式について

#### (1) 表現形式としての舞踊について

山田敦子は、「性、年齢、民族、そして時代を超えて、踊る身体から踊る身体へ、踊る身体から観る身体へ、あるいは創る身体から踊る身体へと、表現—伝達される人間の生命力の起伏と躍動を踊る人間、観る人間が感じ、共有しあった時、舞踊が現れる。この内なる自然（身体）から外なる自然（ともに踊る身体—観る身体をも含んだ宇宙全体）への生命力のはたらきかけともいえる舞踊は、身体から身体へという人間にとってきわめて直接的であり、身近な、それゆえに最も始源的な表現の形式であるといえよう。」<sup>1)</sup>と述べている。また、「この表現形式としての舞踊の表現—伝達の構造を、踊る人（舞踊者）と観る人（観者）の身体（感じ、考え、行動する主体）を含めた表現形式として示したものが図2-1である。」<sup>1)</sup>と述べている。

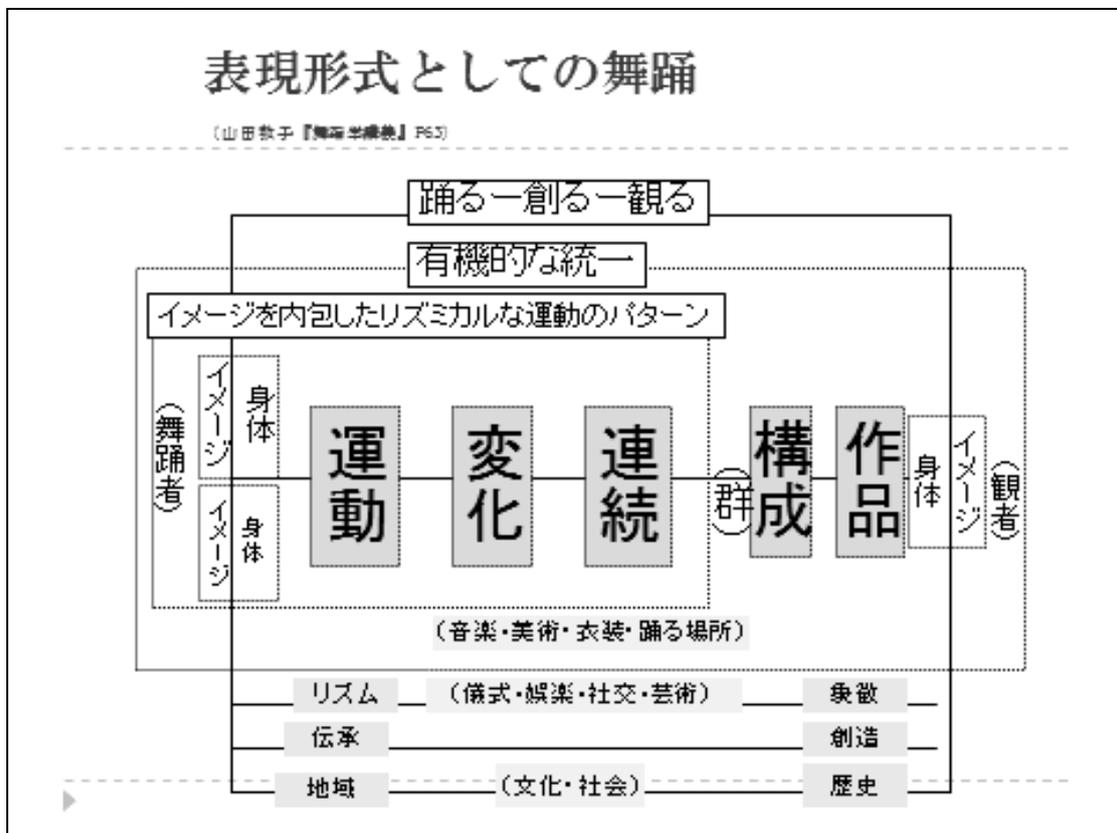


図2-1 表現形式としての舞踊

## (2) 日常の運動から舞踊の運動へ<sup>1)</sup>について

人間の運動は、瞬間的に生起し、消滅し、新しい次の運動の出現によって繰り返し連続し続ける。

それらの運動は、空間性の要因（運動の形態—直線的、曲線的、空間との関わり合い方—位置、方向、距離、範囲など）、時間性の要因（運動を行う長さや速さ—瞬間的、持続的）、そして、力性の要因（運動を起こすエネルギー—強い、弱い）によって成り立っている。日常の作業運動や何かの意味を伝達するサインとしての身振りなどは、誰もが決まった型を同じリズムで行うことで成り立つが、それらの日常の運動を成立させる要因を組み合わせ、変化、強調することによって、表現性や意味を内包した、エネルギーの起伏をもった、リズムミカルな運動である舞踊の運動が生まれてくる。

その第一歩は、呼吸や筋肉の緊張と弛緩を基盤として生まれてくる運動の周期性を反復することから始まる。

その場に立ち、軽く両膝を屈伸させる、左右に身体を揺らす、手を挙げたり下げたりする、片足で跳ぶ、両足で跳ぶなどの簡単な小さな単位の日常的な運動、あるいは、押す、引く、切る、投げる、受けるなどの作業動作、叩く、蹴る、衝く、翻るなどのスポーツの中で現れる動作など、ほとんどの日常の運動がその運動独自の周期性を単位として繰り返される時、舞踊の運動が始まる。また、運動を起こすエネルギーの強さや速さを変えることで、その性質や表現性が変わる。たとえば、同じテンポで歩く時、右足を強く、左足を弱く出す、または逆にするとか、その速さを走っているかのように速く、あるいは能の摺足のごとくゆっくり、または静止するなどのように極端に変えることで、運動は各々の特有の表現性をもちはじめ。

運動が繰り返されたり、エネルギーの強さが変化することは、運動のリズムが変わることである。人間の身体と運動を媒体とする舞踊では、その生命力をもたらす運動のリズムの変化が、日常の運動を舞踊の運動に変える重要な要因である。個人によって異なる内的リズムが、外に現れ出た運動のリズム、すなわち外的リズムに一致した時、快いリズムミカルな舞踊運動が躍動しはじめる。

## (3) 舞踊の種類と運動のパターン（運動—変化—連続）<sup>1)</sup>について

「表現形式としての舞踊」に示したように、舞踊の核であり、媒体としての最小単位であるイメージを内包したリズムミカルな運動のパターンは、舞踊の種類によって多様である。各々の舞踊の生まれてきた歴史—風土—目的が、その舞踊の表現性に直接的、間接的に関わりながら多様なパターンを創りだしてきたからである。

歩く、走る、跳ぶなどさまざまな移動の方法が、スキップ、ツーステップ、ホップ等、多様なダンス・ステップを生みだした。簡単で、誰もがすぐ動け、繰り返すことができ、楽しみながら踊るフォークダンスや社交ダンスでは、それらのダンス・ステップが運動の型の主要な部分を占めている。

## (4) ダンスの学習内容（=課題）について

松本千代栄は、「まず舞踊の成因とその機能を、一連の舞踊文献から抽出した用語に基づいて構造的に分類した。(図2-2) 学習を進めていくうえで、指導者が『与え』、『引きだし』、『発見させる』手がかりとなる『課題』が学習内容であり、それを図2-2の各要素である『主題、身体、運動、変化、連続、群、構成、作品、美的形成原理、情調』等から抽出する。それを可塑的・創造的に(1)『身体—運動』、(2)『運動—変化—連続』、(3)『群—構成』、(4)『主題—構成—作品』、(5)『作品—上演』、というように課題化し、図2-2の下部の螺旋のように循環漸進的に学習を進めていくのである。

具体的な課題の例として、(1)では『歩く、跳ぶ、叩く、見る』などの日常動作や伝統的ステップ、『雪が溶ける・凍る』、『波』等のイメージ、(2)では、『走る－跳ぶ－転がる』、『捻る－回る－見る』、『伸びる－縮む』等の運動や、『野生動物』、『出口はどこだ』等のイメージ、(3)では、『集まる－離れる』、『個－群－個』、『小群－大群』等の構成や、『渡り鳥』、『ラグビー』等のイメージ、(4)では、序破急、起承転結、四季、祭り等があげられる。」<sup>2)</sup>と述べている。

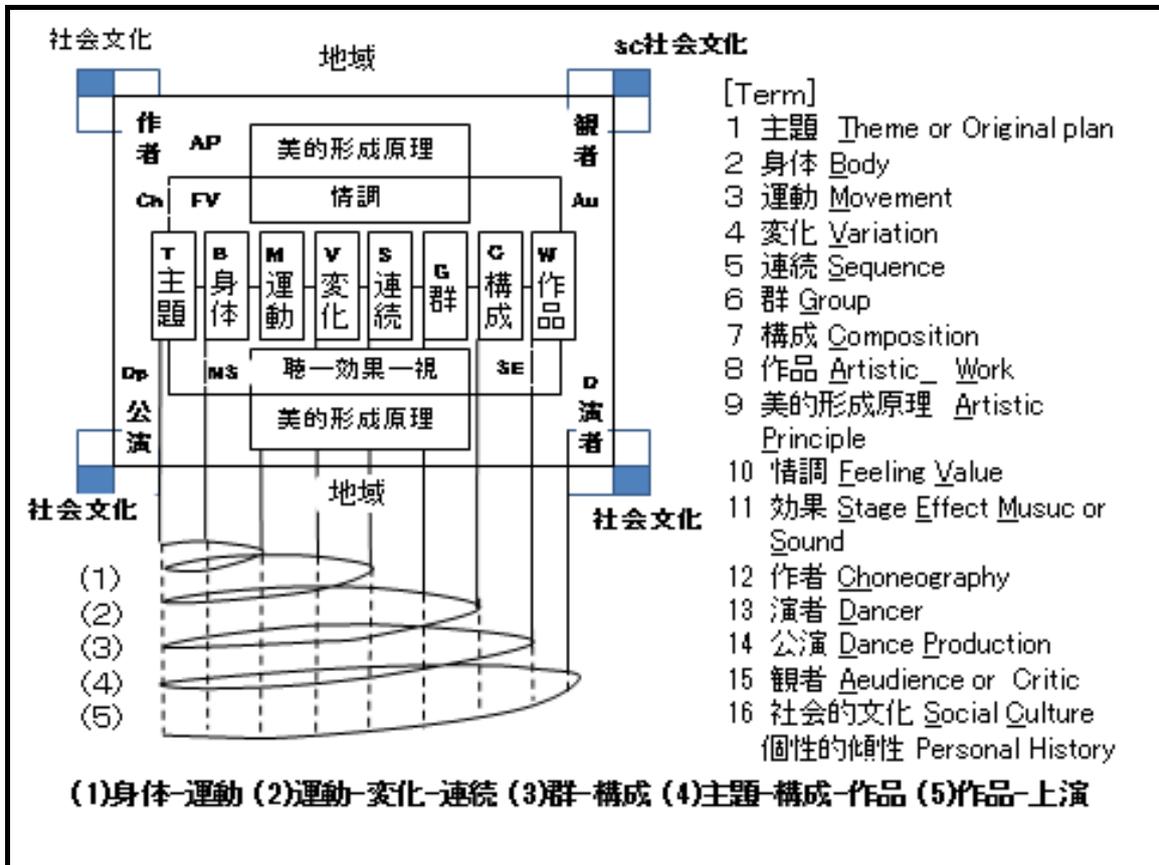


図2-2 松本の舞踊の構造・機能の要素化

出所： ダンスの教育学第1巻ダンス教育の原論（1992）山田敦子作成。

今回の研究では、山田敦子の「表現形式としての舞踊」、「日常の運動から舞踊の運動へ」、「舞踊の種類と運動のパターン（運動－変化－連続）」をもとに、松本千代栄の「ダンスの学習内容（＝課題）」の学習方法を使い、創作ダンスの構造を「運動」、「変化」、「連続」、「構成」、「作品」ととらえ、創作ダンスの授業の学習過程に取り入れていくことにする。

#### (5) 表現形式と学習指導要領・学習指導要領解説の内容<sup>3) 4) 5) 6)</sup> 関連と定義について

表現形式を「運動」、「変化」、「連続」、「構成」、「作品」ととらえ、中学校第3学年・高等学校入学年次の学習指導要領・学習指導要領解説の技能の内容との関連を考える。

中学校第3学年・高等学校入学年次では、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現することや、個性を生かした簡単な作品にまとめて踊ることができるようにする。

「表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ」とは、多様なテーマから、表現にふさわしいテーマを選んで、見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえることである。

「個や群で」の動きとは、即興的に表現したり作品にまとめたりする際のグループにおける個人や集団の動きを示している。個人や集団の動きには、主役と脇役の動き、ユニゾン（一斉

に同じ動きで動く) やばらばらの動き、集団の動きを少しずつずらした動き、密集や分散などの動きなどがある。

「緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現する」とは、緩急(時間的要素)や強弱(力の要素)の動きの変化を付けたり、列・円などの空間の使い方で、思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きにかえたりして表現することである。

「簡単な作品にまとめて踊る」とは、即興的な表現から、表したいテーマにふさわしいイメージを一層深めて、変化や起伏のある「はじめ—なか—おわり」の構成で表現をして踊ることである。指導に際しては、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、即興的に表現したり、個性を生かした簡単な作品にまとめたりして踊るようにできることが重要となるため、①表したいテーマの例を具体的に示して、取り組みやすいテーマを選んで即興的に表現する。次第に抽象的なテーマを取り上げ、主要場面を中心とした「ひと流れの動き」で表現する。

次に、②変化や起伏のある「はじめ—なか—おわり」の構成で簡単な作品にまとめて踊るなどの工夫を行うことが大切である。

①の学習の段階では、次のような活動を参考に行うようにする。

- ・表したいテーマと題材や動きの例示を参考にしてテーマを設定したり、これまで取り組んだテーマから表したいテーマを各自で選んだりする。その際、取り組んでみたいテーマや題材や動きなどでグループを組み、思いついた動きを即興的に表現したり、仲間の動きをまねたり、ひと流れの動きにしたりしてみるなどの活動を取り上げる。
- ・テーマにふさわしい個や群の構成で、一番表現したい主要場面を創る。
- ・緩急強弱のある動きや空間の使い方や場面の転換などで、変化を付けた「ひと流れの動き」にする。

②の学習の段階では、次のような活動を参考に行うようにする。

- ・はじめとおわりを付け、ひとまとまりの作品にまとめる。
  - ・表したい内容のテーマにふさわしいイメージを深めて表現できるように、踊り込んで仕上げる。
  - ・仲間やグループ間で、作品を見せ合う発表の活動を取り入れる。
- 以上のように示されている。

この技能の内容を表現形式の「運動」、「変化」、「連続」、「構成」、「作品」に当てはめてみた。表現形式と中学校学習指導要領・学習指導要領解説と高等学校学習指導要領・学習指導要領解説の技能の内容との関連についての表がそれである。(表2-9から表2-11)

そして、この表現形式と技能の内容との関連から、今回の研究では、表現形式の「運動」、「変化」、「連続」、「構成」、「作品」を次のように定義した。(表2-12)

**表現形式の定義 (表2-12)**

運動	身近な生活や日常動作、スポーツなどのテーマや動きからイメージをとらえる
変化	緩急(時間的要素)や強弱(力の要素)のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現する
連続	動きを繰り返したり、組み合わせたり、つなげたりして変化を付けた「ひと流れの動き」で表現する
構成	「はじめ—なか—おわり」のひとまとまりの動きで表現をして踊る
作品	イメージをとらえて、簡単な作品にして踊る

表2-9 表現形式と中学校学習指導要領・学習指導要領解説（中学校1学年・2学年）の技能の内容との関連について「運動」、「変化」、「連続」

	運動	変化	連続
ねらい	多様なテーマから表したいイメージをとらえる	動きに変化を付けて即興的に表現する	
学習段階	①		
題材・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活や日常動作</li> <li>・心象(意識の中に思い浮かべたもの)</li> <li>・取り組みやすいテーマ</li> <li>・思いついた動き</li> <li>・仲間の動きをまねる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対極の動きの連続</li> <li>・多様な感じ</li> <li>・群の動き</li> </ul>	
即興的な表現 (ひと流れの動きで表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なテーマからイメージをとらえる</li> <li>・自らが表現したいイメージをとらえる</li> <li>・身近なテーマから連想を広げてイメージを出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを即興的に表現する</li> <li>・動きを誇張したりして表現する</li> <li>・思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きにかえて表現する</li> <li>・動きに変化を付ける</li> <li>・即興的に踊る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化を付けたひと流れの動きで表現する</li> <li>・動きを繰り返したりして表現する</li> </ul>
簡単な作品創作 (ひとまとまりの表現)			
発表の様子			

表2-9 表現形式と中学校学習指導要領・学習指導要領解説（中学校1学年・2学年）の技能の内容との関連について「構成」、「作品」

	構成	作品
ねらい	変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊る	
学習段階	②	
題材・テーマ	ものを使う	
即興的な表現 (ひと流れの動きで表現)		
簡単な作品創作 (ひとまとまりの表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化と起伏のある「はじめ—なか—おわり」のひとまとまりの動きで表現する</li> <li>・表したい感じやイメージを強調するように表現して踊る</li> <li>・イメージをふくらませ、変化のある簡単なひとまとまりの表現にして踊る</li> <li>・場面の転換に変化を付けて表現する</li> </ul>	
発表の様子		<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きを見せ合って発表する</li> </ul>

表2-10 表現形式と中学校学習指導要領・学習指導要領解説（中学校3学年）と高等学校学習指導要領・学習指導要領解説（入学年次）の技能の内容との関連について「運動」、「変化」、「連続」

	運動	変化	連続
ねらい	表したいテーマにふさわしいイメージをとらえる	個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現する	
学習段階	①		
題材・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な生活や日常動作</li> <li>取り組みやすいテーマ</li> <li>表したいテーマと題材や動き</li> <li>思いついた動き</li> <li>仲間の動きをまねる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対極の動きの連続</li> <li>群の動き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものを使う</li> <li>はこびとストーリー</li> </ul>
即興的な表現 (ひと流れの動きで表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>表したいテーマにふさわしいイメージをとらえる</li> <li>見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて表現する</li> <li>個人や集団の動き</li> <li>緩急（時間的要素）や強弱（力の要素）の動きの変化を付けて表現する</li> <li>空間の使い方で、思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きにかえて表現する</li> <li>ダイナミックに空間が変化するように動く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動を繰り返す</li> </ul>
簡単な作品創作 (ひとまとまりの表現)			<ul style="list-style-type: none"> <li>一番表したい中心の場面を「ひと流れの動き」で表現して、はじめとおわりを付けて簡単な作品にまとめて踊る</li> </ul>
発表の様子			

表2-10 表現形式と中学校学習指導要領・学習指導要領解説（中学校3学年）と高等学校学習指導要領・学習指導要領解説（入学年次）の技能の内容との関連について  
「構成」、「作品」

	構成	作品
ねらい	簡単な作品にまとめたりして踊る	
学習段階	②	
題材・テーマ	・多様な感じ	
	・はこびとストーリー	
即興的な表現 (ひと流れの動きで表現)		
簡単な作品創作 (ひとまとまりの表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番表したい中心の場면을「ひと流れの動き」で表現して、はじめとおわりを付けて簡単な作品にまとめて踊る</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいイメージを一層深めて表現する</li> <li>・変化や起伏のある「はじめー なかーおわり」の構成で表現をして踊る</li> <li>・はじめとおわりを付け、ひとまとまりの作品にまとめる</li> <li>・対照を明確にするような簡単な構成で表現する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化と起伏のある「はじめーなかーおわり」の簡単な作品に表現して踊る</li> <li>・表したい内容のテーマにふさわしいイメージを深めて表現できるように、踊り込んで仕上げる</li> </ul>
発表の様子		・踊り込んで仕上げて発表する

表2-11 表現形式と高等学校学習指導要領・学習指導要領解説（その次の年次以降）の技能の内容との関連について「運動」、「変化」、「連続」

	運動	変化	連続
ねらい	表したいテーマにふさわしいイメージをとらえる	個や群で、対極の動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現する	
題材・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な生活や日常動作</li> <li>多様なテーマから、表現にふさわしいテーマ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対極の動きの連続</li> <li>多様な感じ</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>群（集団）の動き</li> <li>もの（小道具）を使った動き</li> <li>はこびとストーリー</li> </ul>	
即興的な表現 (ひと流れの動きで表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なテーマの中から表したいテーマを選び、中心となるイメージをとらえる</li> <li>見る人に伝わりやすいように、中心となるイメージをとらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心となるイメージを即興的に表現する</li> <li>個人や集団の動き</li> <li>動きに変化を付けて空間が変化するように動く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つながりの動きを入れて繰り返したりして表現する</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>個や群で、イメージを強調する緩急強弱を最大限に強調した対極の動きと空間の使い方に変化を付けて即興的に表現する</li> <li>緩急（時間的要素）や強弱（力の要素）を最大限に強調した対極の動き、列・円・渦巻き・密集一分散などの空間の使い方</li> <li>動きや空間の使い方に変化を付ける</li> <li>緩急強弱を付けて繰り返して表現する</li> </ul>	
簡単な作品創作 (ひとまとまりの表現)		<ul style="list-style-type: none"> <li>一番表現したい中心の場面にふさわしい「緩急強弱のあるひと流れの動き」で表現して、繰り返しや時間・力・空間の変化と強調によって、ダイナミックな盛り上がりをつけて作品にまとめて踊る</li> </ul>	
発表の様子			

表2-11 表現形式と高等学校学習指導要領・学習指導要領解説（その次の年次以降）の技能の内容との関連について「構成」、「作品」

	構成	作品
ねらい	イメージを強調した作品にまとめたりして踊る	
題材・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はこびとストーリー</li> </ul>	
即興的な表現 (ひと流れの動きで表現)		
簡単な作品創作 (ひとまとまりの表現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番表現したい中心の場面にふさわしい「緩急強弱のあるひと流れの動き」で表現して、繰り返しや時間・力・空間の変化と強調によって、ダイナミックな盛り上がりをつけて作品にまとめて踊る</li> <li>・特徴的な動きや構成を強調した盛り上がりのある起伏を付けて個性を生かした作品にして踊る</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいテーマにふさわしいイメージを深め、中心となるイメージを強調した「はじめ—なか—おわり」の構成で表現する</li> <li>・表したいテーマにふさわしいイメージを一層深めて、中心となるイメージを強調した「はじめ—なか—おわり」の構成で、表現して踊る</li> </ul>	
発表の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣装や発表空間を演出して発表する</li> </ul>	

#### 4 イメージをとらえるについて

イメージをとらえることについて、猪崎弥生による「創作ダンスの知っておきたい知識」<sup>10)</sup>に示されている。「中学校体育の授業」を高校の接続年次として参考とした。

##### ①ダンスの動きってなに？

ダンスの動きは運動とイメージの連合  $\boxed{\text{運動}} \times \boxed{\text{イメージ}} = \boxed{\text{ダンスの動き}}$

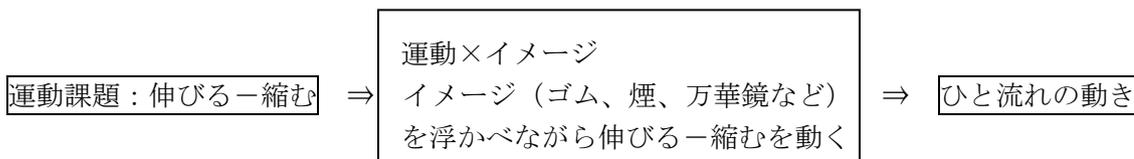
舞踊課題解決学習とは、運動とイメージをつなぐ学習として「踊る、つくる、みる」の1時間完結まるごとのダンス体験である。学習課題には、運動課題、イメージ課題などがある。

たとえば、運動課題の内容とは、生徒に「伸びる－縮む」「走る－止まる」などのような対極の性質をもつ運動を課題として提示することによって、何度もその運動を体験させて運動とイメージをすばやくかけ算させ、悩まずに運動とイメージを合致させることである。課題である対極の性質をもつ運動がイメージをもったよい連続になるようにつながったとき、運動が生きた運動すなわちダンスの動きとなり、ある種の表現性をもったひと流れの動きになるのである。

##### ②具体的に運動とイメージをかけ算する方法とは？

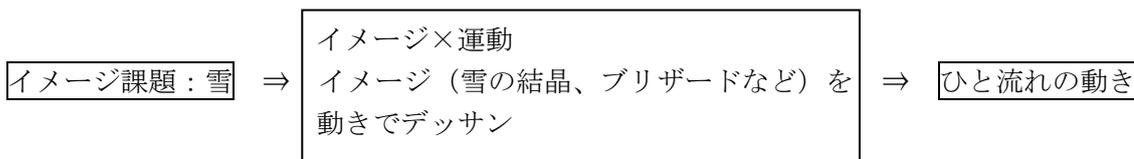
・運動課題においては

- ①課題の運動を行う
- ②イメージを浮かべながら課題の運動を行う
- ③イメージにふさわしいひと流れの動きを見つける



・イメージ課題においては

- ①言葉などから連想するイメージを素早く出し合う
- ②いろいろなイメージをデッサンする
- ③イメージにふさわしいひと流れの動きを見つける



・絵画や新聞紙などからも運動やイメージにアプローチすることができる。

・日常で行うあらゆる運動はダンスの動きになる。ダンスの基本的な運動とは、身振り、ステップ、移動する動き、ジャンプ、ターン、静止などがある。ダンスにおける基本的な運動の質感（力、時間、空間、流れ）を結びつければ、表現性をもつダンスの動きになる。

運 動	質 感				イメー ジ
	力	時間	空間	流れ	
身振り (伸ばす、収縮する)	強く	速く	直線的	コントロールされた	ガラスの破片 冰山など
移動する動き(走る)と ジャンプ	軽く	ゆっくり	流線的	自由な	シャボン玉 タンポポの綿毛
身振り(伸ばす、曲げる) と移動する動き(歩く)	重く	遅く	直線的	コントロールされた	祈り、大地など

高等学校学習指導要領解説<sup>4)</sup>では「表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ」とは「入学年次では、多様なテーマから、表現にふさわしいテーマを選んで、見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえることである。その次の年次以降では、これらに加えて、見る人に伝わりやすいように、中心となるイメージをとらえることである。」と明記されている。

また、高等学校学習指導要領の「技能」では、「イメージをとらえ即興的に表現すること」と「イメージを強調した作品にまとめたりして踊ること」が示されている。

この即興表現を、村田芳子は、「ダンスなどにおいて、直感的にとらえたイメージを、その場で思いつくままに踊って表現すること。ダンスの表現の仕方はこの『即興』と『作品』の二つに分けられる。幼児の表現の仕方や、ジャズ演奏におけるアドリブなど、即興表現には、構造化されでき上がった『作品』にない、『今この瞬間』をありのままに表現する『新鮮さ』があり、そこに表現の始源的な生命感がある。また、即興力は、作品構成力の土台となる重要な表現能力ともされる。ダンスの学習においても、この即興表現の楽しさを豊かに保障していきたい。」<sup>11)</sup>と述べている。また、イメージについて「経験や情緒等の蓄積を基に、内面に浮かぶ心情・形象・幻像。イメージは、題材の直接的(表層的)なイメージから、間接的(深層的)イメージに至るまでの広がりや深まりを持っている。」<sup>12)</sup>としている。そして、イメージの広がりや深まりについては、「イメージの豊かさ(広がりや深まり)はつねに動きとの関係で決まってくるといえる。」<sup>12)</sup>「学習では、対象からのイメージが『動きに近い具体的な像(ワンシーンから連続まで)』として浮かび、『今にも動きだせそうなイメージ(動きのイメージ)』になること、そして心情や感情を重ねた個性的なイメージになることが大切である。これが先の『ダンス的イメージ』への移行である。さらに、イメージの広がりや深まりを考える際の視点として、『題材のとらえ方』をあげてみたい。『鳥』の例でいえば、『くちばし、空を飛ぶ』のような鳥からの『直接的なイメージ(換喩)』から『自由へのあこがれ』といった『間接的なイメージ(隠喩)』までのとらえ方の深まりである。」<sup>12)</sup>この深まりを動きとの関係で段階化したのが表2-13である。

表2-13 イメージの深まりの段階<sup>12)</sup>

I	事象や動き自体の面白さがテーマになる段階(直接的イメージが内容)
II	事象や動きが心情とかけ合わされる段階(両者のかけ合わせ、行き来)
III	心情が事象や動きを通しシンボル化される段階(間接的イメージが内容)

これらのことから、今回の研究では、テーマにふさわしいイメージや動きのイメージがもてないという生徒の課題や、学習指導要領解説で入学年次では「イメージを端的にとらえる」とされていることから、イメージの深まりは、事象や動き自体がテーマになる段階(直接的なイメージが内容)と考え、イメージを「感覚でとらえたもの」、「心に浮かぶものごと」ととらえ、イメージをとらえることを、「テーマや題材が感覚でとらえたものや心に浮かぶものごとで、動きに現されていること」と定義した。

## 5 見せ合いについて

高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編(平成21年12月)<sup>6)</sup>のダンスにおける「態度」では、「互いに共感し高め合おうとする」として、次のように表記されている。

「主体的な学習の段階では、互いの違いやよさを肯定的に評価し賞賛することを通して、それぞれの表現や踊りに共感し、互いに高め合おうとすることを示している。そのため、入学年次には、仲間の互いのよさや違いを認め、仲間を賞賛することは、コミュニケーションを深めること、自由な身体表現を認め合うことでダンスの楽しさが高まること、身体表現を通して共感し合うことがダンスの魅力の一つであることを理解し、取り組めるようにする。」

また、「知識」では、「課題解決の方法」に「互いに動きを見せ合う」ことが課題解決の道筋として挙げられている。さらに「思考・判断」の「例示」には、「発表や仲間との交流の場面では、互いの違いやよさを指摘すること」が挙げられている。

## 6 相互評価について

相互評価について、青木真は、「学習評価において、学習者同士がお互いのできばえや到達度を確かめ合う様式。学習者が主体的に、しかも自発的に展開されることに価値をおく教育観のもとでは、学習評価の目的も、管理目的としての性格から、学習を維持発展させるための学習目的として考えられ、学習者の側の評価機能を最大限に生かすことが課題とされる。

こうして、評価は教師のものとしてだけ考えるのではなく、学習者自身のものとして学習活動と一体になるように意図され、学習者間の相互評価が多く取り上げられるようになった。

体育の授業では、運動の実践（練習やゲーム・競技）が学習活動の大半を占めるが、運動の実践は仲間と共同して行われることから、学習者が相互にできばえを確かめ合う相互評価活動が、特に、小集団（グループ）学習で進められるようになってから積極的に取り上げられるようになった。しかし、運動目的・内容論にたつ現在の体育授業では、相互評価の進め方が次のように変わってきている。まず、相互評価の際に用いる評価の観点も、基本的に運動の特性から導かれるようになった。運動の特性に触れ、その意味と価値を理解していくには、学習者の力に合った『めあて』への取組が必要であることから、『めあて』は学習者によってちがったものになり、評価の進め方もそれに応じたものになっているということである。このことから、相互評価の形態も、グループを単位にその中で評価しあっていた形態から、めあてを同じくする者同士で評価しあう形態へ変わってきている。」<sup>13)</sup>と述べている。

本研究では、見せ合い活動を取り入れ、個人やグループ同士で、課題についての感想や意見交換による相互評価を行い、次時への改善を図ることにする。

## 7 グループ学習（グループワーク）について

グループ学習について、細江文利は、「学級をいくつかの下位集団（小集団）に分け、小さなグループで協同学習を行わせようとする学習形態。」<sup>14)</sup>としている。

「グループ学習は、一斉指導のように受動的になりがちな学習形態を避け、学習者の自発的、主体的な学習活動を重視しようとするものである。そのために、小集団を便宜上分けるのではなく、集団内の成員の間に相互作用が生まれ、共通の目標をもち、互いに役割を果たしながら学習活動に参加することができるように工夫しようとする。この点が、一斉指導の一形態といわれる班別指導と異なるところである。また、「今日の体育（運動目的・内容論）では、グループ学習の理論をそのまま取り組むのではなく、運動の特性と学習者との好ましいかわり方という視点から、流動的な課題別グループを組織するなどして、グループ学習にみられる小集団の集団過程のよい機能を生かそうとする試みが見られる」<sup>14)</sup>と述べている。

## 8 スライド映像の活用について

視覚的手がかりについて、佐久間春夫は、「運動学習における視的環境からの刺激を基にした、身体の動かし方の習得や技能の向上につがる情報。一般に、運動学習の初期には視覚的手がかりが重要であり、学習者自身の反応の結果を結果の知識 KR: Knowledge of result として与えたり、熟練者のパフォーマンスを見せたりすることにより、望ましい動作とはどのようなものであるかを知らせるのに有効である。

具体的には、①指導者や熟練者用による模範（示範）、②図解、写真、OHP などの利用、③映画の利用、④VTR の利用など、が行われている。」<sup>15)</sup>また、その効果として、「学習者の条件、学習内容、学習段階、使用したメディアなどによってさまざまな結果が得られているが、一般にその効果としては次のような点が上げられている。①学習への興味の拡大、②経験範囲の拡大、③学習や指導の能率化、④共通経験の獲得」<sup>15)</sup>と述べている。

今回はそのうち、スライドを活用し図解などをおこない、学習や指導の能率化の効果を考えた。

## 第3章 検証授業

### 1 研究の仮説

創作ダンスの授業において、表現形式を取り入れた授業づくりをすることによって、イメージをとらえて、みんなで踊る楽しさや喜びを味わうことができるだろう。

### 2 検証の方法

(1) 期間 平成22年9月24日(金)～10月26日(火) 10時間扱い

(2) 場所 神奈川県立横浜清陵総合高等学校

(3) 対象 第1学年2組(女子30名)

(4) 単元名 ダンス・創作ダンス

#### (5) 方法

ア 単元学習指導計画立案

イ 実態調査と分析

(ア) 予備アンケート 7月12日(月)

(イ) 事前アンケート 9月22日(水)

(ウ) 事後アンケート 11月9日(火)

ウ 授業実践

エ 学習ノートへの分析

オ VTRへの分析

カ 結果への分析

**表3-1 分析の視点と方法**

分析の視点	具体的な分析の観点と方法
(1) 表現形式を踏まえた授業に取り組んだか	ア 表現形式を踏まえた授業に取り組んだか。 (ア) 「とりくむ」の1時間ごとの比較(学習ノート) (イ) 「とりくむ」の事前・事後の比較(事前・事後アンケート)
(2) イメージをとらえることができたか	ア 即興的に表現する学習過程でイメージをとらえることができたか。 (ア) 「おどる・つくる」の1時間ごとの比較(学習ノート) (イ) VTRの分析 イ 簡単な作品にまとめる学習過程でイメージをとらえることができたか。 (ア) 「おどる・つくる」の1時間ごとの比較(学習ノート) (イ) VTRの分析 ウ 学習過程全体を通してイメージをとらえることができたか。 (ア) 「おどる・つくる」の事前・事後の比較(事前・事後アンケート) (イ) 「イメージをとらえることができたか」(事後アンケート)
(3) 踊る楽しさや喜びを味わうことができたか	ア 表現形式を取り入れたダンスの授業で踊る楽しさや喜びを味わえたか。 (ア) 学習ノートの記述内容への分析 (イ) 「ダンスの楽しさ・魅力について」の事前・事後の比較 (事前・事後アンケート) (ウ) 「踊る楽しさや喜びを味わうことができたか」(事後アンケート)

### 3 学習指導計画

#### (1) 単元目標 (学習のねらい)

##### ア 「関心・意欲・態度」

創作ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、練習や発表の際に、互いの違いやよさを認め合おうとしている。また、自己の責任を果たそうとしている。健康・安全に留意して、学習に自主的に取り組もうとしている。

##### イ 「思考・判断」

創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージやそれぞれのダンスの特徴に合った踊りの構成など課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。

##### ウ 「技能」

創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化をつけて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊るための動きができる。

##### エ 「知識・理解」

創作ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを、理解したことを言ったり書きだしたりしている。

#### (2) 評価規準

##### ア 内容のまとめりごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたってダンスを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	ダンスの特性に応じて、交流や発表ができるようイメージを深めた表現や踊りをするための動きを身に付けている。	ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解している。

##### イ 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
創作ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、練習や発表の際に、互いの違いやよさを認め合おうとしている。また、自己の責任を果たそうとしている。健康・安全に留意して、学習に自主的に取り組もうとしている。	創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージやそれぞれのダンスの特徴に合った踊りの構成など課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化をつけて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊るための動きができる。	創作ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方についてなどを理解している。

ウ 学習場面における具体の評価規準と具体の学びの姿及びC・C<sup>△</sup>の生徒への手立て

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
A○	①②③④ 常に意欲的に～	①②～常に適切に見付けている。	①②③④⑤～非常によくできる。	①②③④～具体例を挙げて説明している。
A	①②③④ 意欲的に～	①②～適切に見付けている。	①②③④⑤～よくできる。	①②③④～説明している。
B	①創作ダンスの楽しさや喜びを味わおうとしている。 ②練習や発表の際に、互いの違いやよさを認め合おうとしている。 ③自己の責任を果たそうとしている。 ④健康・安全に留意して運動している。	①創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。 ②創作ダンスの特徴に合った踊りの構成を見付けている。	①創作ダンスでは、表したいテーマふさわしいイメージをとらえることができる。 ②個や群で、緩急強弱のある動きができる。 ③緩急強弱と空間の使い方に変化をつけて踊る動きができる。 ④即興的に表現したりできる。 ⑤簡単な作品にまとめたりして踊るための動きができる。	①創作ダンスの名称や用語について、言ったり書きだしたりしている。 ②踊りの特徴と表現の仕方について、言ったり書きだしたりしている。 ③創作ダンスに関連した体力の高め方について、言ったり書きだしたりしている。 ④交流や発表の仕方について言ったり書きだしたりしている。
C	①～味わえないでいる。 ②～認めないでいる。 ③～不平を言う。 ④～注意していない。	①②～適したものを見付けていない。	①②③④⑤～できないことがある。	①②③④～断片的に言ったり、書き出したりしている。
C△	①～味わおうとしない。 ②～認めようとしていない。 ③～しない。 ④～安全への意識が持てない	①②～全く見付けていない。	①②③④⑤～全くできないでいる。	①②③④～全く言ったり書き出したりできずにいる。
手立	○創作ダンスの楽しさや喜びについて、興味を持てるように説明する。 ○互いの違いやよさを認め合えるような雰囲気づくりに配慮する。 ○安全に活動することの大切さをその都度説明する。	○学習ノートや対話を通じて課題を見つけられるようにする。 ○教師が発問したりアドバイスをしたりして思考を促す。また、技能的な課題がある場合には、教師が見本を見せることで、動きのイメージを持たせるようにする。	○学習資料を活用し、練習方法やポイントが分かりやすくする。 ○技能ポイントを明確にしながらか系統立てて指導する。 ○踊り全体の流れを意識し、どこで躓いているのかを明確にし、修正できるポイントを見つけるよう促す。	○練習内容や方法について具体的に示し、理解を促す。 ○グループでのコミュニケーションが活発になるように支援し、理解が深められるように促す。

(3) 指導と評価の計画

時間	学習のねらいと活動	学習活動における具体的な評価規準				評価方法
		関 意 態	思 考 判 断	技 能	知 識 理 解	
1 ・ 2 時 間 目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ねらい1                      イメージをとらえる                      (即興的に表現する)                 </div> 1 時間目 (1) 準備運動を行う。 (2) ユニゾン・カノン (3) 「ダンスの特性・踊りの由来」 バレエの動き  2 時間目 (1) エアロビックダンスを行う (2) 創作ダンスのグループワークを行う。 (3) 見せ合いを行う。 (4) グループのメンバーと本時の即興の作品に題とイメージをつけてみる。	④			①	[関心・意欲・態度]④ 健康・安全に留意して運動している。(行動観察・学習ノート記述) [知識・理解]① 創作ダンスの名称や用語について、言ったり書きだしたりしている。(学習ノート記述)  [関心・意欲・態度]① 創作ダンスの楽しさや喜びを味わおうとしている。(行動観察・学習ノート記述) [知識・理解]② 踊りの特徴と表現の仕方について、言ったり書きだしたりしている。(学習ノート記述)
3 ・ 4 時 間 目	3 時間目 (1) ものを使った動きで変化をつける。 (2) 創作ダンスのグループワークを行う。 (3) 見せ合いを行う。  4 時間目 (1) 創作グループワークを行う。 (2) 見せ合いを行う。		①		③	[思考・判断]① 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。(行動観察・学習ノート記述) [知識・理解]③ 創作ダンスに関連した体力の高め方について、言ったり書きだしたりしている。(行動観察・学習ノート記述)  [技能]② 個や群で、緩急強弱のある動きができる。(行動観察・学習ノート記述) [技能]④ 即興的に表現して踊るための動きができる。(行動観察・学習ノート記述)

5 時 間 目	5時間目 (1) 風船を使ってグループワークを行う。 (2) 見せ合いを行う。	②			[関心・意欲・態度]② 練習や発表の際に、互いの違いやよさを認め合おうとしている。 (行動観察・学習ノート記述) [技能]③ 緩急強弱と空間の使い方で変化をつけて踊る動きができる。 (行動観察・学習ノート記述)
6 ・ 7 時 間 目	ねらい2 テーマにふさわしいイメージをとらえて踊る(簡単な作品にまとめる) 6時間目 (1) 10時間目の発表について説明を行う。 (2) テーマのヒントをもとに、イメージを見付ける。 (3) 踊り込んで作品を創る。 7時間目 (1) 踊り込んで作品を創る。 (2) 見せ合いを行う。	③	①		[思考・判断]① 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。 (行動観察・学習ノート記述) [関心・意欲・態度]③ 自己の責任を果たそうとしている。 (行動観察・学習ノート記述) [思考・判断]① 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。 (行動観察・学習ノート記述) [技能]⑤ 簡単な作品にまとめたりして踊るための動きができる。 (行動観察・学習ノート記述)
8 ・ 9 ・ 10 時 間 目	8時間目 (1) 踊り込んで作品を創る。 (2) 見せ合いを行う。 (3) よかった点やアドバイスを 9時間目 (1) グループ毎の動きを確認し、踊り込む。 (2) 発表会の時の場所を確認する。 10時間目 (1) グループ毎の動きを確認を行う。 (2) 発表会を行う。 (3) 相互評価を行う。	①	②	①	[思考・判断]② 創作ダンスの特徴に合った踊りの構成を見付けている。 (行動観察・学習ノート記述) ④ [知理・理解]④ 交流や発表の仕方について言ったり書きだしたりしている。 (行動観察・学習ノート記述) [関心・意欲・態度]① 創作ダンスの楽しさや喜びを味わおうとしている。 (行動観察・学習ノート記述) [技能]① 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえることができる。 (行動観察・学習ノート記述)

(4) 単元計画 ○学習内容と活動 ●指導の工夫

時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
ねらい	ねらい1 イメージをとらえる (即興的に表現する)				
はじめ	○集合、挨拶、出欠確認 ○本時の学習のねらいを確認 ○準備運動 ●スライド映像の活用	○集合、挨拶、出欠確認 ○本時の学習のねらいを確認 ○準備運動 ●スライド映像の活用	○集合、挨拶、出欠確認 ○本時の学習のねらいを確認 ○準備運動 ●スライド映像の活用	○集合、挨拶、出欠確認 ○準備運動 ○本時の学習のねらいを確認 ●スライド映像の活用	○集合、挨拶、出欠確認 ○準備運動 ○本時の学習のねらいを確認 ●スライド映像の活用
なか	○ユニゾン・カノン (運動・変化・連続) ○バレエの動き (運動・変化)	○エアロビックダンスを行う (運動・変化・連続) ●グループワーク (運動・変化・連続) ●見せ合い・相互評価 (感想) ○本時の即興の作品に題とイメージをつける	○ものを使った動き (運動・変化・連続) ●グループワーク (運動・変化・連続) ●見せ合い・相互評価 (感想)	●グループワーク (運動・変化・連続) ●見せ合い・相互評価 (感想)	●風船を使ったグループワーク (運動・変化・連続) ●見せ合い・相互評価 (感想)
まとめ	○学習の振り返りを行う ○後片付け ○集合・挨拶				

時間	6時間目	7時間目	8時間目	9時間目	10時間目
ねらい	ねらい2 テーマにふさわしいイメージをとらえて踊る (簡単な作品にまとめる)				
はじめ	○集合、挨拶、出欠確認 ○準備運動 ○本時の学習のねらいを確認 ●スライド映像の活用				
なか	○発表の説明 テーマ 「春夏秋冬」 「働く人」 ○テーマをもとにイメージをとらえる ○踊り込んで作品を創る (運動・変化・連続・構成)	○踊り込んで作品を創る (連続・構成・作品) ●見せ合い・相互評価 (感想)	○踊り込んで作品を創る (連続・構成・作品) ●見せ合い・相互評価 (感想) よかった点やアドバイスをもとにグループ毎に深める	○グループ毎の動きを確認し踊りこむ (作品) ○発表会の場所を確認して踊る	○グループ毎の動きを確認し踊る (作品) ○発表会 ●相互評価 (感想)
まとめ	○学習の振り返りを行う ○後片付け ○集合・挨拶				

単元計画（具体的な内容）1時間目～5時間目

時間	1時間目		2時間目		3時間目		4時間目	5時間目
ねらい	ねらい1 イメージをとらえる（即興的に表現する）							
	ユニゾン カノン	バレエの動き	エアロビック ダンス	グループワーク	ものを使う	グループワーク	グループワーク	グループワーク
運動	並ぶ 立つ（足の位置） 座る 手の動き （下・腰・上） 見る（前・横）	足首や膝を曲げる 足首や膝を伸ばす 手を下ろす 手を横、上に伸ばす	踏む 歩く （前後左右）	踏む 歩く	踏む 歩く 小さく走る 跳ぶ	踏む 歩く	日常的な動作 （起きてから今までの私）	簡単な運動 （バレーボール）
変化	一斉で動く ずらして動く	深く曲げる 高く伸びる	動きをリズムに のせる	8 8 4 4 2 2 1 1 1 1のリズム で動きを変える	1mのロープ（ひも）をラインにして動く	8 8 4 4 2 2 1 1 1 1のリズム ×人数	緩急強弱のある 動きにする	緩急強弱と空間 を使った動きにする
連続	立つー座るー立つ		8カウントでつなぐ（4×8を4種類）	上記の動きをつなぐ 8カウントで複数をつないで行う	ロープ（ひも）を両手にもって下肢をねじる	上記の動きを3回繰り返す	変化を付けたひと流れにする	変化を付けたひと流れにする
構成								
作品								

単元計画（具体的な内容）6時間目～10時間目

時間	6時間目	7時間目	8時間目	9時間目	10時間目
ねらい	ねらい2 テーマにふさわしいイメージをとらえて踊る（簡単な作品にまとめる）				
	踊り込んで作品を創る	踊り込んで作品を創る	踊り込んで作品を創る	動きを確認して踊り込む	発表会
運動	テーマ「春夏秋冬」「働く人」の動きのイメージをとらえる	テーマ「春夏秋冬」「働く人」の動きのイメージをとらえる			
変化	緩急強弱と空間を使うことで動きを変える	緩急強弱と空間を使うことで動きを変える			
連続	ひと流れの動きにする	ひと流れの動きにする	ひと流れの動きを繰り返す		
構成	「はじめ—なか—おわり」で作品にまとめて踊る	「はじめ—なか—おわり」で作品にまとめて踊る	「はじめ—なか—おわり」で作品にまとめて踊る		
作品			イメージをとらえて表現して踊る	踊り込みの中でイメージをとらえて表現して踊る	イメージをとらえて簡単な作品にして踊る

## (5) 指導の工夫について

### ア 場の工夫

#### (ア) 見せ合い

授業実施時は、複数グループが踊る側と見る側の2つに別れ、交代で行う。

#### (イ) 相互評価

見せ合いの機会を増やし、相互によさを指摘しあう時間をつくる。

口頭でグループの代表者による、他の班のよさを述べる時間をつくる。

学習ノートに自分・自分のグループ・他のグループのよさを自由記述することで自分も代表者になるつもりで工夫する。

#### (ウ) グループ学習（グループワーク）

教え合い、助け合いによって、自主的・協力的に学習を進めることや見せ合い・相互評価を行いやすくするために取り入れる。

### イ 教材・教具の工夫

#### (ア) スライド映像の活用

学校でも日常的に発表が行われている中で、生徒自身もスライドを使ってプレゼンテーションを実施する。

今回の授業では、効果的に指示を伝え、活動時間を確保するために取り入れる。

#### 4 授業の実際

10 時間扱いの 1 時間目 平成 22 年 9 月 24 日 (金) 第 3 校時 (10 : 40~11:25) 短縮 45 分			
ねらい 1 イメージをとらえる (即興的に表現する)			
本時のねらい (1) 創作ダンスの名称や用語を理解する。 (2) 健康・安全を確保しながら運動する。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
は じ め 10 分	○集合、挨拶、出欠確認 ○本時の学習のねらいを確認 ○準備運動 (ランニング、体操、補強運動)	・生徒の健康状態を確認する。 ・横浜清陵総合高校『体育科授業規約』の確認をする。 ・本時の学習のねらいを具体的に説明する。	
な か 25 分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作ダンスに関するいろいろな名称や用語があること</li> <li>・健康を保持したり自己の仲間の安全を保持したりすること</li> </ul> </div> <p>1 ユニゾン・カノン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運動⇒変化⇒連続</b></li> <li><b>運動</b> 並ぶ・立つ (足の位置)・座る 手の動き (下・腰・上) 見る (前・横)</li> <li><b>変化</b> 一斉で動く、ずらしで動く</li> <li><b>連続</b> 立つー座るー立つ</li> </ul> <p>2 『ダンスの特性・踊りの由来』 バレエの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運動⇒変化</b></li> <li><b>運動</b> 足首や膝を曲げる・伸ばす、 手を下す、横、上に伸ばす</li> <li><b>変化</b> 深く曲げる、高く伸びる *柔軟性を高める運動を行う。</li> </ul> <p>3 仮グループ・メンバー決めを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康・安全を確かめながら、取り組むよう助言する。</li> <li>・運動のポイントを意識しながら行えるよう支援する。</li> <li>・ずらしは素早くはつきり次の人に動作が分かるようにする</li> <li>・授業の流れと作品にあるはじめーなかーおわりのメリハリを意識して行う。</li> <li>・体幹と呼吸を意識するよう助言する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に活動することの大切さをその都度説明する</li> <li>・練習内容や方法について具体的に示し、理解を促す。</li> </ul> </div>	<p>[関・意・態]④ 健康・安全に留意して運動している。 (行動観察・学習ノート記述)</p> <p>[知・理]① 創作ダンスの名称や用語について、言ったり書きだしたりしている。 (学習ノート記述)</p>
ま と め 10 分	○学習の振り返りを行う。 ○後片付け ○集合・挨拶	・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。	

**【授業者による振り返り】** (本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

名称や用語のうちユニゾン・カノン・列の使い方を実際の日常の動作として行い、創作ダンスにふさわしい個や群の動きの大切さを改めて感じた。活動の工夫として、安全面の確保 (準備運動の間隔保持・全員揃う間) を考えて生徒の活動を確保することが重要と感じた。

10時間扱いの2時間目 平成22年9月28日(火) 第1校時(8:50~9:35) 短縮45分			
ねらい1 イメージをとらえる(即興的に表現する)			
本時のねらい (1) 創作ダンスの楽しさや喜びを味わおうとしている。 (2) 踊りの特徴と表現の仕方について理解する。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	○準備、集合、挨拶、出席確認 ○本時の学習のねらいを確認 ○準備運動	・生徒の健康状態を確認する。 ・発問しながら、前時に学習したことを思い出し、確認する。 ・本時の学習のねらいを具体的に説明する。	
なか 25分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間とともにイメージをとらえて自己を表現すること</li> <li>・イメージを自由にとらえて仲間とともに表現し合って踊ること</li> </ul> </div> <p>1 エアロビックダンスを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運動⇒変化⇒連続</b></li> <li><b>運動</b> 踏む・歩く(前後左右)</li> <li><b>変化</b> リズムに動きをのせる</li> <li><b>連続</b> 8カウントでつなぐ(4×8を4種類)</li> </ul> <p>2 創作ダンスのグループワークを行う。 1人1種類を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運動⇒変化⇒連続</b></li> <li><b>運動</b> 踏む・歩く</li> <li><b>変化</b> 8844221111でリズムを変える</li> <li><b>連続</b> 上記の動きをつなぐ</li> <li><b>連続</b> 8カウントで複数をつないで行う</li> </ul> <p>3 見せ合いながら全体で行う。</p> <p>4 グループのメンバーと本時の即興の作品に題とイメージをつけてみる。</p>	<p>・サンプルプログラム「エアロビックダンス技能初級」を使って、エアロビックのダンスウォームアップを支援する。</p> <p>・日常の簡単な運動を1人1つ出し合って自分たちから出てきたものを大事にすることを助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作ダンスの楽しさや喜びについて興味を持てるように説明する。</li> <li>・練習内容や方法について具体的に示し、理解を促す。</li> </ul> </div>	<p>[関・意・態]① 創作ダンスの楽しさや喜びを味わおうとしている。 (行動観察・学習ノート記述)</p> <p>[知・理]② 踊りの特徴と表現の仕方について、言ったり書きだしたりしている。 (学習ノート記述)</p>
ま と め 10分	○学習の振り返りを行う。 ○後片付け ○集合・挨拶	・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。	

**【授業者による振り返り】**(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

自主的に動いている生徒と、動いていない生徒へのアドバイスのタイミングが難しいと感じた。

ただ「楽しかった」で終わってしまう授業にならないようにその時間のねらいにあった手立てが必要と感じた。

10時間扱いの3時間目 10月1日(金) 第3校時(10時40分~11時25分) 短縮45分			
ねらい1 イメージをとらえる(即興的に表現する)			
本時のねらい (1) 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付ける。 (2) 創作ダンスの関連した体力の高め方について理解する。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備、集合、挨拶、出席確認</li> <li>○本時の学習のねらいを確認</li> <li>○準備運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康状態を確認する。</li> <li>・前時に学習したことを思い出し、確認する。</li> <li>・本時の学習のねらいを具体的に説明する。</li> </ul>	
なか 25分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいテーマにふさわしいイメージを見付けるための取り組み方を工夫することができるようにすること。</li> <li>・柔軟性、平衡性、筋持久力などに影響があること。</li> </ul> </div> <p>1 ものを使った動きで変化をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運動⇒変化⇒連続</b></li> <li><b>運動</b> 踏む・歩く・小さく走る・跳ぶ</li> <li><b>変化</b> 1mのロープ(ひも)をラインにして動く</li> <li><b>連続</b> ロープ(ひも)両手に持って下肢をねじる</li> <li>*変化については速さと方向を変えてステップを変える。</li> </ul> <p>2 創作ダンスのグループワークを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミングと同様アイデアを出し合うことを強調する。</li> <li>1人1種類を行う。</li> <li>・<b>運動⇒変化⇒連続</b></li> <li><b>運動</b> 踏む、歩く</li> <li><b>変化</b> 8 8 4 4 2 2 1 1 1 1 ×人数</li> <li><b>連続</b> 上記の動きを3回繰り返す</li> </ul> <p>3 見せ合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後半のグループでそれぞれ行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体幹を使った『ねじる』動きを行う。</li> <li>・カウントのとり方、空間のとり方を指導・助言する。(再確認)</li> <li>・ブレインストーミングでは恥ずかしがらずに、批判禁止、みんなで新しいものを次々に、どんな小さな意見も大事に助言する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習方法やポイントが分かりやすくする</li> <li>・グループでのコミュニケーションが活発になるように支援し、理解が深められるように促す。</li> </ul> </div>	<p>[思・判]① 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。 (行動観察・学習ノート記述)</p> <p>[知・理]③ 創作ダンスに関連した体力の高め方について、言ったり書きだしたりしている。 (行動観察・学習ノート記述)</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の振り返りを行う。</li> <li>○後片付け</li> <li>○集合・挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。</li> </ul>	

**【授業者による振り返り】**(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

時間配分を間違えてしまい、あわただしい授業で内容が不十分で終わってしまった。ものを使った動きの中が、模倣動作で終わってしまい、体力を高める段階まで至らなかった。

10時間扱いの4時間目 平成22年10月5日(火) 第1校時(8:50~9:40)			
ねらい1 イメージをとらえる(即興的に表現する)			
本時のねらい (1) 即興的に表現したりして踊るための動きができる。 (2) 個や群で、緩急強弱のある動きができる。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	○準備、集合、挨拶、出席確認 ○準備運動(ダンスウォームアップ) ○本時の学習のねらいを確認	・生徒の健康状態を確認する。 ・発問しながら、前時に学習したことを思い出し、確認する。 ・本時の学習のねらいを具体的に説明する。	
なか 30分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、即興的に表現したりして踊るようにできること。</li> <li>・グループにおける個人や集団の動きがあること。</li> <li>・イメージをすぐに動きに変えたりして表現すること。</li> </ul> </div> <p>1 創作グループワークを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミングで行う。</li> <li>・<b>運動⇒変化⇒連続</b></li> <li><b>運動</b> 日常的な動作 (起きてから今までの私)</li> <li><b>変化</b> 緩急強弱のある動きにする。</li> <li><b>連続</b> 変化を付けたひと流れの動きにする。</li> </ul> <p>2 見せ合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後半のグループでそれぞれ行う。</li> <li>・感想を言い合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミングでは恥ずかしがらずに、批判禁止、みんなで新しいものを次々に、どんな小さな意見も大事にすることを確認し助言する。</li> <li>・ゆっくりしたり速くしたり、アクセントをつけたりする。</li> <li>・発問でよかったところを述べさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習資料を活用し、練習方法やポイントが分かりやすくする。</li> </ul> </div>	<p>[技能]④ 即興的に表現して踊るための動きができる。 (行動観察・学習ノート記述)</p> <p>[技能]② 個や群で、緩急強弱のある動きができる (行動観察・学習ノート記述)</p>
まとめ 10分	○学習の振り返りを行う。 ○後片付け ○集合・挨拶	・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。	

**【授業者による振り返り】**(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

音楽をかけて行ったが、生徒は動きを音楽に合わせることに集中してしまい、動きの多様さやイメージをとらえることができなかった。イメージをすぐに動きに変えることでは、予想していた以上の数の表現があった。家を出るまでの動きの種類が細かく多くなった。家、登校、学校の3つの場面でイメージを端的にとらえて進めることを助言した。日常的にグループワークのブレインストーミングを実施しているので、まともりは付かなくても出し合うことはできていた。

10時間扱いの5時間目 平成22年10月8日(金) 第3校時(10:50~11:40)			
ねらい1 イメージをとらえる(即興的に表現する)			
本時のねらい (1) 練習や発表の際に、互いの違いやよさを認め合う。 (2) 緩急強弱と空間の使い方に変化を付けて踊る動きができる。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	○準備、集合、挨拶、出席確認 ○準備運動(ダンスウォームアップ) ○本時の学習のねらいを確認	・生徒の健康状態を確認する。 ・発問しながら、前時に学習したことを思い出し、確認する。 ・本時の学習のねらいを具体的に説明する。	
なか 30分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間のよいアイデアや表現に賞賛すること。</li> <li>・イメージをすぐに動きに変えたりして表現すること。</li> </ul> </div> <p>1 風船を使ってグループワークを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツシーンのイメージを出し合う。</li> <li>・<b>運動⇒変化⇒連続</b></li> <li><b>運動</b> 簡単な運動(バレーボール)</li> <li><b>変化</b> 緩急強弱と空間を使った動きにする。</li> <li><b>連続</b> 変化を付けたひと流れの動きにする。</li> </ul> <p>2 見せ合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後半のグループでそれぞれ行う。</li> <li>・感想を言い合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボールのイメージをプレインストーミングで出し合う。</li> <li>・動きに変化を付けて行う。</li> <li>・場を上手く使って、交代で行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの違いやよさを認め合えるような雰囲気づくりに配慮する。</li> </ul> </div>	<p>[関・意・態]② 練習や発表の際に互いの違いやよさを認め合おうとしている。 (行動観察・学習ノート記述)</p> <p>[技能]③ 緩急強弱と空間の使い方に変化を付けて踊る動きができる。 (行動観察・学習ノート記述)</p>
まとめ 10分	○学習の振り返りを行う。 ○後片付け ○集合・挨拶	・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。	

**【授業者による振り返り】**(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

小さな動きを緩急強弱、空間の使い方に変化を使うことがねらいとして、風船を使うことを行った。検証の比較は、風船を使った動きと使わなかった動きの両方で、緩急強弱、空間の使い方が概ねできていた。ただし、グループによって差ができてしまった。

10時間扱いの6時間目 平成22年10月12日(火) 第1校時(8:50~9:40)			
ねらい2 テーマにふさわしいイメージをとらえて踊る(簡単な作品にまとめる)			
本時のねらい (1) 自己の責任を果たそうとしている。 (2) 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付ける。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
は じ め 10 分	○準備、集合、挨拶、出席確認 ○準備運動(ダンスウォームアップ) ○本時の学習のねらいを確認	・生徒の健康状態を確認する。 ・発問しながら、前時に学習したことを思い出し、確認する。 ・本時の学習のねらいを具体的に説明する。	
な か 30 分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>○仲間と合意した役割に、責任をもって自主的に取り組もうとすること。 ○テーマにふさわしいイメージをみつけるための取り組み方を工夫することができるようにすること。</p> </div> <p>1 10時間目の発表について、説明を行う。 ・テーマ 「春夏秋冬」「働く人」</p> <p>2 テーマのヒントをもとに、イメージを見付ける。</p> <p>3 踊り込んで作品を創る。 ・<b>運動⇒変化⇒連続⇒構成</b> <b>運動</b> 日常的な運動や作業動作、スポーツなどの中で現れる運動 <b>変化</b> 緩急強弱、空間を使うことで動きを変える。 <b>連続</b> ひとながれの動きにする。 <b>構成</b> はじめ、なか、おわりで作品にまとめて踊る。</p>	<p>・各グループ3分程度の簡単な作品を創ること、発表時の場の設定で踊る人と観る人の位置、交流会の進め方などを説明する。</p> <p>・テーマについて、ブレインストーミングを行う。</p> <p>・グループの仲間同士で互いに観察し合うように支援すること。</p> <p>・テーマにあったイメージのある動きを考える。</p> <p>・グループで振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b> ・学習ノートや対話を通じて課題を見付けられるようにする。</p> </div>	<p>[思・判]① 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。 (行動観察・学習ノート記述)</p> <p>[関・意・態]③ 自己の責任を果たそうとしている。 (行動観察・学習ノート記述)</p>
ま と め 10 分	○学習の振り返りを行う。 ○後片付け ○集合・挨拶	・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。	

**【授業者による振り返り】**(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

動きの中で考えることを行った。ブレインストーミングなどグループワークができていたと感じた。

5班ともテーマにふさわしいイメージが伝わる工夫をしていた。その結果、特にテーマが、「働く人」のところ、イメージが伝わりやすくなった。

10時間扱いの7時間目 平成22年10月15日(金) 第3校時(10:50~11:40)			
ねらい2 テーマにふさわしいイメージをとらえて踊る(簡単な作品にまとめる)			
本時のねらい (1) 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている (2) 簡単な作品にまとめたりして踊るための動きができる。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体の評価規準
はじめ 10分	○準備、集合、挨拶、出席確認 ○準備運動(ダンスウォームアップ) ○本時の学習のねらいを確認	・生徒の健康状態を確認する。 ・発問しながら、前時に学習したことを思い出し、確認する。 ・本時の学習のねらいを具体的に説明する。	
なか 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえること。</li> <li>・個性を生かした簡単な作品にまとめたりして踊るようにできること。</li> </ul> <p>1 踊り込んで作品を創る。</p> <p>・<b>運動⇒変化⇒連続⇒構成</b></p> <p><b>運動</b> 日常的な運動や作業動作、スポーツなどの中で現れる運動</p> <p><b>変化</b> 緩急強弱、空間を使うことで動きを変える。</p> <p><b>連続</b> ひとながれの動きにする。</p> <p><b>構成</b> はじめ、なか、おわりで作品にまとめて踊る。</p> <p>2 見せ合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後半のグループでそれぞれ行う。</li> <li>・感想を言い合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に続き、運動から変化、連続まで進めること、各グループ3分程度にまとめることを支援する。</li> <li>・イメージや運動が沢山出た場面を中心に、動きを見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえ、整理することを支援する。</li> <li>・ブレインストーミングからの運動を尊重しまとめきれないときは、運動に変化を付けてひとながれにするよう助言する。</li> <li>・手拍子・足拍子などを加えたり、緩急強弱を組み合わせることもできることを助言する。</li> <li>・「はじめ」の内容が多い場合は、それに関連した簡単な動きで前後をつけてみることを助言する。</li> <li>・取り組みやすいと思われるものは変化を付けて、誇張したり繰り返したりすることを助言する。</li> <li>・運動ができた段階でさらに、変化を加えることを助言する。空間の使い方に個や郡の動きとして、大回り・小回り、密集・分散、対極の動きの連続の走る・跳ぶ・転がる、伸びる・縮む、ねじる・回る・見るなどを加えるなど深みをつける。</li> <li>・グループで振り返るよう支援する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が発問したりアドバイスをしたりして思考を促す。また、技能的な課題がある場合には、教師が見本を見せることで、動きのイメージを持たせるようにする。</li> <li>・練習方法やポイントが分かりやすくする。</li> </ul> </div>	<p>[思・判]① 創作ダンスの表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。 (行動観察・学習ノート記述)</p> <p>[技能]⑤ 簡単な作品にまとめたりして踊るための動きができる。 (行動観察・学習ノート記述)</p>
まとめ 10分	○学習の振り返りを行う。 ○後片付け ○集合・挨拶	・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。	
<p><b>【授業者による振り返り】</b>(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等) 表したいテーマのイメージをとらえることは、生徒の声かけや学習ノートの記述に現れていた。作品にまとめたりして踊るための動きは、生徒自身の中から出てくる明るさや元気なものが多かった。</p>			

10時間扱いの8時間目 平成22年10月19日(火) 第1校時(8:50~9:40)			
ねらい2 テーマにふさわしいイメージをとらえて踊る(簡単な作品にまとめる)			
本時のねらい (1) 創作ダンスの特徴に合った踊りの構成を見付ける。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	○準備、集合、挨拶、出席確認 ○準備運動 ○本時の学習のねらいを確認	・生徒の健康状態を確認する。 ・発問しながら、前時に学習したことを思い出し確認する。 ・本時の学習のねらいを具体的に説明する。	
なか 30分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>・創作ダンスの特徴にあった踊りの構成を見付けるための取り組み方を工夫すること。</p> </div> <p>1 踊り込んで作品にまとめる。</p> <p>・<b>連続⇒構成⇒作品</b></p> <p><b>連続</b> ひとながれの動きを繰り返す</p> <p><b>構成</b> はじめ、なか、おわりで作品にまとめて踊る。</p> <p><b>作品</b> イメージをとらえて表現して踊る</p> <p>2 見せ合いを行う。</p> <p>・前後半のグループでそれぞれ行う。</p> <p>・相互評価や意見交換をする。</p> <p>3 よかった点やアドバイスをもとにグループ毎に深める。</p>	<p>・選んだ3つの場面にストーリー性を持たせることを助言する。</p> <p>・構成から作品にまとめる際に感じを込めて踊ることを指導する。</p> <p>・踊りの構成を見付けるための取り組み方を工夫する支援する。</p> <p>・踊る人の感じと見る人に伝わった感じの意見交換をしてみることを助言する。</p> <p>・互いに出し合ったよさをさらに誇張し、取り入れたり変化を付けることを支援する。</p> <p>・個性を生かした簡単な作品にまとめることを支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <p>・教師が発問したりアドバイスをしたりして思考を促す。</p> <p>また、技能的な課題がある場合には、教師が見本を見せることで、動きのイメージを持たせるようにする。</p> </div>	[思・判]② 創作ダンスの特徴に合った踊りの構成を見付けている(行動観察・学習ノート記述)
まとめ 10分	○学習の振り返りを行う。 ○後片付け ○集合・挨拶	・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。	

**【授業者による振り返り】**(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

生徒の運動から連続した動きにはなっていた。さらに変化を付けるために回った。

創る時間が欲しい要望の中、見せ合いの時間がパターン化し工夫が必要だと感じた。

10時間扱いの9時間目 平成22年10月22日(金) 第3校時(10:50~11:40)			
ねらい2 テーマにふさわしいイメージをとらえて踊る(簡単な作品にまとめる)			
本時のねらい (1) 交流や発表の仕方について理解する。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ5分	○準備、集合、挨拶、出席確認 ○準備運動 ○本時の学習のねらいを確認 ○感じを込めて深めて表現することをビデオ教材で再確認する。	・生徒の健康状態を確認する。 ・安全への配慮などについて説明する。	
なか40分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・発表会など、見る人も拍手をしたり、リズムをとるなどしたりして交流し合う方法があること。</p> </div> <p>1 グループ毎の動きを確認し、踊り込む。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">作品</div> 踊り込みの中でイメージをとらえて表現して踊る</p> <p>2 発表会の時の場所を確認する。 合計5分程度で行う。</p>	<p>・運動を中心に体を動かすことから、グループワークを行うよう支援する。</p> <p>・これまで出てきたもののながれを大事に踊り込み、感じを込めることを支援する。</p> <p>・グループによって、3分にならない場合は同じ動きを繰り返すことで、作品に仕上げることを助言する。</p> <p>・発表会の前に各班で場所や動きを確認し、恥ずかしがらずに動くことを助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <p>・グループでのコミュニケーションが活発になるように支援し、理解が深められるように促す。</p> </div>	<p>[知・理]④ 交流や発表の仕方について言ったり書きだしたりしている。 (行動観察・学習ノート記述)</p>
まとめ5分	○学習の振り返りを行う。 ○後片付け ○集合・挨拶	・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。また本時の振り返りをもとに、次時の目標も記入するよう指示する。	

**【授業者による振り返り】**(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

練習の時間中、順番に実際の場所の確認を行った。見せ合いの時間を省略したことで、時間に余裕ができ、作る時間が増えた。生徒たちは最後の練習の時間を楽しんでいただいていた様子だった。

10時間扱いの10時間目 平成22年10月26日(火) 第1校時(8:50~9:40)			
ねらい2 テーマにふさわしいイメージをとらえて踊る(簡単な作品にまとめる)			
本時のねらい (1) 創作ダンスの楽しさや喜びを味わおうとしている。 (2) 創作ダンスでは、表したいテーマふさわしいイメージをとらえる。			
	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準備、集合、挨拶、出席確認</li> <li>○ 準備運動</li> <li>○ 本時の学習のねらいを確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康状態を確認する。</li> <li>・発問しながら、前時に学習したことを思い出し、確認する。</li> <li>・本時の学習のねらいを具体的に説明する。</li> </ul>	
なか 35分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージをとらえ、みんなで自由に踊ったりする。</li> <li>・イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をする。</li> </ul> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループ毎に動きの確認を行う。</li> <li>2 発表会を行う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作品</span> イメージをとらえて簡単な作品にして踊る</li> <li>3 発表会の評価を行う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5分程度の確認をするよう支援する。</li> <li>・各グループ3分で行う。</li> <li>・よかったところを賞賛する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【支援を要する生徒への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの違いやよさを認め合えるような雰囲気づくりに配慮する。</li> </ul> </div>	<p>[関・意・態]① 創作ダンスの楽しさや喜びを味わおうとしている。 (行動観察・学習ノート記述)</p> <p>[技・能]① 創作ダンスでは、表したいテーマふさわしいイメージをとらえることができる。 (行動観察・学習ノート記述)</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の振り返りを行う。</li> <li>○ 後片付け</li> <li>○ 集合・挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を振り返りながら、自分の活動を学習ノートにまとめられるよう支援する。</li> </ul>	

**【授業者による振り返り】**(本時のねらいに対しての指導の振り返りや生徒の様相等)

生徒のこれまでのグループワークとしての楽しさはあった。見せ合いから発表会にたどり着いたグループとこれまでどおりのグループがあり、似たような作品に落ち着いた雰囲気を感じた。ダンスを創って踊った達成感を感じた。

## 5 検証授業の結果と考察

研究主題に迫るため、検証授業から得られたデータを基に、分析の視点に沿って分析し、表現形式を使った授業によってイメージをとらえ踊れるようになり、踊る楽しさや喜びを味わうことができたかを考察していくこととする。なお、分析・考察を進める上で、文中に使用した図表の生徒数については、表3-2のとおりである。

表3-2

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
生徒数	30	29	28	29	29	26	29	26	27	28

### (1) 表現形式を踏まえた授業に取り組んだか

ア 表現形式を踏まえた授業に取り組んだか。

(ア) 「とりくむ」の1時間ごとの比較

学習ノートに使用したP9の表2-7の「ダンス授業評価の構造」の「とりくむ」についての質問項目「9、2、1、8、12、4」を取り上げ、1時間目から10時間目で比較をした。結果は図3-1から図3-6のとおりである。

図3-1は、「自分から進んで学習できた」の1時間ごとの取り組みの比較である。1時間目を除き、毎時間約6割以上の生徒が「自ら進んで学習できた」と回答している。

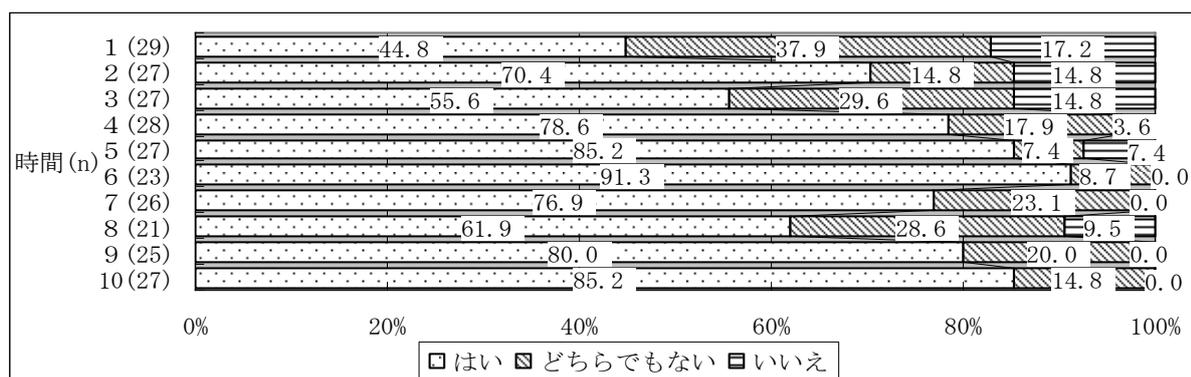


図3-1 「自分から進んで学習できた」の1時間ごとの取り組みの比較

図3-2は、「積極的に意見を出せた」の1時間ごとの取り組みの比較である。1時間目を除き、毎時間約6割以上の生徒が「積極的に意見を出せた」と回答している。

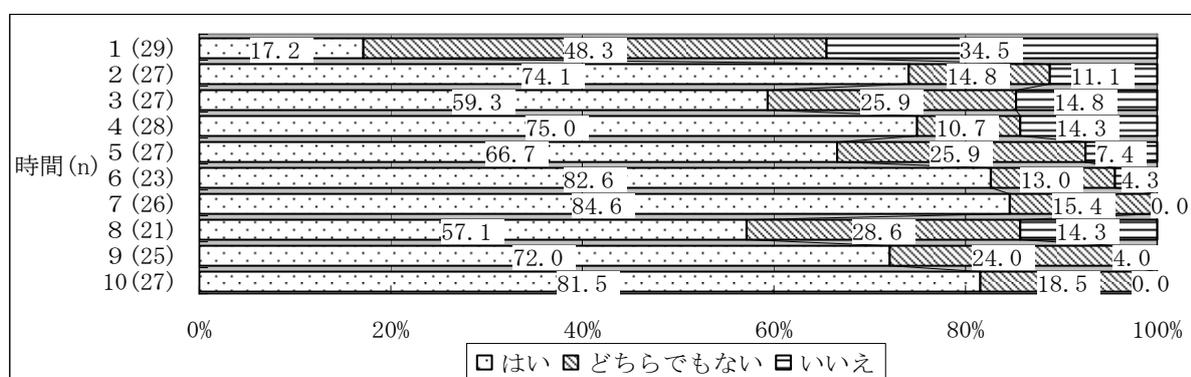


図3-2 「積極的に意見を出せた」の1時間ごとの取り組みの比較

図3-3は、「恥ずかしがらずに取り組めた」の1時間ごとの取り組みの比較である。1時間目を除き、毎時間約6割以上の生徒が「恥ずかしがらずに取り組めた」と回答している。

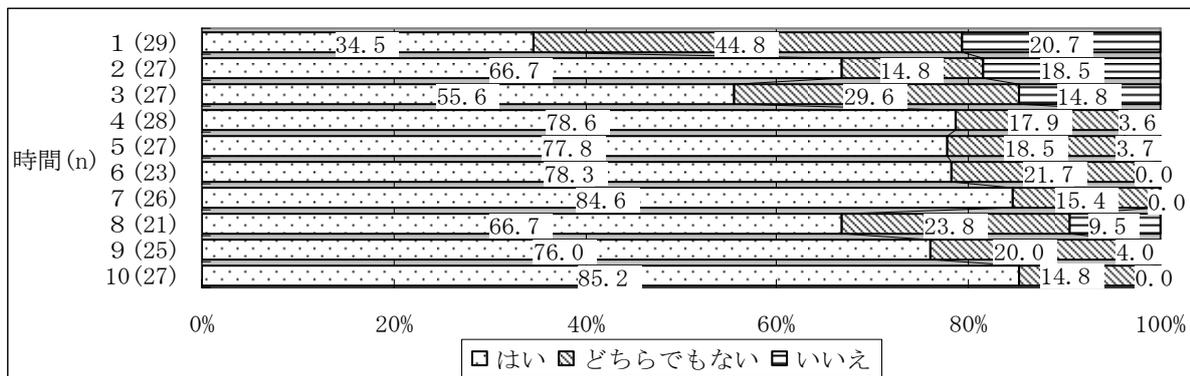


図3-3 「恥ずかしがらずに取り組めた」の1時間ごとの取り組みの比較

図3-4は、「めあてに向かって練習できた」の1時間ごとの取り組みの比較である。1時間目を除き、毎時間約7割以上の生徒が「めあてに向かって練習できた」と回答している。

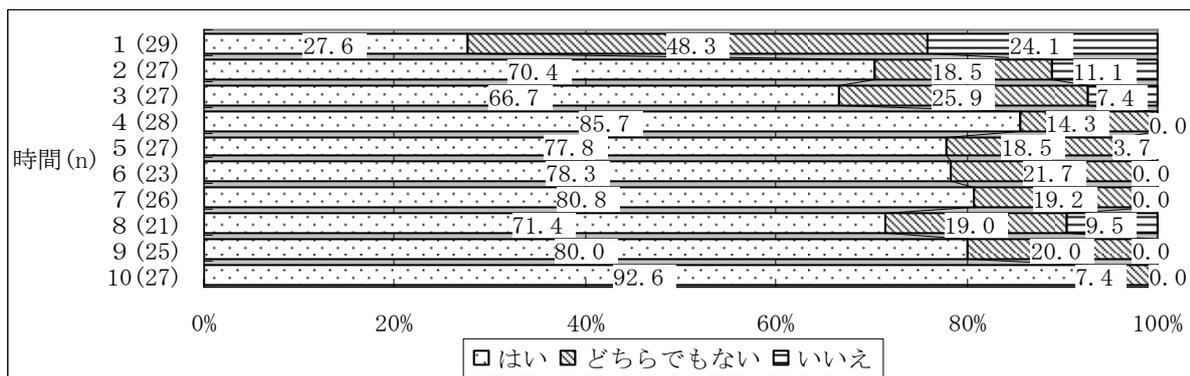


図3-4 「めあてに向かって練習できた」の1時間ごとの取り組みの比較

図3-5は、「全身を使って踊れた」の1時間ごとの取り組みの比較である。1時間目を除き、毎時間約6割以上の生徒が「全身を使って踊れた」と回答している。

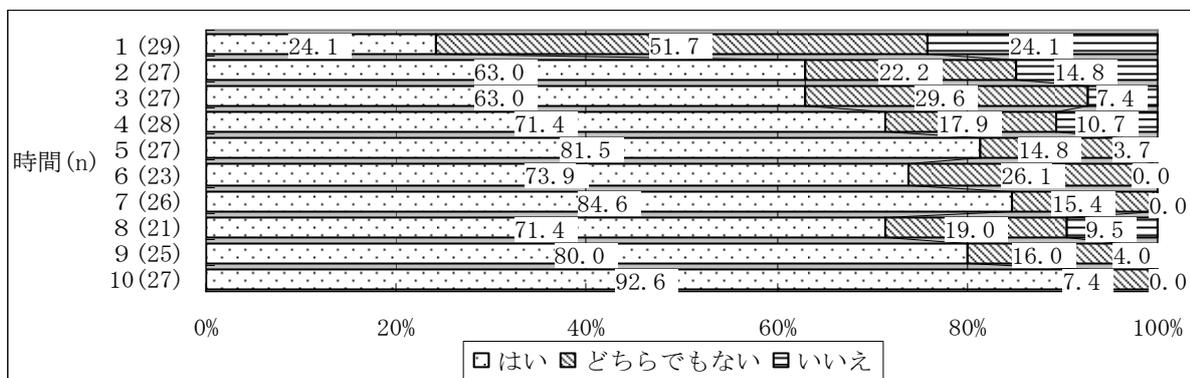


図3-5 「全身を使って踊れた」の1時間ごとの取り組みの比較

図3-6は、「せいっぱい運動できた」の1時間ごとの取り組みの比較である。1時間目を除き、毎時間約7割以上の生徒が「せいっぱい運動できた」と回答している。

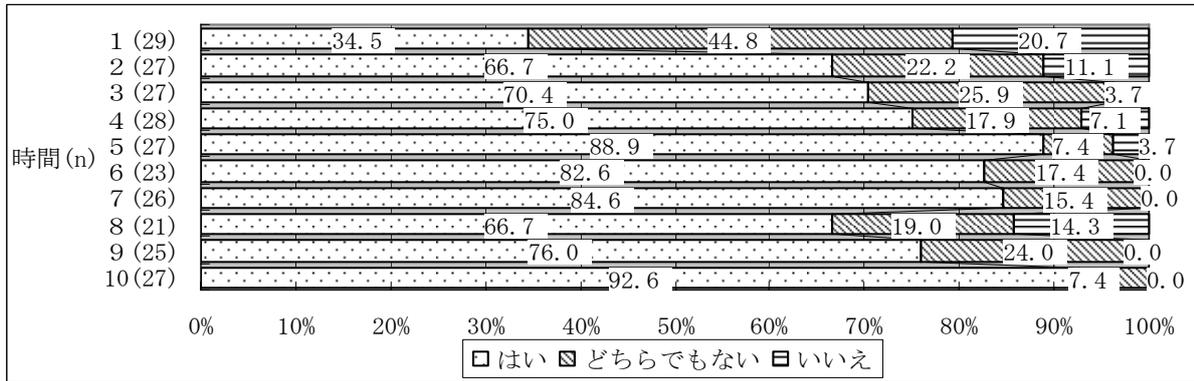


図3-6 「せいっぱい運動できた」の1時間ごとの取り組みの比較

(イ) 「とりくむ」の事前・事後の比較

事前・事後アンケートで使用したP9の表2-7の「ダンス授業評価の構造」の「とりくむ」についての質問項目「9、2、1、8、12、4」を取り上げ、事前と事後で比較をした。結果は図3-7から図3-12のとおりである。

図3-7は、「自分から進んで学習できた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が34.5%から69.0%に増え、「いいえ」と回答した生徒が44.8%から3.4%に減った。

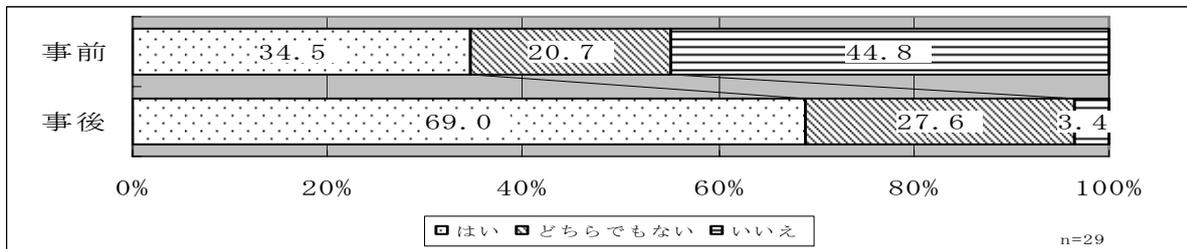


図3-7 「自分から進んで学習できた」の事前・事後アンケートの比較

図3-8は、「積極的に意見を出せた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が34.5%から65.5%に増え、「いいえ」と回答した生徒が34.5%から6.9%に減った。

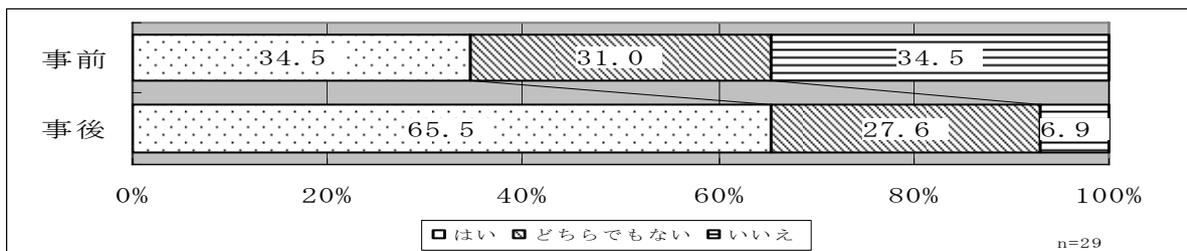


図3-8 「積極的に意見を出せた」の事前・事後アンケートの比較

図3-9は、「恥ずかしがらずに取り組めた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が41.4%から69.0%に増え、「いいえ」と回答した生徒が44.8%から6.9%に減った。

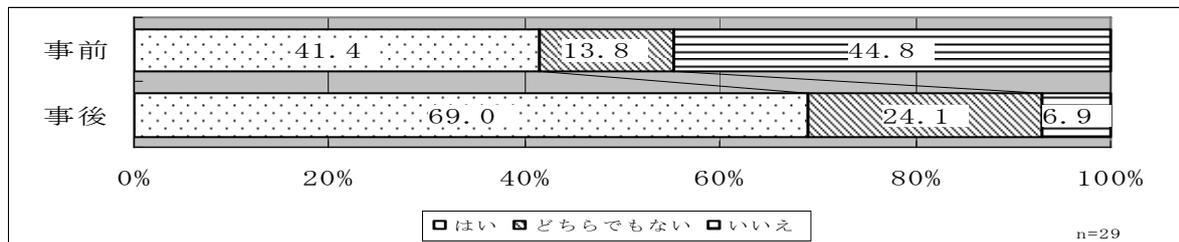


図3-9 「恥ずかしがらずに取り組めた」の事前・事後アンケートの比較

図3-10は、「めあてに向かって練習できた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が34.5%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が41.4%から3.4%になった。

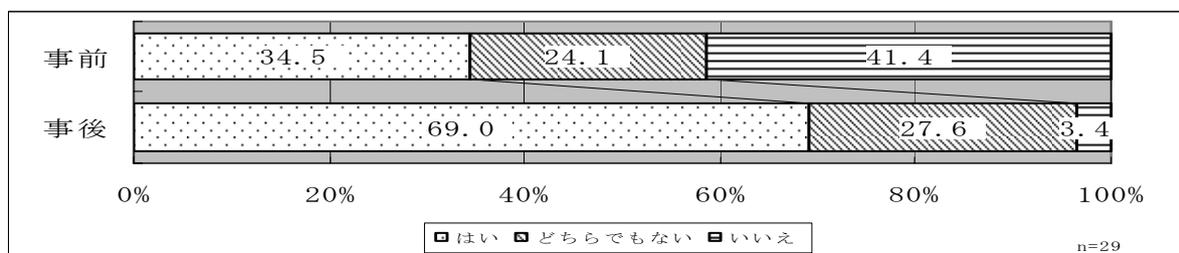


図3-10 「めあてに向かって練習できた」の事前・事後アンケートの比較

図3-11は、「全身を使って踊れた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が51.7%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が34.5%から3.4%になった。

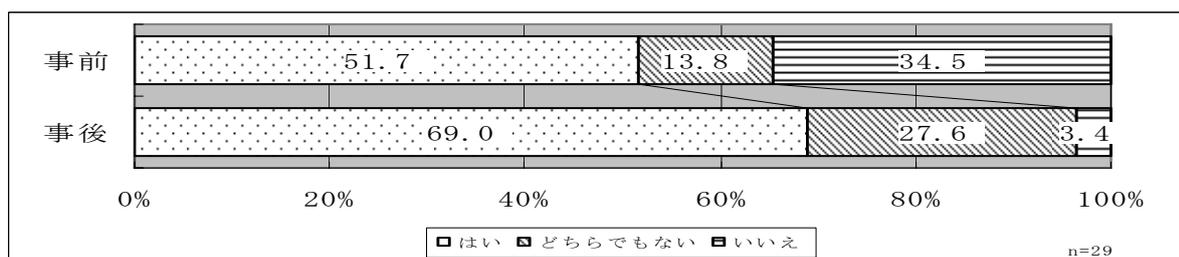


図3-11 「全身を使って踊れた」の事前・事後アンケートの比較

図3-12は、「せいいっぱい運動できた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が31.0%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が48.3%から3.4%になった。

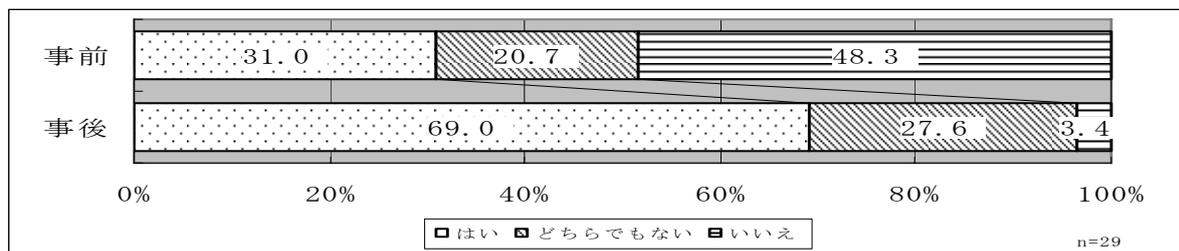


図3-12 「せいいっぱい運動できた」の事前・事後アンケートの比較

(1) ア「表現形式を踏まえた授業に取り組んだか」についての考察

「とりくむ」の1時間ごとの比較から、全体的に3時間目と8時間目に「はい」と回答した生徒が減っている。これは、前半の5時間と後半の5時間の中間にあたり、グループワークや創作活動が停滞したからだと考えられる。

「自分から進んで学習できた」、「恥ずかしながら取り組めた」、「めあてに向かって練習できた」、「全身を使って踊れた」、「せいいっぱい運動できた」については、前半の5時間目、後半の10時間目に向けて「はい」と回答した生徒が増えている。これは、授業が進むにつれて生徒が取り組んでいったからだと考えられる。「積極的に意見を出せた」については、動きをつくったり、創作をする活動の時間に「はい」と回答した生徒が増えている。これは、意見を出し合いながら、動きを創ったり、創作をする活動に取り組んだからだと考えられる。(図3-1から図3-6)

「とりくむ」の事前・事後の比較から、事後で「はい」と回答した生徒が増え、「いいえ」と回答した生徒が減っている。これは、授業を進めていく過程で、グループで話し合ったり、動きをつくったり、創作をする活動で、生徒は積極的に意見を出したり、発表会というめあてに向かって練習に取り組んだからだと考えられる。また、全身を使って表現したほうがわかりやすくなる、恥ずかしながら踊るなど、イメージをとらえて踊るために自ら取り組んで学習したことで、事後の割合が増えていったと考えられる。(図3-7から図3-12)

「とりくむ」は、ダンスの授業評価では意欲的な学習評価としている観点であり、約6割の生徒が表現形式を踏まえた授業に取り組んでいたと考えられる。

(1) まとめ

以上のことから、次のことが明らかになった。

○多くの生徒が、各時間、表現形式を踏まえた授業に取り組んでいた。

このことから、表現形式を踏まえた授業に取り組んだと考える。

## (2) イメージをとらえることができたか

この分析の視点では、学習ノートに使用したP9の表2-7の「ダンス授業評価の構造」の「おどる・つくる」についての質問項目を「運動」、「変化」、「連続」、「構成」、「作品」に分類した。分類は、P14の表2-12の「表現形式の定義」と整合させ、18を「運動」、19・22を「変化」、13・17を「連続」、15・16を「構成」、20・21を「作品」とした。

ア 即興的に表現する学習過程でイメージをとらえることができたか

(ア) 「おどる・つくる」の1時間ごとの比較

学習ノートに使用したP9の表2-7の「ダンス授業評価の構造」の「おどる・つくる」についての質問項目「18・19・22・13・17」を取り上げ、1時間目から5時間目で比較をした。結果は図3-13から図3-17のとおりである。

図3-13は、「運動」、「いろいろな動きやイメージをみつけられた」の1時間目から5時間目の比較である。5時間目には、約8割の生徒が「いろいろな動きやイメージをみつけられた」と回答している。

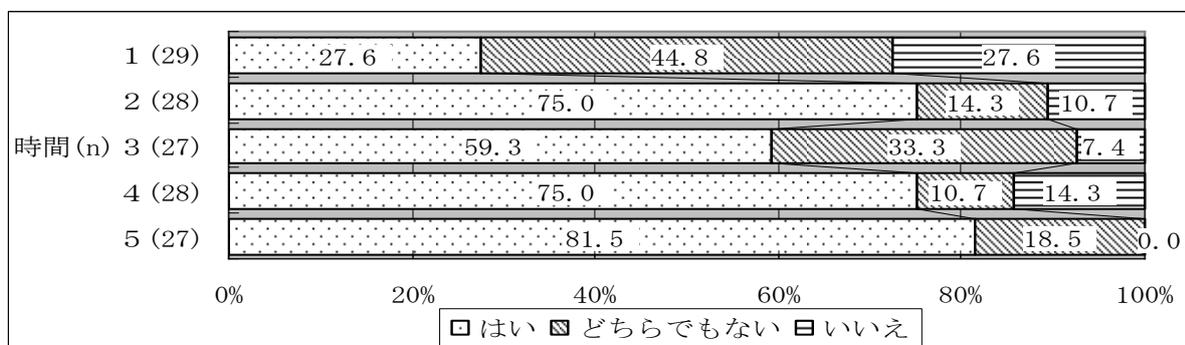


図3-13 「運動」「いろいろな動きやイメージをみつけられた」の1時間目から5時間目の比較

図3-14は、「変化」、「めりはりのある動きをつくれた」の1時間目から5時間目の比較である。5時間目には、約9割の生徒が「めりはりのある動きをつくれた」と回答している。

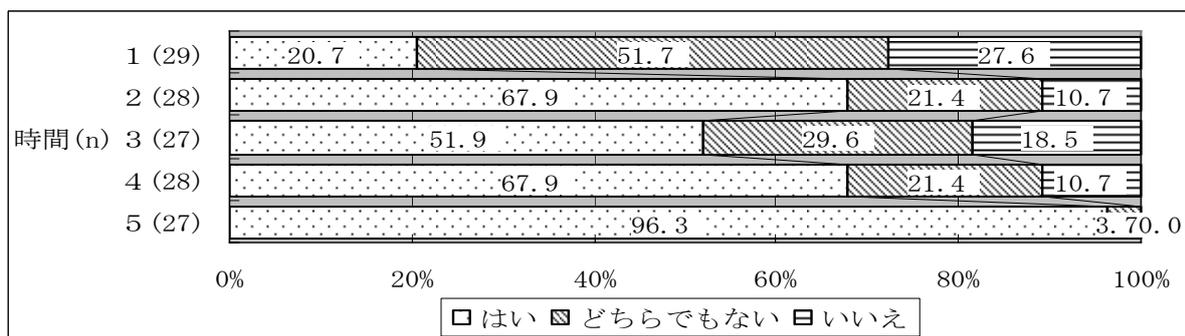


図3-14 「変化」「めりはりのある動きをつくれた」の1時間目から5時間目の比較

図3-15は、「変化」、「いろいろな空間の使い方をみつけられた」の1時間目から5時間目の比較である。5時間目には、約9割の生徒が「いろいろな空間の使い方をみつけられた」と回答している。

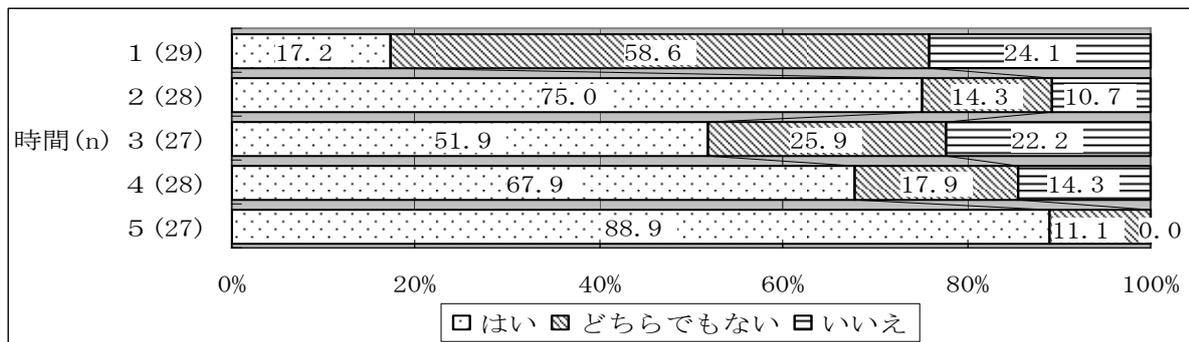


図3-15 「変化」 「いろいろな空間の使い方をみつけられた」 の1時間目から5時間目の比較

図3-16は、「連続」、「めりはりをつけて踊れた」の1時間目から5時間目の比較である。5時間目には、約9割の生徒が「めりはりをつけて踊れた」と回答している。

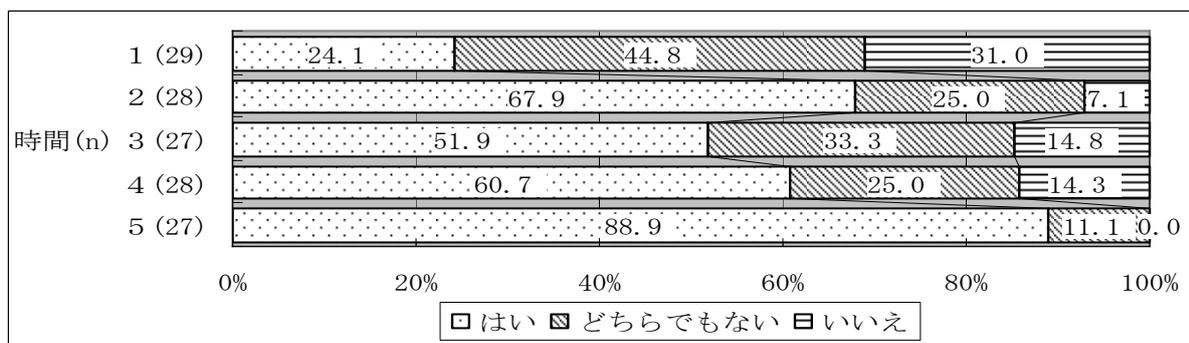


図3-16 「連続」 「めりはりをつけて踊れた」 の1時間目から5時間目の比較

図3-17は、「連続」、「新しい動きやイメージをみつけられた」の1時間目から5時間目の比較である。5時間目には、約8割の生徒が「新しい動きやイメージをみつけられた」と回答している。

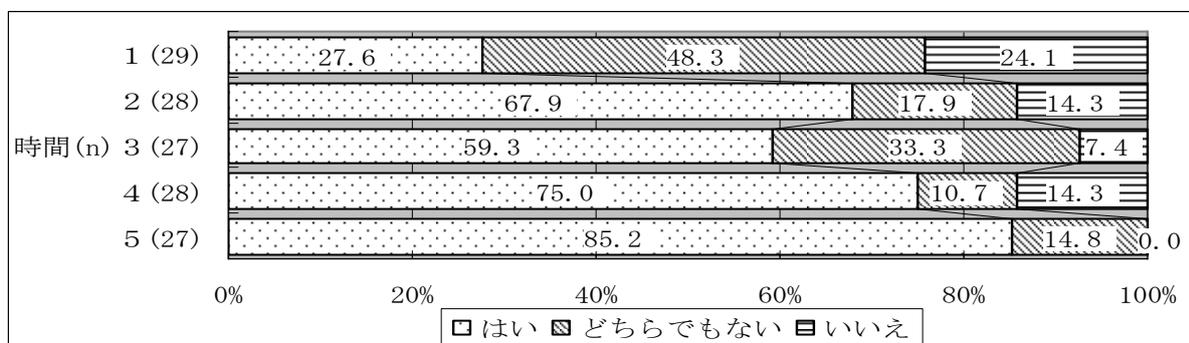


図3-17 「連続」 「新しい動きやイメージをみつけられた」 の1時間目から5時間目の比較

(イ) VTRの分析

**表3-3**がVTR分析の結果である。

今回は、バレーボールの動きをイメージして即興的に表現する5時間目の授業を分析した。感覚や心に浮かぶバレーボールのイメージを即興的に表現しているかを3人の観察者でみて、3人とも表現していると判断した生徒に○を付けて、イメージをとらえたと判断した。

生徒は、感覚や心に浮かぶバレーボールのイメージを即興的に表現していることからイメージをとらえることができていたと考えられる。

**表3-3 「即興的に表現する学習過程でイメージをとらえることができたか」 VTR分析**

班	班員	イメージをとらえているか ○とらえている ／とらえていない	班	班員	イメージをとらえているか ○とらえている ／とらえていない
1	1	○	4	1	○
	2	○		2	○
	3	○		3	○
	4	○		4	○
	5	○		5	欠
	6	○		6	○
2	1	○	5	1	○
	2	○		2	○
	3	○		3	○
	4	○		4	○
	5	○		5	○
	6	○		6	○
3	1	○			
	2	○			
	3	○			
	4	○			
	5	○			
	6	○			

**(2) ア「即興的に表現する学習過程でイメージをとらえることができたか」についての考察**

「おどる・つくる」の1時間ごとの比較（1時間目から5時間目）から、授業が進むにつれて、「はい」と回答した生徒が増えている。（**図3-13**から**図3-17**）また、映像（VTR）から、生徒は感覚や心に浮かぶバレーボールのイメージを即興的に表現していることからイメージをとらえる様子が見られた。（**表3-3**）

これは、生徒が「運動」、「変化」、「連続」を取り入れた即興的に表現する学習過程で、授業が段階的に進む中で、イメージをとらえ、めりはりのある動きがつくられて踊れたからだと考えられる。

即興的に表現する学習過程での「おどる・つくる」では、8割以上の生徒がイメージをとらえることができたと考えられる。

イ 簡単な作品にまとめる学習過程でイメージをとらえることができたか

(ア)「おどる・つくる」の1時間ごとの比較

学習ノートに使用したP9の表2-7の「ダンス授業評価の構造」の「おどる・つくる」についての質問項目「18・19・22・13・17・15・16・20・21」を取り上げ、6時間目から10時間目で比較をした。結果は図3-18から図3-26のとおりである。

図3-18は、「運動」、「いろいろな動きやイメージをみつけられた」の6時間目から10時間目の比較である。作品を創り始めた6時間目と9時間目、10時間目で9割以上の生徒が「いろいろな動きやイメージをみつけられた」と回答している。

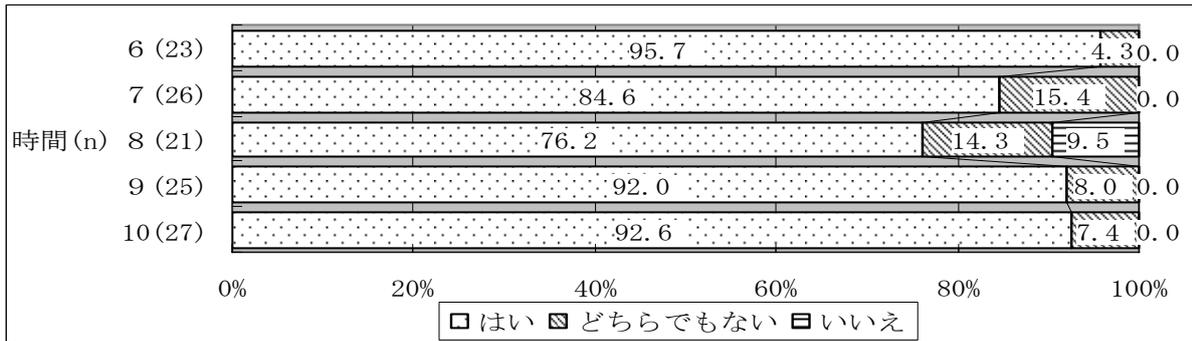


図3-18「運動」「いろいろな動きやイメージをみつけられた」の6時間目から10時間目の比較

図3-19は、「変化」、「めりはりのある動きをつくれた」の6時間目から10時間目の比較である。9時間目、10時間目で8割以上の生徒が「めりはりのある動きをつくれた」と回答している。

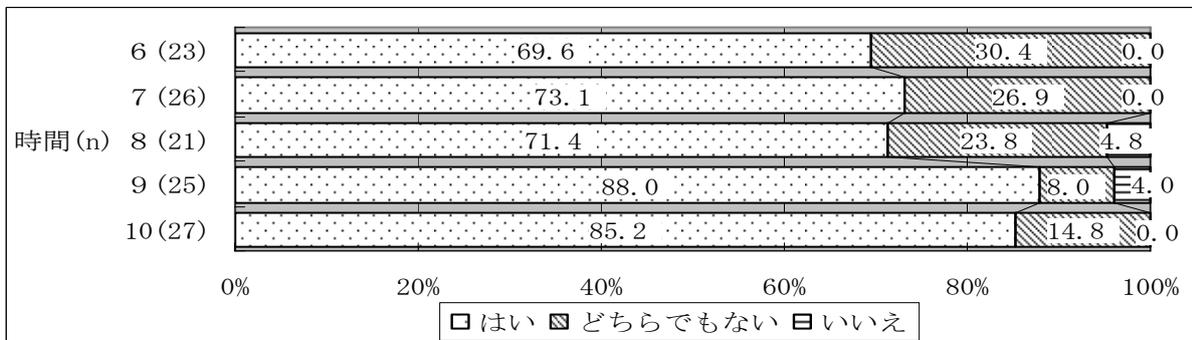


図3-19「変化」「めりはりのある動きをつくれた」の6時間目から10時間目の比較

図3-20は、「変化」、「いろいろな空間の使い方をみつけられた」の6時間目から10時間目の比較である。9時間目、10時間目で8割以上の生徒が「いろいろな空間の使い方をみつけられた」と回答している。

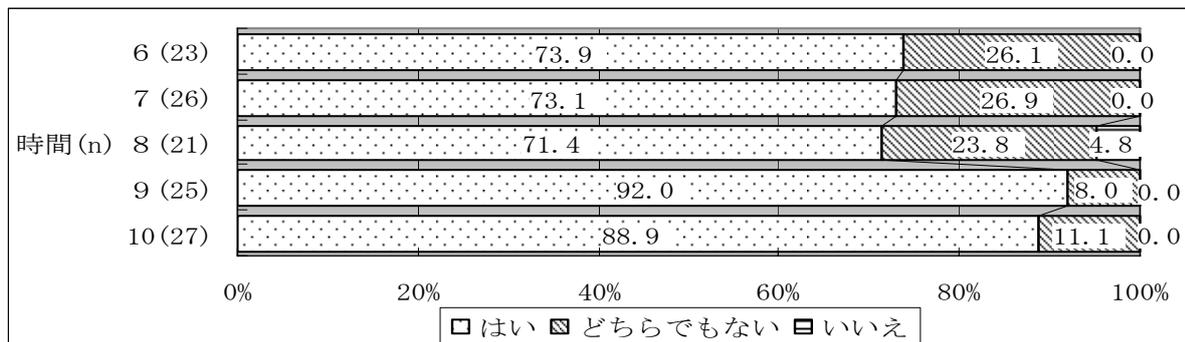


図3-20 「変化」 「いろいろな空間の使い方をみつけられた」 の6時間目から10時間目の比較

図3-21は、「連続」、「めりはりをつけて踊れた」の6時間目から10時間目の比較である。9時間目、10時間目で8割以上の生徒が「めりはりをつけて踊れた」と回答している。

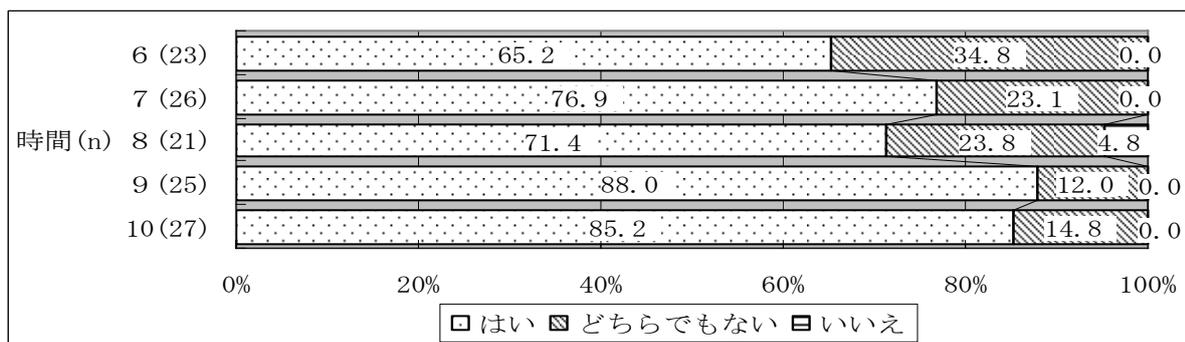


図3-21 「連続」 「めりはりをつけて踊れた」 の6時間目から10時間目の比較

図3-22は、「連続」、「新しい動きやイメージをみつけられた」の6時間目から10時間目の比較である。7時間目、9時間目で9割以上の生徒が「新しい動きやイメージをみつけられた」と回答している。

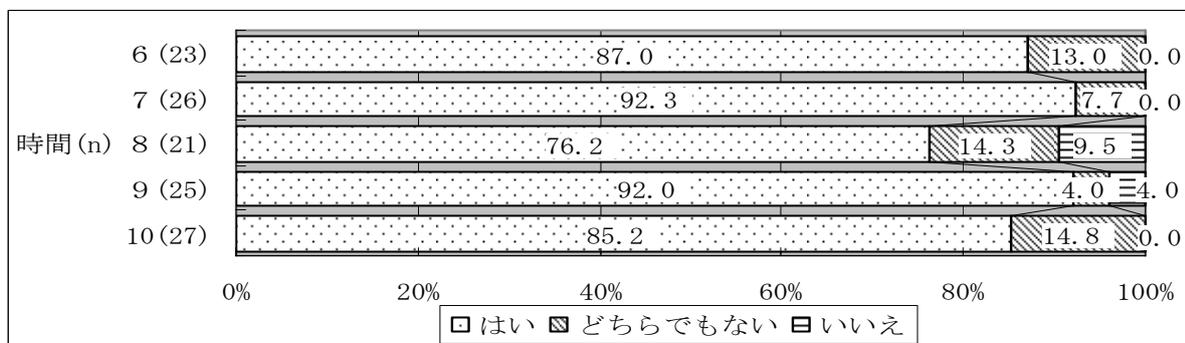


図3-22 「連続」 「新しい動きやイメージをみつけられた」 の6時間目から10時間目の比較

図3-23は、「構成」、「視線をいかして踊れた」の6時間目から10時間目の比較である。9時間目、10時間目で8割以上の生徒が「視線をいかして踊れた」と回答している。

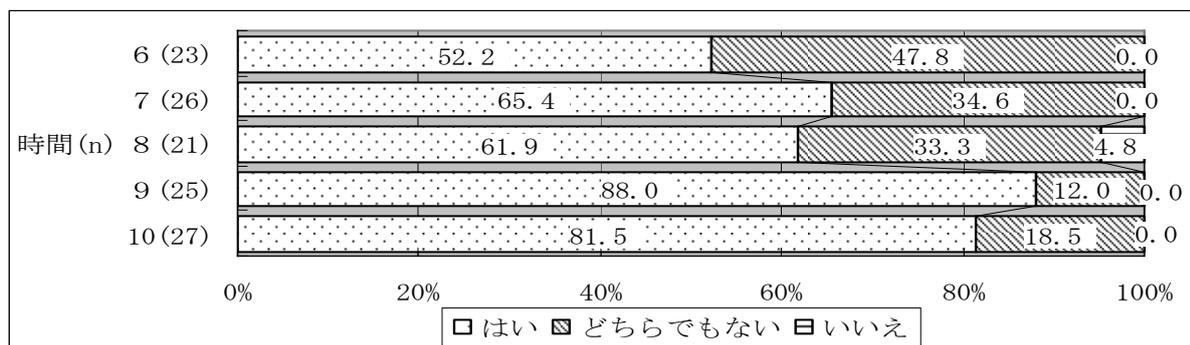


図3-23 「構成」「視線をいかして踊れた」の6時間目から10時間目の比較

図3-24は、「構成」、「場面変化のある作品をつくれた」の6時間目から10時間目の比較である。10時間目で9割以上の生徒が「場面変化のある作品をつくれた」と回答している。

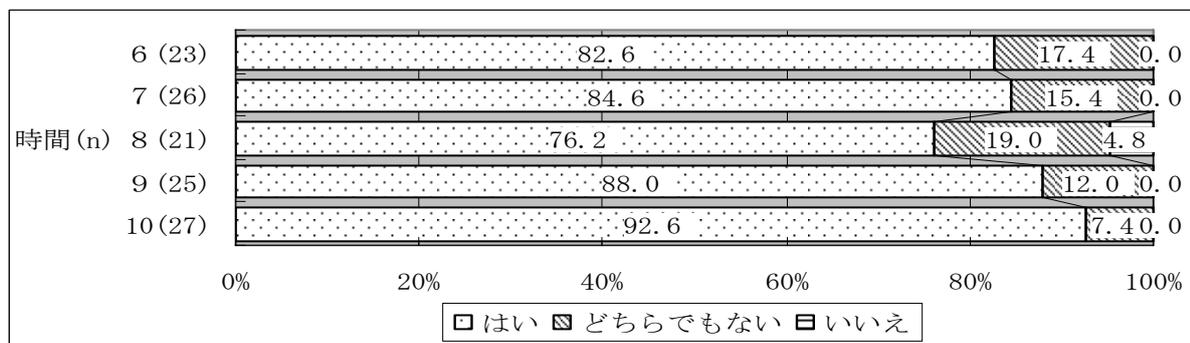


図3-24 「構成」「場面変化のある作品をつくれた」の6時間目から10時間目の比較

図3-25は、「作品」、「人にわかる作品をつくれた」の6時間目から10時間目の比較である。9時間目、10時間目で8割以上の生徒が「人にわかる作品をつくれた」と回答している。

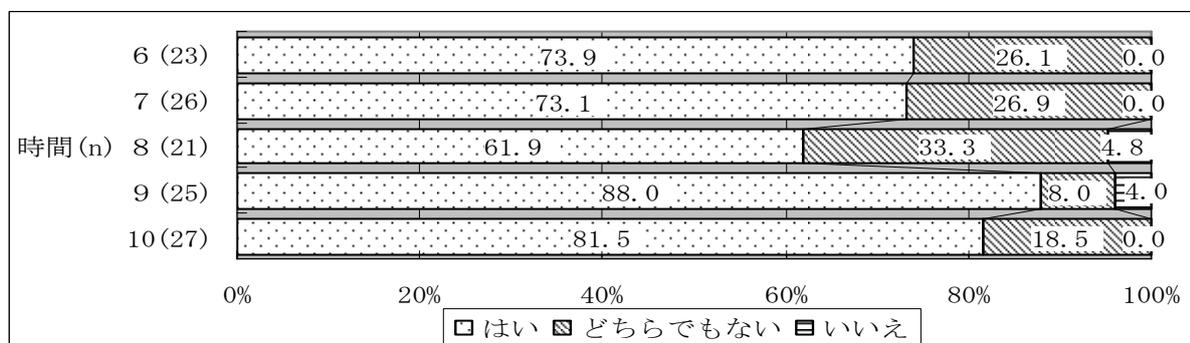


図3-25 「作品」「人にわかる作品をつくれた」の6時間目から10時間目の比較

図3-26は、「作品」、「ふさわしい動きをつくれた」の6時間目から10時間目の比較である。毎時間、約8割以上の生徒が「ふさわしい動きをつくれた」と回答している。

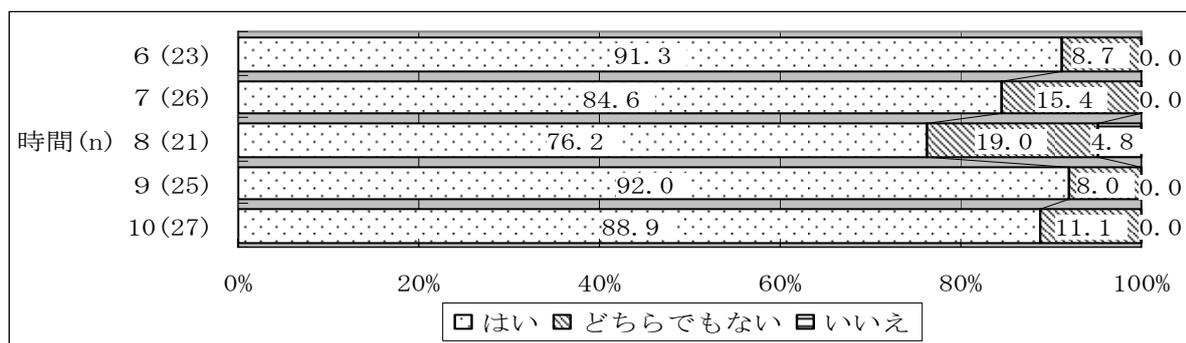


図3-26 「作品」 「ふさわしい動きをつくれた」の6時間目から10時間目の比較

(イ) VTRの分析

表3-4がVTR分析の結果である。

今回は、簡単な作品にまとめるということで、創作活動の10時間目の授業を分析した。

テーマや題材が感覚でとらえたものや心に浮かぶものごとで、動きに現されているかを3人の観察者でみて、3人とも動きに現されていると判断した生徒に○を付けて、イメージをとらえたと判断した。

生徒は、テーマや題材を感覚でとらえたものや心に浮かぶものごとで、動きに現していたことからイメージをとらえることができていたと考えられる。

表3-4 「簡単な作品にまとめる学習過程でイメージをとらえることができたか」 VTR分析

班	テーマ	題材	班員	イメージをとらえているか	
				○とらえている	×とらえていない
1	働く人	畑を耕す、種まき、スプリンクラー・みんなで水になる、成長してかぶになる、かぶを引っっこ抜く、出荷、お店(いらっしやいませ・ありがとうございました)	1	○	
			2	○	
			3	○	
			4	○	
			5	○	
			6	○	
2	冬春夏	冬：スキー、雪合戦、雪ころがし 春：桜が咲いてから散る 夏：スイカ割り、ビーチバレー 海水浴、花火	1	○	
			2	○	
			3	○	
			4	○	
			5	○	
			6	○	
3	夏秋冬	夏：波、泳ぐ、溺れる、助ける、ビーチバレー、線香花火 秋：運動会(ソーラン・綱引き) 冬：冬、雪合戦、寒くてコタツへ入る	1	○	
			2	○	
			3	○	
			4	○	
			5	○	
			6	○	

4	夏秋冬	夏：ビーチバレー、水泳、花火 秋：食欲の秋（ご飯を食べる）、読書 冬：スキー、雪合戦、雪だるまを作る	1	○
			2	○
			3	○
			4	○
			5	○
			6	○
5	冬春夏	冬：おしくらまんじゅう、雪合戦 春：桜が咲いてから散る 夏：花火	1	○
			2	○
			3	○
			4	○
			5	○
			6	○

(2) イ「簡単な作品にまとめる学習過程でイメージをとらえることができたか」についての考察

「おどる・つくる」の1時間ごとの比較（6時間目から10時間目）から、授業が進むにつれて、「はい」と回答した生徒が増えている。（図3-18から図3-26）また、映像（VTR）から、生徒は、テーマや題材を感覚でとらえたものや心に浮かぶものごとで、動きに現していたことからイメージをとらえる様子が見られた。（表3-4）

これは、生徒が「運動」、「変化」、「連続」、「構成」、「作品」を取り入れた簡単な作品にまとめる学習過程で、授業が段階的に進む中で、1時間目から5時間目で行った「運動」から「連続」を生かし、場面変化のある作品やふさわしい動きが作れたからだと考えられる。

簡単な作品にまとめる学習過程での「おどる・つくる」では、8割以上の生徒がイメージをとらえることができたと考えられる。

ウ 学習過程全体を通してイメージをとらえることができたか

(ア) 「おどる・つくる」の事前・事後の比較

事前・事後アンケートで使用したP9の表2-7の「ダンス授業評価の構造」の「おどる・つくる」についての質問項目「18、19、22、13、17、15、16、20、21」を取り上げ、事前と事後で比較をした。結果は図3-27から図3-35のとおりである。

図3-27は、「運動」、「いろいろな動きやイメージをみつけられた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が51.7%から79.3%になり、「いいえ」と回答した生徒が34.5%から0%になった。

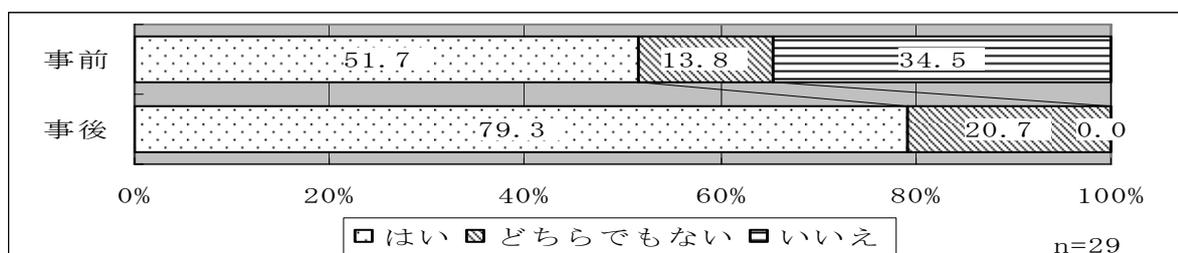


図3-27 「運動」「いろいろな動きやイメージをみつけられた」の事前・事後アンケートの比較

図3-28は、「変化」、「めりはりのある動きをつくれた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が48.3%から79.3%になり、「いいえ」と回答した生徒が34.5%から0%になった。

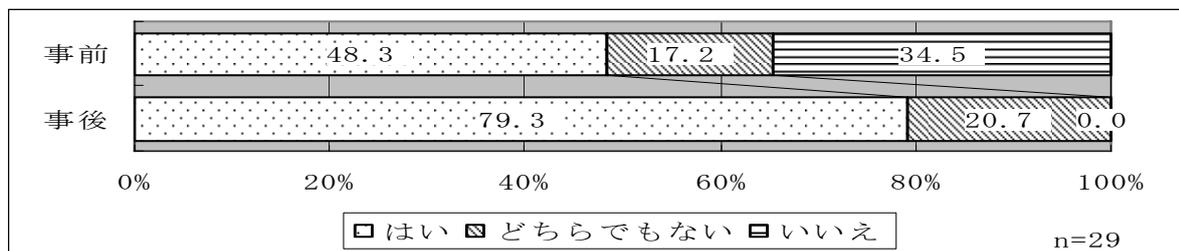


図3-28 「変化」「めりはりのある動きをつくれた」の事前・事後アンケートの比較

図3-29は、「変化」、「いろいろな空間の使い方をみつけられた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が48.3%から79.3%になり、「いいえ」と回答した生徒が31.0%から0%になった。

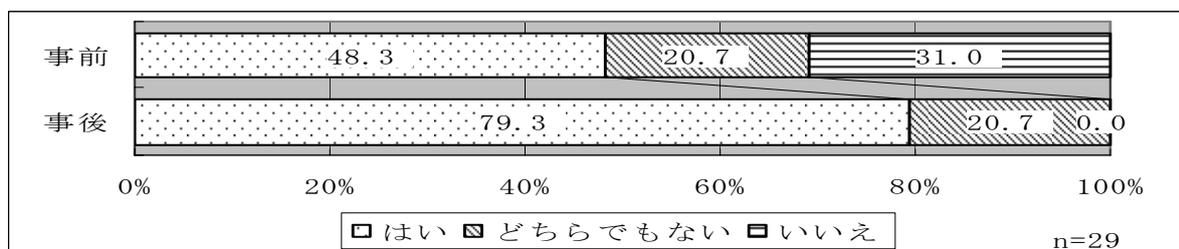


図3-29 「変化」「いろいろな空間の使い方をみつけられた」の事前・事後アンケートの比較

図3-30は、「連続」、「めりはりをつけて踊れた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が44.8%から75.9%になり、「いいえ」と回答した生徒が34.5%から0%になった。

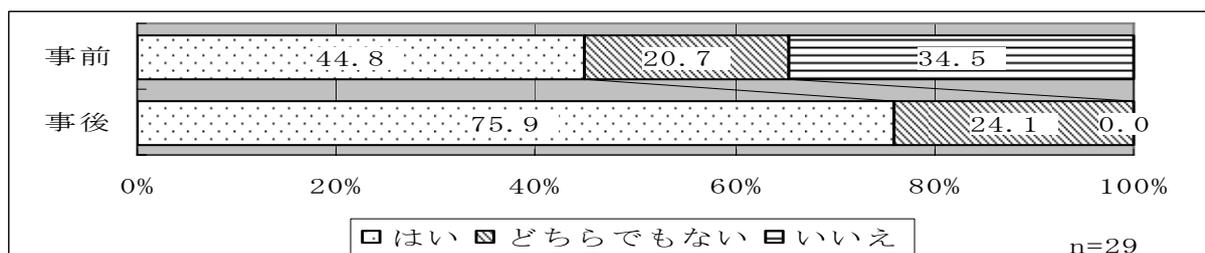


図3-30 「連続」「めりはりをつけて踊れた」の事前・事後アンケートの比較

図3-31は、「連続」、「新しい動きやイメージをみつけられた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が37.9%から79.3%になり、「いいえ」と回答した生徒が41.4%から0%になった。

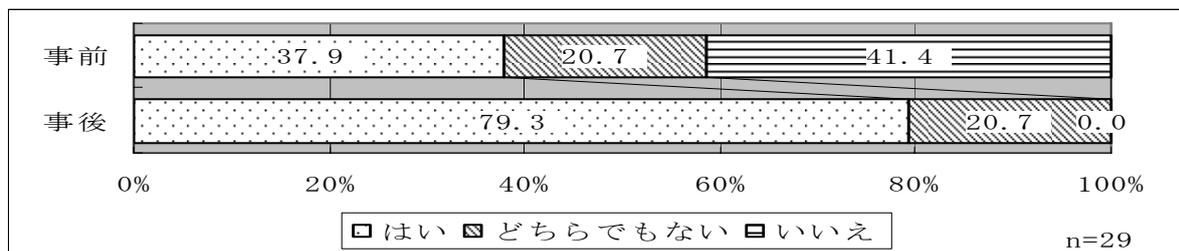


図3-31 「連続」「新しい動きやイメージをみつけられた」の事前・事後アンケートの比較

図3-32は、「構成」、「視線をいかして踊れた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が55.2%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が20.7%から6.9%になった。

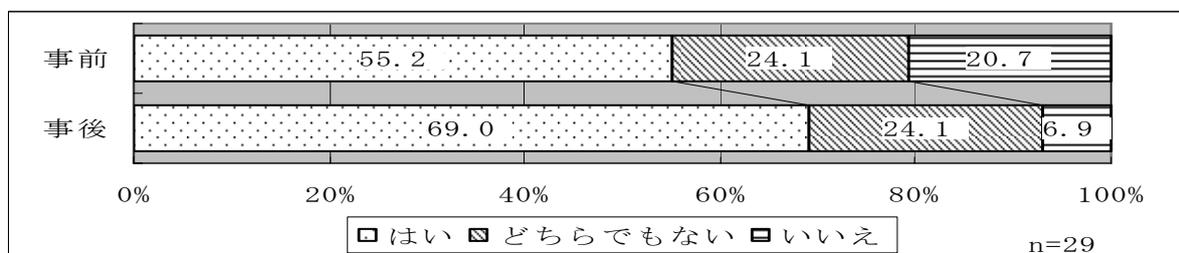


図3-32 「構成」「視線をいかして踊れた」の事前・事後アンケートの比較

図3-33は、「構成」、「場面変化のある作品をつくれた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が58.6%から79.3%になり、「いいえ」と回答した生徒が20.7%から0%になった。

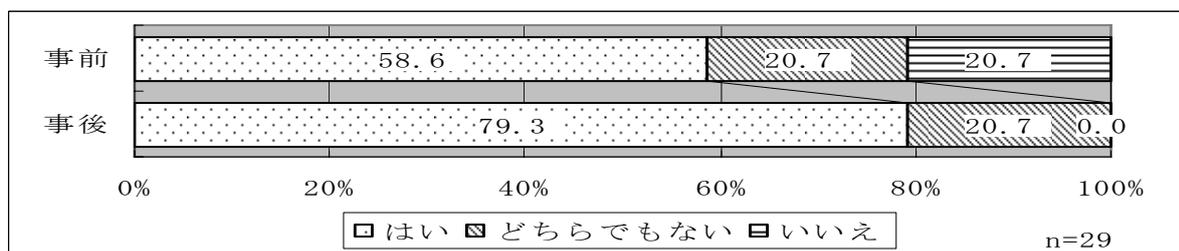


図3-33 「構成」「場面変化のある作品をつくれた」の事前・事後アンケートの比較

図3-34は、「作品」、「人に分かる作品をつくれた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が58.6%から72.4%になり、「いいえ」と回答した生徒が27.6%から0%になった。

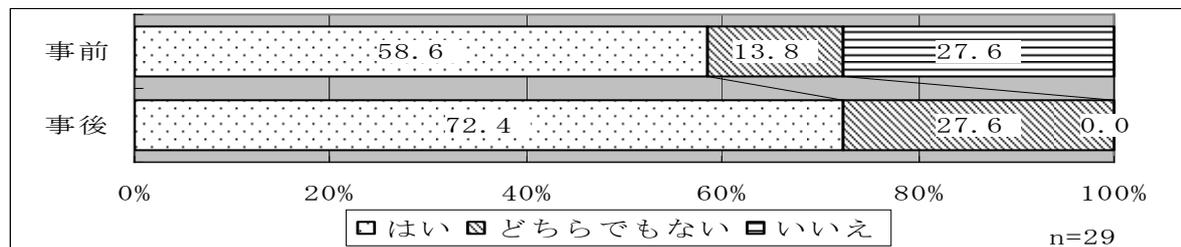


図3-34 「作品」「人にわかる作品をつくれた」の事前・事後アンケートの比較

図3-35は、「作品」「ふさわしい動きをつくれた」の事前・事後アンケート(1)の比較である。「はい」と回答した生徒が41.4%から75.9%になり、「いいえ」と回答した生徒が34.5%から0%になった。

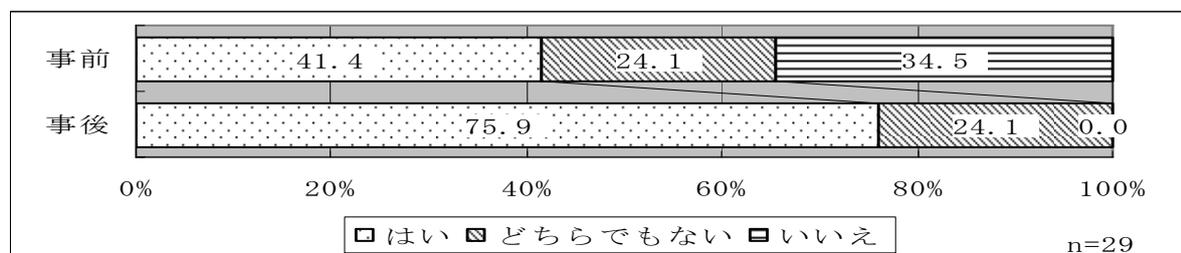


図3-35 「作品」「ふさわしい動きをつくれた」の事前・事後アンケートの比較

(イ) 「表現形式を取り入れることでイメージをとらえることができたか」

図3-36は、事後アンケートの「表現形式を取り入れることでイメージをとらえることができたか」の結果である。表現形式を取り入れることでイメージをとらえることができたと回答した生徒は、65.5%であった。

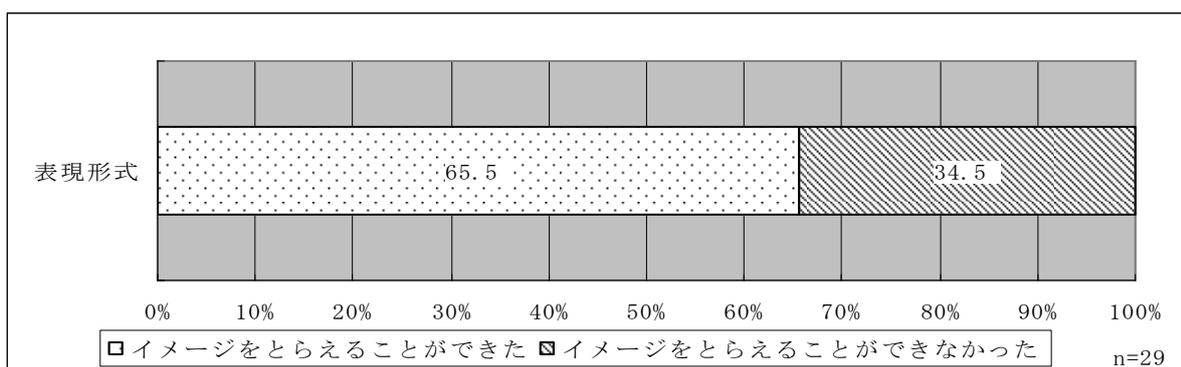


図3-36 「表現形式を取り入れることでイメージをとらえることができたか」の事後アンケート

## (2) ウ「学習過程全体を通してイメージをとらえることができたか」についての考察

「おどる・つくる」の事前・事後の比較から、事後で「はい」と回答した生徒が増え、「いいえ」と回答した生徒がいなくなった。(図3-27から図3-35) これは、授業を進めていく中で、「運動」でイメージをとらえ、「変化」で緩急強弱の動き・空間の使い方がわかり、「連続」でひと流れの動きがわかり、「構成」でひとまとまりの動きで表現をして踊れ、「作品」でイメージをとらえて、簡単な作品にして踊れたからだと考える。

また、事後アンケートの「表現形式を取り入れることでイメージをとらえることができたか」の割合は、65.5%で、概ね生徒はイメージをとらえることができたと回答している。(図3-36) これは、生徒が表現形式を取り入れて「運動」から「作品」へと段階的に進む中で、イメージをとらえることができたと考えられる。

## (2) まとめ

以上のことから、次のことが明らかになった。

- 即興的に表現する学習過程でイメージをとらえることができていた。
  - 簡単な作品にまとめる学習過程でイメージをとらえることができていた。
  - 学習過程全体を通してイメージをとらえることができていた。
- このことから、イメージをとらえることができたと考える。

### (3) 踊る楽しさや喜びを味わうことができたか

ア 表現形式を取り入れたダンスの授業で踊る楽しさや喜びを味わえたか

(ア) 学習ノートの記述内容の分析

記述内容を抜粋すると次のとおりである。(表3-5)

**表3-5 表現形式を取り入れたダンスの授業で踊る楽しさや喜びを味わえたかについての記述内容(抜粋)**

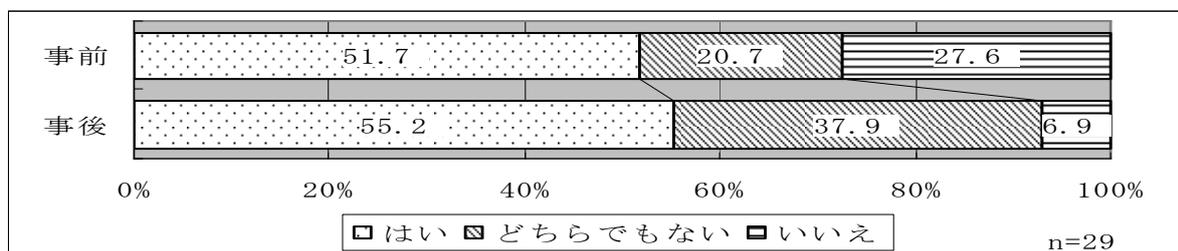
◇振り付けを通してできたとき楽しかった。
◇同じ班の人と話し合ったり考えて行動に移すことができよかった。
◇ダンスはあまり好きじゃないけどこの授業で結構楽しいと思えた。
◇一緒に作るのが面白かったと思う。
◇グループの班員や見ている他のグループの人たちと笑い合って楽しくダンスできた。
◇あまりかかわりを持たない人とも踊れたこと。
◇みんなで協力してダンスを作ることができたこと。

(イ) 「ダンスの楽しさ・魅力について」の事前・事後の比較

事前・事後アンケートで使用したP10の表2-8「村田芳子によるダンスの楽しさ・魅力に関する因子と項目」の18項目を取り上げ、事前と事後で比較をした。

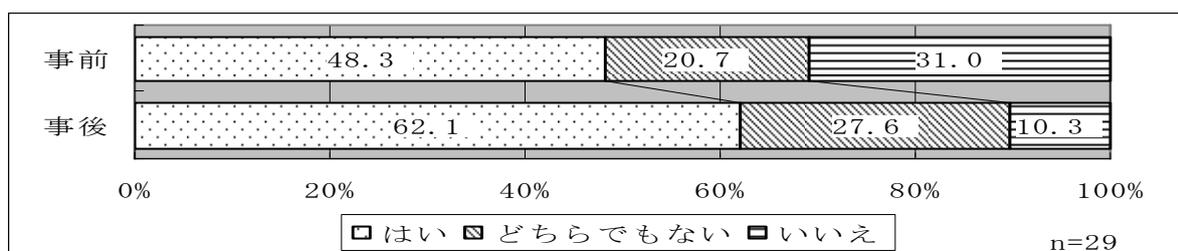
結果は図3-37から図3-54のとおりである。

図3-37は、「いつもの自分と違った自分になれる」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が51.7%から55.2%になり、「いいえ」と回答した生徒が27.6%から6.9%になった。



**図3-37 「いつもの自分と違った自分になれる」の事前・事後アンケートの比較**

図3-38は、「そのものになりきって踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が48.3%から62.1%になり、「いいえ」と回答した生徒が31.0%から10.3%になった。



**図3-38 「そのものになりきって踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較**

図3-39は、「からだをいっぱい使って思い切り踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が27.6%から62.1%になり、「いいえ」と回答した生徒が55.2%から6.9%になった。

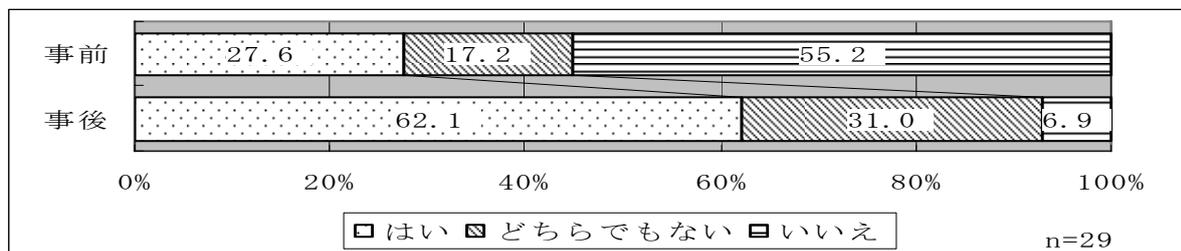


図3-39 「からだをいっぱい使って思い切り踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-40は、「いろいろな音楽のリズムに乗って踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が24.1%から65.5%になり、「いいえ」と回答した生徒が62.1%から3.4%になった。

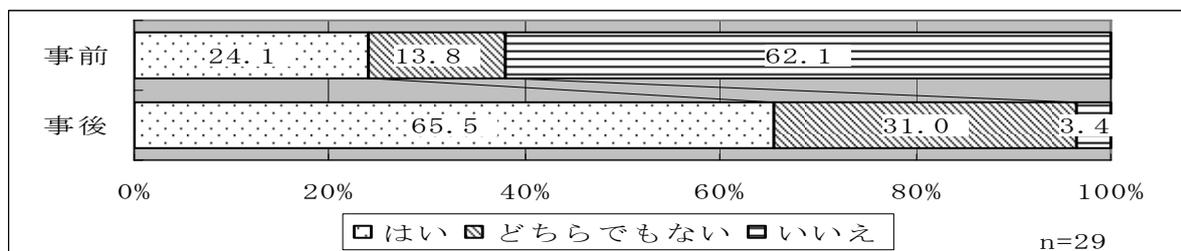


図3-40 「いろいろな音楽のリズムに乗って踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-41は、「他の種目にはない動きの面白さ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が37.9%から62.1%になり、「いいえ」と回答した生徒が48.3%から6.9%になった。

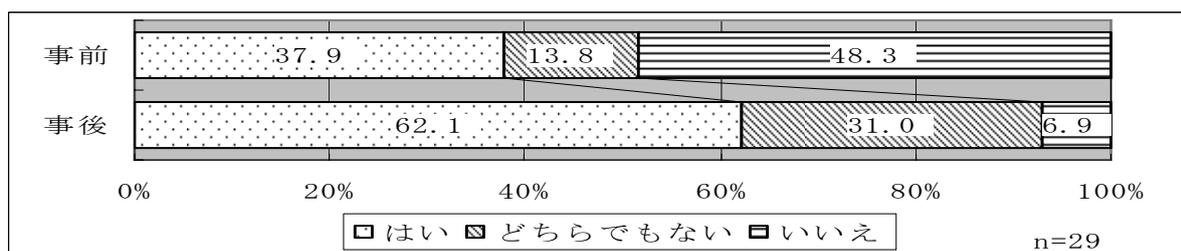


図3-41 「他の種目にはない動きの面白さ」の事前・事後アンケートの比較

図3-42は、「思いがけない動きやアイデアが偶然出てくる面白さ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が48.3%から62.1%になり、「いいえ」と回答した生徒が27.6%から3.4%になった。

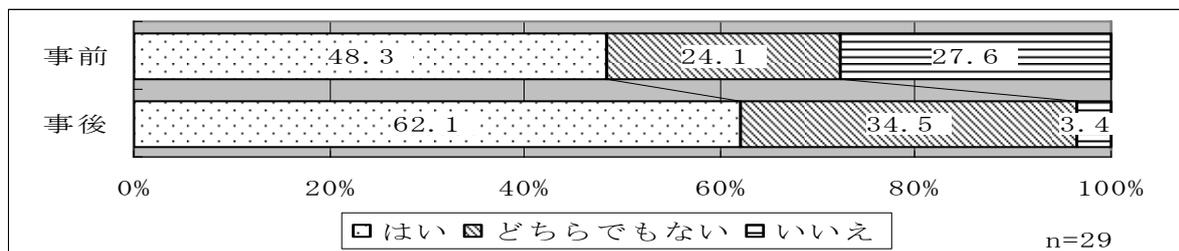


図3-42 「思いがけない動きやアイデアが偶然出てくる面白さ」の事前・事後アンケートの比較

図3-43は、「リズムの取り方や動きを工夫して踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が48.3%から65.5%になり、「いいえ」と回答した生徒が34.5%から6.9%になった。

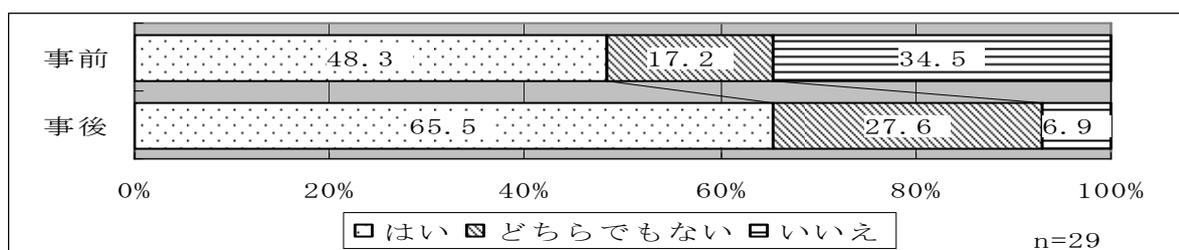


図3-43 「リズムの取り方や動きを工夫して踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-44は、「思いつくまま次々と自由に踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が44.8%から58.6%になり、「いいえ」と回答した生徒が31.0%から6.9%になった。

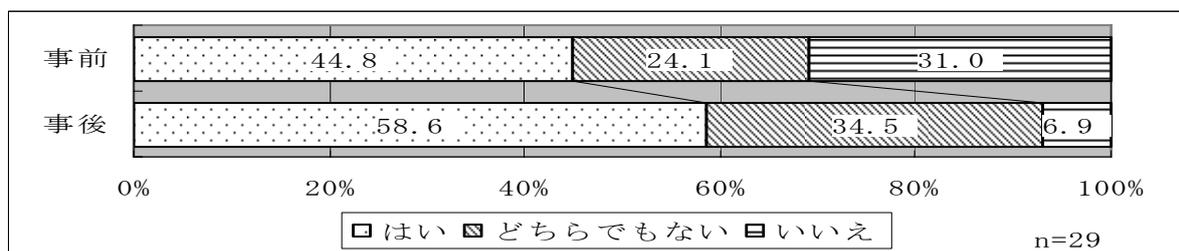


図3-44 「思いつくまま次々と自由に踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-45は、「いろいろな感じやイメージを動きで表現する楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が41.4%から58.6%になり、「いいえ」と回答した生徒が37.9%から6.9%になった。

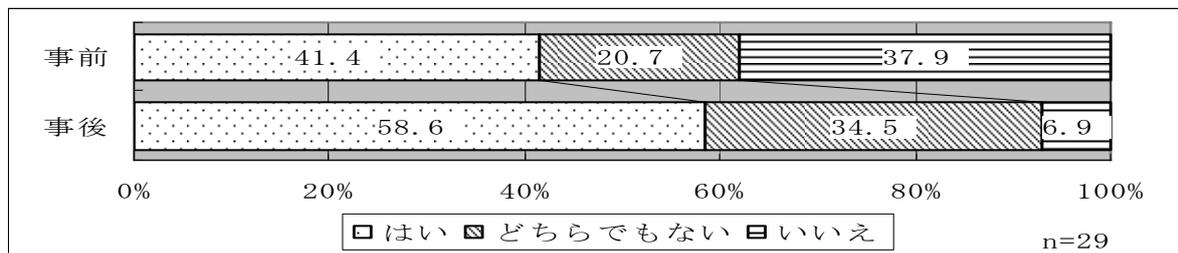


図3-45 「いろいろな感じやイメージを動きで表現する楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-46は、「表現の仕方や動き方をいろいろ工夫する楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が44.8%から58.6%になり、「いいえ」と回答した生徒が31.0%から6.9%になった。

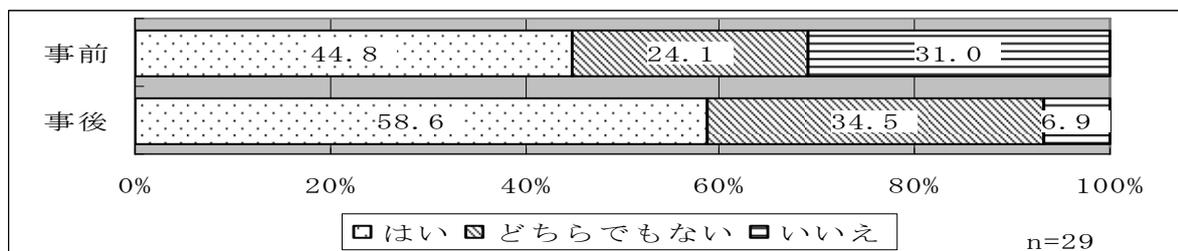


図3-46 「表現の仕方や動き方をいろいろ工夫する楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-47は、「踊っている自分を人に見てもらおう楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が44.8%から58.6%になり、「いいえ」と回答した生徒が24.1%から10.3%になった。

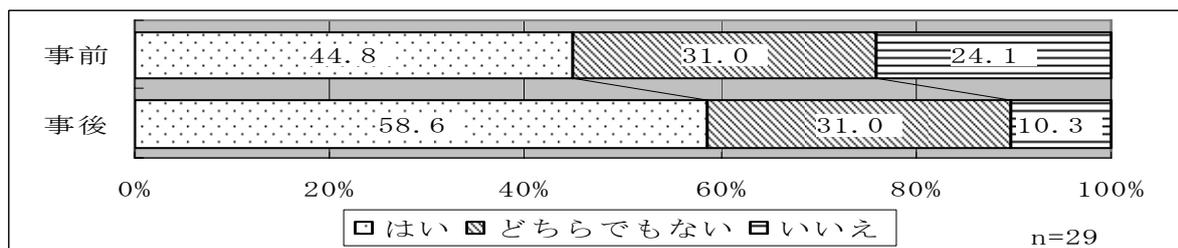


図3-47 「踊っている自分を人に見てもらおう楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-48は、「自分や友達の新しい一面や意外な一面を発見できる」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が34.5%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が48.3%から3.4%になった。

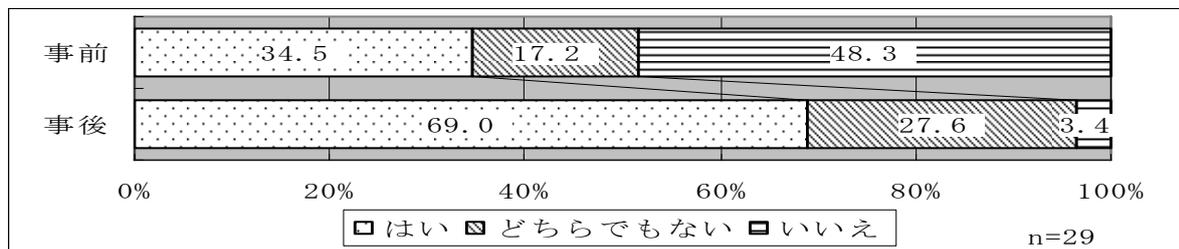


図3-48 「自分や友達の新しい一面や意外な一面を発見できる」の事前・事後アンケートの比較

図3-49は、「友達と自由に関わり合いながら一緒に踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が34.5%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が51.7%から3.4%になった。

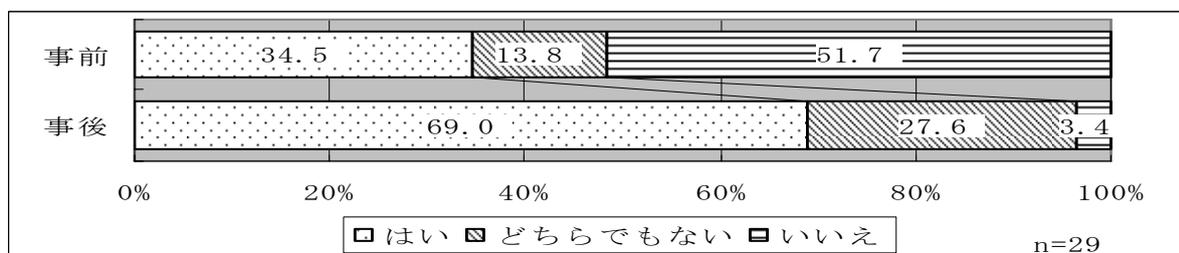


図3-49 「友達と自由に関わり合いながら一緒に踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-50は、「仲間との一体感を感じることが出来る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が31.0%から72.4%になり、「いいえ」と回答した生徒が51.7%から3.4%になった。

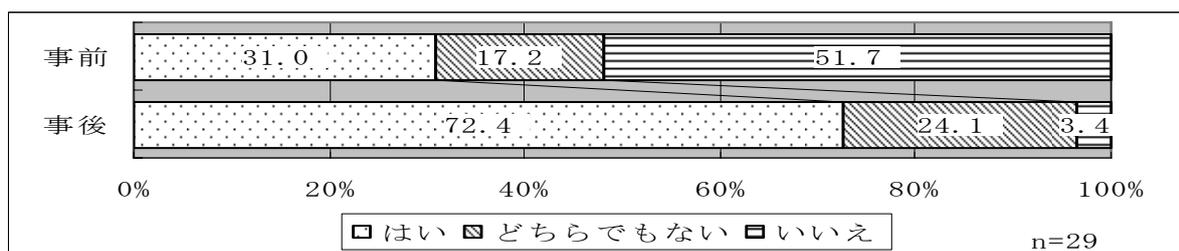


図3-50 「仲間との一体感を感じることが出来る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-51は、「友達と意見を出し合い協力して作品を創る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が44.8%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が44.8%から0%になった。

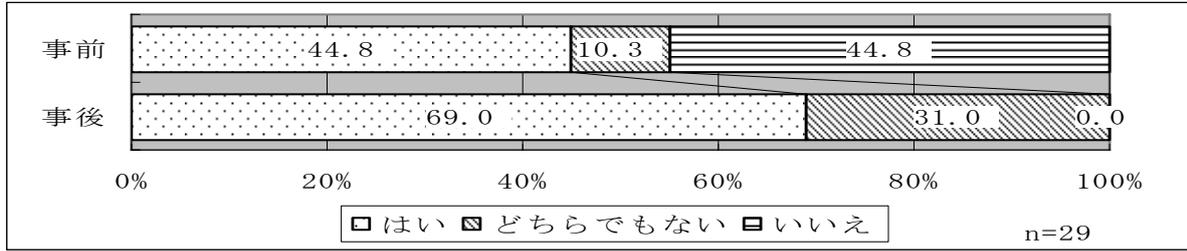


図3-51 「友達と意見を出し合い協力して作品を創る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-52は、「作品が出来上がったときに感じる達成感」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が34.5%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が55.2%から0%になった。

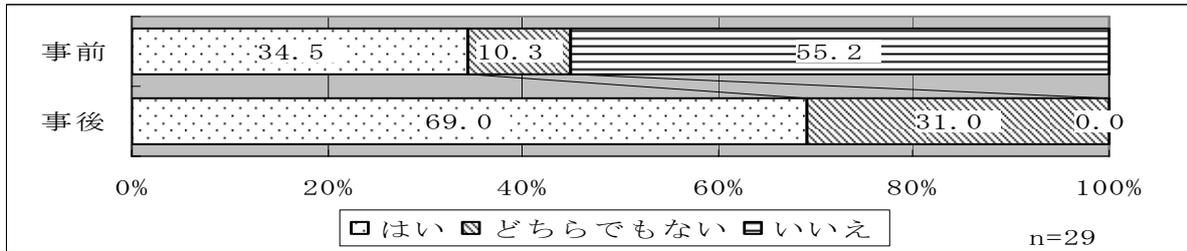


図3-52 「作品が出来上がったときに感じる達成感」の事前・事後アンケートの比較

図3-53は、「既成の創作作品を覚えて踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が37.9%から65.5%になり、「いいえ」と回答した生徒が41.4%から0%になった。

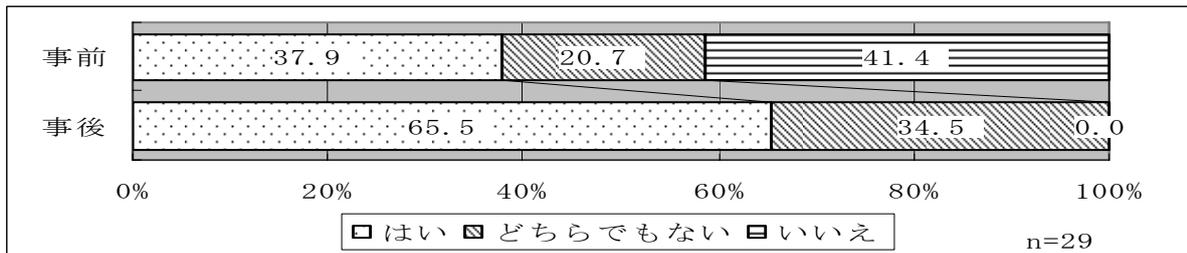


図3-53 「既成の創作作品を覚えて踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

図3-54は、「決められたステップや動きを覚えて踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が44.8%から69.0%になり、「いいえ」と回答した生徒が31.0%から0%になった。

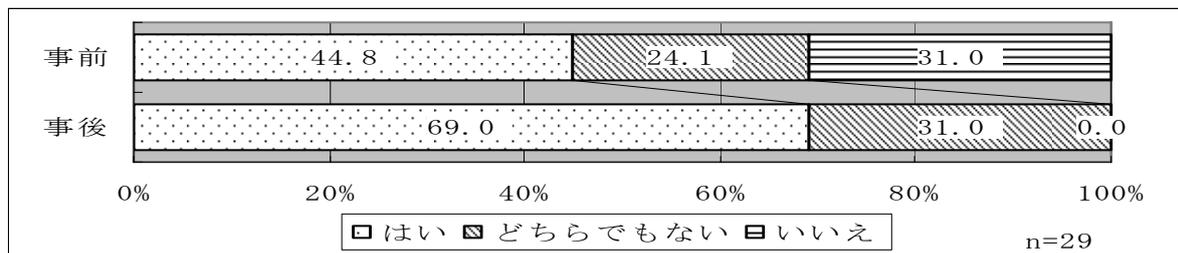


図3-54 「決められたステップや動きを覚えて踊る楽しさ」の事前・事後アンケートの比較

(ウ) 「踊る楽しさや喜びを味わうことができたか」

図3-55は、事後アンケートの「創作ダンスの授業で踊る楽しさや喜びを味わうことができたか」の結果である。踊る楽しさや喜びを味わうことができたと回答した生徒は、62.1%であった。

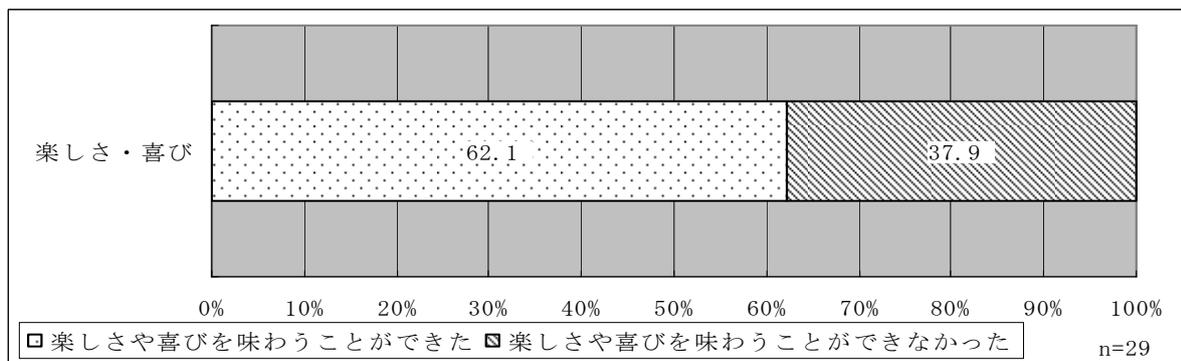


図3-55 「踊る楽しさや喜びを味わうことができたか」の事後アンケート

### (3) ア 「表現形式を取り入れたダンスの授業で踊る楽しさや喜びを味わえたか」についての考察

事前・事後アンケートの比較からは、楽しさについては、事後で「はい」と回答した生徒が増え、「いいえ」と回答した生徒は減るかなくなった。(図3-37から図3-54)

これは、今回の創作ダンスの授業で、表現形式を取り入れたことや見せ合い、グループワークといった活動を通して、創作ダンスのイメージをとらえて踊る楽しさや人に見てもらい楽しさ、人とかかわる楽しさなど、いろいろな楽しさを味わったと考えられる。

また、事後アンケートの「創作ダンスの授業で踊る楽しさや喜びを味わうことができたか」の割合は、62.1%で、概ね生徒は踊る楽しさや喜びを味わうことができたと回答している。

(図3-55) これは、概ね生徒が表現形式を取り入れた授業で、イメージをとらえ踊る楽しさや喜びを味わうことができたと考えられる。

### (3) まとめ

以上のことから、次のことが明らかになった。

○表現形式を取り入れたダンスの授業で踊る楽しさや喜びを味わえた。

このことから、踊る楽しさや喜びを味わうことができたと考える。

## 6 指導の工夫とその効果及び課題

### (1) 場の工夫

#### ア 見せ合いと相互評価

##### (ア) 「わかる」の事前・事後の比較

事前・事後アンケートで使用したP 9の表2-7の「ダンス授業評価の構造」の「わかる」を参考とし他者評価の活動について質問項目「7、25、26、28、24」を事前と事後で比較した。その結果は、図3-56から図3-60のとおりである。

図3-56は、「友だちの意見を取り入れられた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が31.0%から82.8%になり、「いいえ」と回答した生徒が62.1%から0%になった。

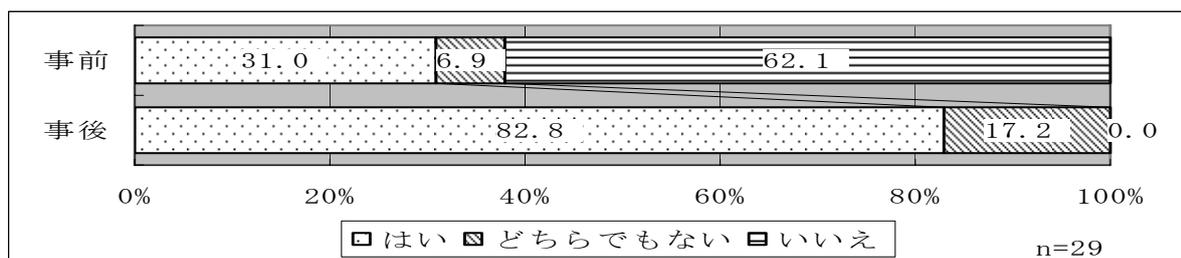


図3-56「友だちの意見を取り入れられた」の事前・事後アンケートの比較

図3-57は、「表現のよい点・悪い点がわかった」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が48.3%から79.3%になり、「いいえ」と回答した生徒が31.0%から0%になった。

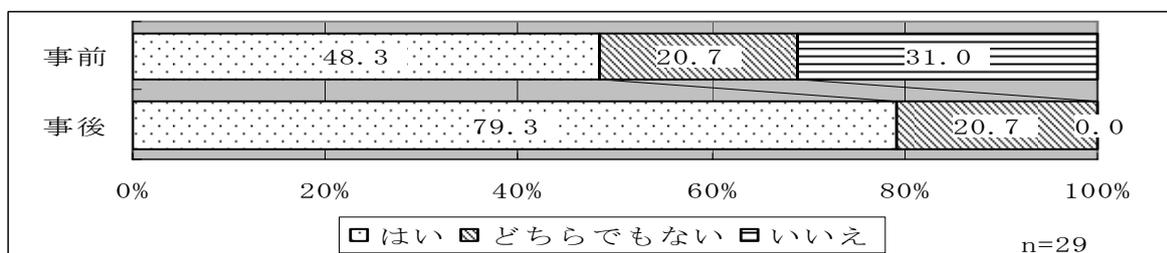


図3-57「表現のよい点・悪い点がわかった」の事前・事後アンケートの比較

図3-58は、「他の作品のおもしろさがわかった」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が51.7%から82.8%になり、「いいえ」と回答した生徒が34.5%から0%になった。

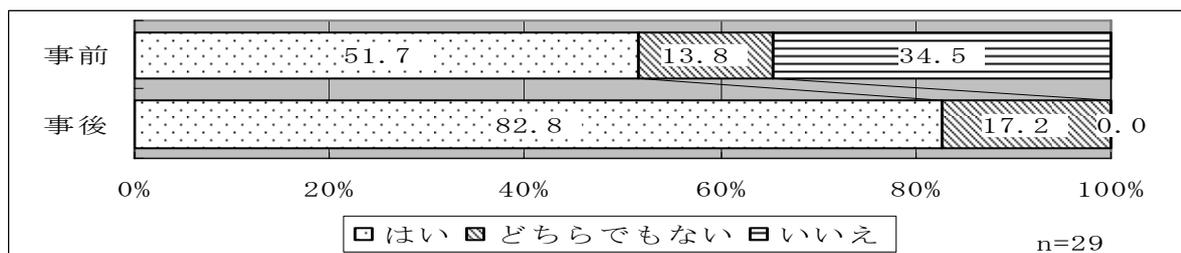


図3-58「他の作品のおもしろさがわかった」の事前・事後アンケートの比較

図3-59は、「人の感じ方、考え方がわかった」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が41.4%から82.8%になり、「いいえ」と回答した生徒が41.4%から0%になった。

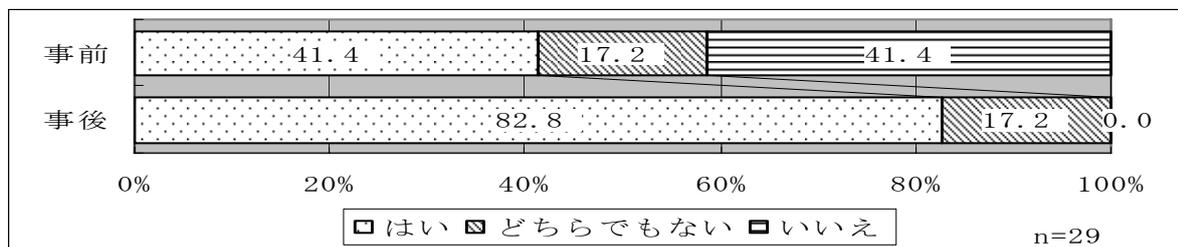


図3-59 「人の感じ方、考え方がわかった」の事前・事後アンケートの比較

図3-60は、「人の表現をみて自分の表現をなおせた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が48.3%から72.4%になり、「いいえ」と回答した生徒が27.6%から3.4%になった。

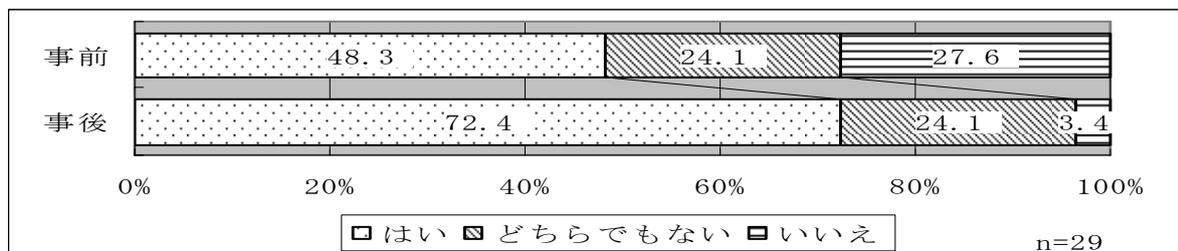


図3-60 「人の表現をみて自分の表現をなおせた」の事前・事後アンケートの比較

(イ) 「見せ合いがイメージをとらえるために有効でしたか」

図3-61は、事後アンケートの「見せ合いがイメージをとらえるために有効でしたか」の結果である。見せ合いがイメージをとらえるために有効でしたと回答した生徒は、53.6%であった。

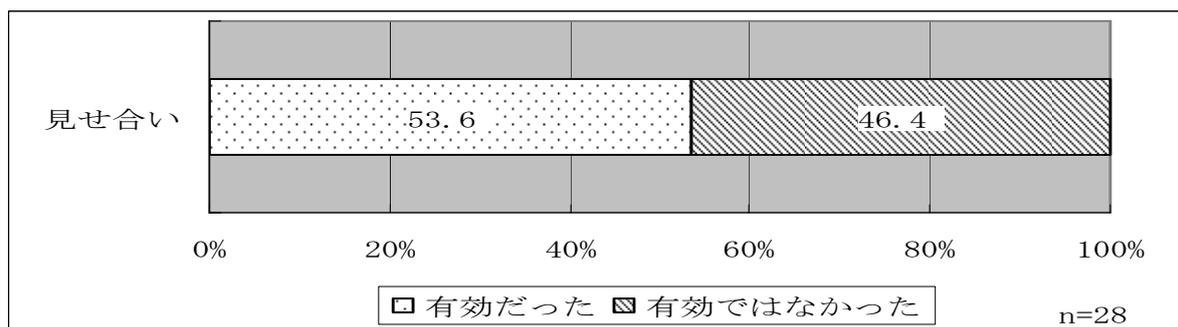


図3-61 「見せ合いが有効であったか」の事後アンケート

また、「見せ合い」の有効性と活用についての記述が表3-7である。

表3-7 「見せ合い」の有効性と活用についての記述

<p>○見せ合いのどのような点が有効だったか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他のグループのよいところや悪いところも分かってとても助かりました。</li><li>・いろんな動きを見ることによってヒントを得たりした。</li><li>・他のグループの動きを参考にできる。</li><li>・私が思いつかないような表現などを、見せ合いで勉強することができた。</li><li>・表現（他の）の仕方を知ったから。</li><li>・他の班のいいところを取り入れられる。</li><li>・他の作品を見ることでこんな使い方があるのかと自分たちの作品の参考にした。</li><li>・それぞれのグループがいろいろな面白い振り付けを考えていて楽しかった。</li><li>・その人が込めた感じが伝わってきた。</li><li>・人に見られて発見することや気づくことよいところなどを知ることができるからいいと思う。</li><li>・班で感想を言い合って、自分たちの班のイメージが客観的に分かっていたから。</li><li>・ダンス部がすごいと思った。</li></ul>
<p>○見せ合いを活用した点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・動きのヒントを得た。</li><li>・他のグループのいいところを探せて活用してみたりした。</li><li>・他のグループからの意見を言ってもらったのもあって、改善点が見つかって良かったこと。</li><li>・他の班のいいところを取り入れた。</li><li>・他のグループのを見て、いいところがあったら、活用してみたりなど、他のグループのいいところを探せた。</li><li>・言われた意見を参考に、よりよいダンスを目指した。</li><li>・元気に笑顔でやること。</li><li>・中間の見せ合いで他のグループの発表を見て感じたことや面白いと思ったことを次の自分のグループの振り付けに反映できた。</li><li>・よいといわれたことは伸ばしていき、他の班のよいところは少しまねして、取り入れてみたりした。</li></ul>
<p>○見せ合いがなぜ有効でなかったか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1回1回見せ合う必要性を感じない。見せ合う時間より考える時間が欲しい。</li><li>・自分のグループが他のグループより早く進んでいたから。</li><li>・他の人を見たら、あせるしまねできないから、その時間をもっと練習したかった。</li><li>・毎時間見なくてもよかった。見る時間を作品作りにあてたかった。</li><li>・自分たちの踊りに手一杯で、他のグループをしっかりと見ることが出来なかった。</li><li>・発表の意味が薄れてしまった気がします。</li><li>・全然できていないのに見せ合いをしてもよいところが見つけれなかった。</li><li>・何回もやっていて最後の発表の意味がない気がしたから。</li></ul>
<p>○見せ合いをどのように活用すればよかったか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・見せ合いを減らして、作品作りにあてたかった。回数が問題だったと思う。〈時間・頻度〉</li><li>・最後の3時間ぐらいで見せ合いをすれば有効だったと思う。お互いがある程度同じ時に見せ合わないと思いました。〈タイミング〉</li><li>・1つのグループをみんなで見た方が多くの意見が集まるとするテーマを統一する。〈方法〉</li></ul>

見せ合いの効果は、他の班のよさを取り入れたり、見られることでわかることがある点で効果はあったと考えられる。

また、指導の上で、活動空間を交代で確保することは、安全面や見る側の学習態度や授業の雰囲気を作ることになった。

#### イ グループ学習（グループワーク）

グループは、4時間目までは固定せず即興的な作品をその場で生徒同士で調整し、5時間目から、創作のグループワークでメンバーを授業者で決めた。それまでの様子で動ける生徒や役割が偏らないように配置した。仲間関係は、それまでの体育の担当者や担任に確認した。また、事前・事後アンケートで使用したP9の表2-7の「ダンス授業評価の構造」の「かわる」を参考とし、グループ学習について質問項目「11、5、6、10、3」を取り上げて、事前と事後で比較をした。その結果は、図3-62から図3-66のとおりである。

図3-62は、「友だちと気持ちをひとつにして踊れた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が37.9%から82.8%になり、「いいえ」と回答した生徒が51.7%から0%になった。

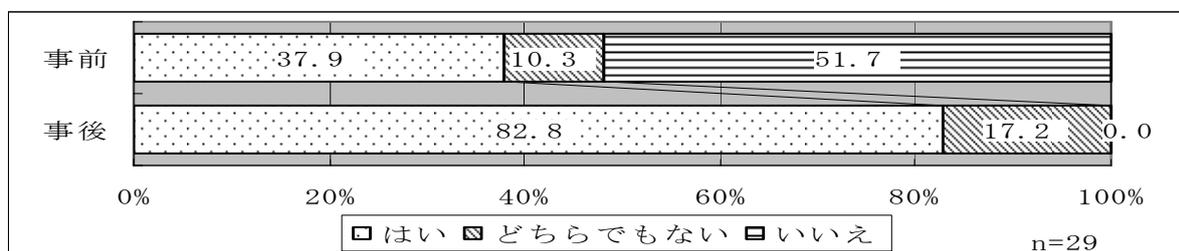


図3-62 「友だちと気持ちをひとつにして踊れた」の事前・事後アンケートの比較

図3-63は、「みんなで作品を作れた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が34.5%から86.2%になり、「いいえ」と回答した生徒が62.1%から0%になった。

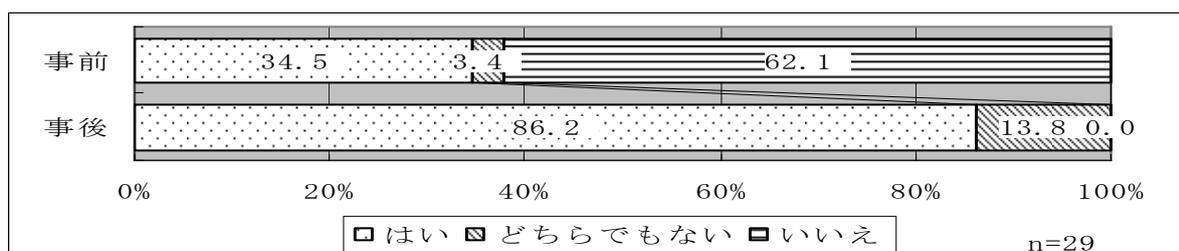


図3-63 「みんなで作品を作れた」の事前・事後アンケートの比較

図3-64は、「友だちと仲よく学習できた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が31.0%から86.2%になり、「いいえ」と回答した生徒が65.5%から0%になった。

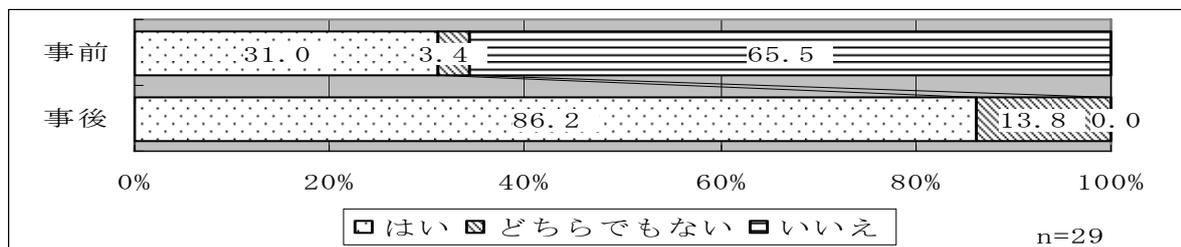


図3-64 「友だちと仲よく学習できた」の事前・事後アンケートの比較

図3-65は、「教え合ったり助け合ったりできた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が37.9%から82.8%になり、「いいえ」と回答した生徒が55.2%から0%になった。

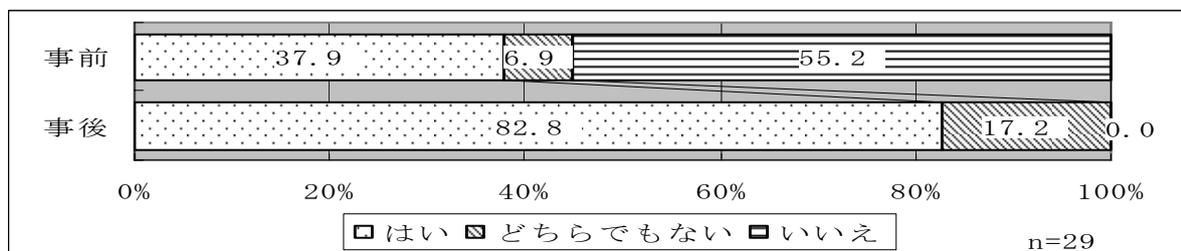


図3-65 「教え合ったり助け合ったりできた」の事前・事後アンケートの比較

図3-66は「表現を認め合うことができた」の事前・事後アンケートの比較である。「はい」と回答した生徒が31.0%から82.8%になり、「いいえ」と回答した生徒が51.7%から0%になった。

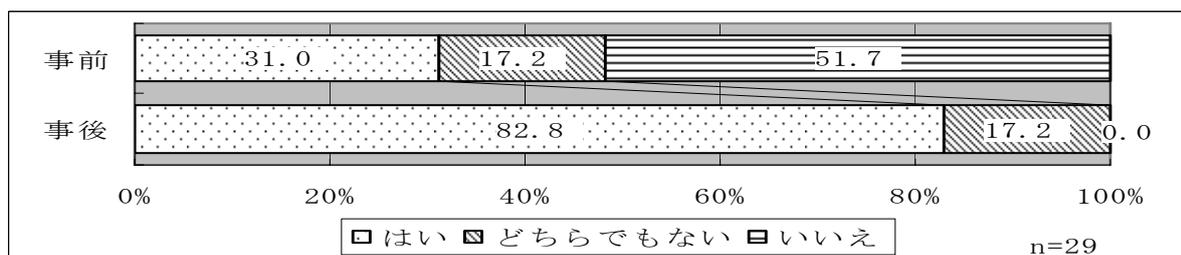


図3-66 「表現を認め合うことができた」の事前・事後アンケートの比較

授業を実施した中で、グループワークをとりれたことが、短時間で動きを作ることに効果があったと思う。

## (2) 教材・教具の工夫について

### ア スライド映像の活用

授業にスライド映像によるプレゼンテーションを取り入れた。

主に単元の最初では「整列の場所」「連絡事項」、毎時の表示は「本時のねらい」「学習内容」を画面表示した。

学習ノートは、記入の必要な画面を縮小して記入欄を再確認できるように工夫した。

効果としては、画面とノートでマネジメントの時間短縮となり、活動量の確保となった。

課題としては、演示を兼ねながらの画像の位置の調整があり、遠隔操作などの機能の使用が必要だった。

## 7 検証授業全体を振り返って

ここまで、今回の検証授業について、分析の視点に沿って振り返ってきたが、ここでは、検証授業全体を振り返っていきたい。

今回の授業では、様々な準備をし、10時間という計画を立て、段階をおって手立てを考え授業にのぞんだことで、生徒がイメージをとらえ創作ダンスの楽しさや喜びを味わうことができたと思う。その中で、生徒の活動する時間をしっかりと確保することの重要性を強く感じた。

見せ合いの有効性のところで、生徒の記述内容にあったように、創作の進んでいるグループは見せ合いを有効としたが、進んでいないグループはもっとグループとしての時間が欲しいと感じていた。その点から創作のテーマを提示してから発表までが5時間であったこと、単元全体が10時間であったことについて、あらためて検討する必要があると感じている。

また、授業を展開していく中で、毎時間のねらいを達成させるための手立てを考え、学習内容を明確にし、生徒に伝えるための「ことば」と考えさせるための「発問」をはっきりさせて提示していくことの大切さを感じた。それと、生徒が心を開放して伸び伸びと活動することと授業規律を守ること、自由に動くことと安全を確保することなどの「マネジメント」が大切であると感じた。

## 第4章 研究のまとめ

### 1 研究の成果と課題

本研究では、授業に表現形式を取り入れることによって、イメージをとらえて踊る創作ダンスの授業実践に取り組み、ダンスの特性に触れる授業づくりに役立つ提案を行うことを目的に研究を進めてきた。その結果、次のことが明らかになった。

- 表現形式を踏まえるには、「即興的に表現する」過程と「簡単な作品にまとめる」過程の2段階の設定がのぞましいと考えられる。
- イメージをとらえて踊る楽しさや喜びを味わうために、表現形式を取り入れることは有効であったと考えられる。
- 見せ合い・相互評価は、他の班や人のよさを取り入れられることや見られることでわかることがあり、新たに発見することや気付くことで、作品をつくる過程で効果的であったと考えられる。
- グループ学習（グループワーク）は、教え合ったり、助け合ったり、認め合うことで作品を作る過程で効果的であったと考えられる。

ダンスの授業において、「表現形式（運動・変化・連続）」と「表現形式（運動・変化・連続・構成・作品）」の2段階の学習過程を設定し、「見せ合い・相互評価」「グループ学習（グループワーク）」を取り入れることによって、イメージをとらえ、即興や作品として踊れるようになる創作ダンスの指導法を提案したい。

また、この研究の主題に関わる課題として次のようなことが考えられる。

- 表現形式について  
表現形式は手立てとしては良かったと思うが、表現形式の理解が不十分であったり、イメージをとらえることに少しとまどったり、恥ずかしさや抵抗感がとれない生徒がいたので、表現形式を理解しやすい提示の仕方や生徒が心を開放して伸び伸びと活動できる手立てが必要だと考える。
- 見せ合い・相互評価について  
創作する時間と見せ合い・相互評価を行う時間のバランスを考え、作品の出来上がり状況を見て回数を考えることが必要だと考える。また、全体のグループを半分にして見るのか、1つのグループをみんなで見るのかなどいろいろな方法を検討することが必要だと考える。

### 2 今後の展望

今回の研究は、新しい高等学校学習指導要領の創作ダンスの入学年次の内容に表現形式という手立てを用いて実施した。

今後の展望としては、系統性を踏まえ、中学校との接続をさらに考えて、表現形式を踏まえ、学習内容を明確にして、授業に取り組んでいくことを考える必要がある。

今回は直接的イメージをとらえる段階を検証したが、イメージは、直接的イメージから間接的イメージへと深まりをもっているため、その次の年次以降の創作ダンスの授業では、深めていくために、心の中にある思いや感情を表現できるような手立てを考える必要がある。また、恥ずかしさという課題に対しても手立てを考える必要がある。

授業時間数については、今回は10時間で展開したが、学校の実態や生徒の状況にもよるが、入学年次では15時間程度、その次の年次以降では15時間から25時間程度の時間数が適当ではないかと考え、単元計画を作成する必要がある。

授業を展開していく中で、毎時間のねらいを達成させるための手立てとして、生徒に伝えるための「ことば」と考えさせるための「発問」をはっきりさせて提示していくこと、生徒が心を開放して伸び伸びと活動できる学習内容の工夫、授業規律を守ること、安全を確保することなどのマネジメントを考える必要がある。

### 3 最後に

今まで、創作ダンスの授業で「テーマや動きのイメージがもてない」、「動くことに恥ずかしさがある」などの課題がありながら、その解決のための手立てをしてこれなかった私にとって、この1年間の研究は、多くのことを学ぶよい機会になった。多くの準備をし、手立てをもって授業にのぞむことで、生徒は今までには見ることができなかった動きを見せ、味わわせることができなかつた楽しさや喜びを味わうことができたと思う。

また、イメージをとらえたことで、創作ダンスの特性に触れることができた。このことは、私にとって何より嬉しかったことであり感動した。

今回の研究を通して、生徒の目線に立ち、学習内容を明確にし、学習活動を工夫した授業に取り組むことが大切であることをあらためて実感できた。

これからも、今回の研究での経験を生かし、生徒が領域、種目の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことができるように、授業を実践していきたい。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 山田敦子「舞踊の運動特性と運動形式」『舞踊学講義』 大修館書店 1991年3月
- 2) 櫛田芳美「身体表現としての舞踊教育」東亜大学 総合人間・文化学部『総合人間科学』第7巻 2007年3月
- 3) 中学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 平成20年3月告示
- 4) 高等学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 平成21年3月告示
- 5) 中学校学習指導要領解説保健体育編 文部科学省 東山書房 平成20年9月
- 6) 高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編 文部科学省 東山書房 平成21年12月
- 7) 村田芳子「中学校・高等学校のダンスの授業」『新訂体育科教育法講義』 大修館書店 1992年4月
- 8) 松本富子「ダンス（表現運動）の授業を評価する」『体育授業を観察評価する』 明和出版
- 9) 村田芳子「ダンスの授業はここが楽しい」『体育科教育』 大修館書店 2005年10月
- 10) 猪崎弥生「創作ダンスの知っておきたい知識」『中学校体育の授業』 大修館書店 2001年4月
- 11) 村田芳子「即興表現」『学校体育用語辞典』 大修館書店 1988年6月(2001年2月5版)
- 12) 村田芳子編著「イメージの広がりと深まり」「表現運動・ダンスの用語」『楽しい表現運動・ダンス』 小学館 1998年8月
- 13) 青木真「相互評価」『学校体育用語辞典』 大修館書店 1988年6月(2001年2月5版)
- 14) 細江文利「グループ学習」『学校体育用語辞典』 大修館書店 1988年6月(2001年2月5版)
- 15) 佐久間春夫「視覚手がかり」『学校体育用語辞典』 大修館書店 1988年6月(2001年2月5版)